

平成 2 2 年 度 津 市 総 合 計 画
前 期 基 本 計 画 中 間 見 直 し 報 告 書

平 成 2 3 年 3 月
津 市

目 次

1	前期基本計画の中間年度における見直しの考え方	1
(1)	目的	1
(2)	対象	1
(3)	方法	1
2	検討経過について	2
(1)	津市総合計画審議会	2
(2)	市議会まちづくり推進調査研究特別委員会	2
(3)	各地区地域審議会	2
(4)	津市総合計画基本計画推進検討委員会	3
3	見直し結果について	4
(1)	総合計画の総括的な推進に当たり、今後留意すべき事項	5
(2)	各重点プログラムごとの意見及び提言	6
< 参考資料 >		
(1)	津市総合計画審議会関係資料	14
(2)	市議会まちづくり推進調査研究特別委員会関係資料	66
(3)	各地区地域審議会関係資料	79
(4)	津市総合計画基本計画推進検討委員会関係資料	143

1 前期基本計画の中間年度における見直しの考え方

(1) 目的

平成20年3月に策定した津市総合計画は、本市の目指すべき将来像やまちづくりの目標、施策の大綱などを明らかにする「基本構想」（計画期間：平成20年度から29年度までの10年間）と、基本構想における施策の大綱に基づき、事業の目標やその具体的な展開方向を定める「前期基本計画」（計画期間：平成20年度から平成24年度までの5年間）とで構成しています。

この総合計画のうち、「基本計画」については、計画策定時から、事業の進捗よくや国及び県における制度の変更などに応じて弾力的な運用が図れるように、中間年度で見直しを行うこととしています。

このようなことから、今年度、前期基本計画の策定から3年目の中間年度を迎えるに当たり、短期計画としての運用を図り、時代に応じた施策の推進及び着実な計画の推進を図ることを目的として、中間見直しを行いました。

(2) 対象

前期基本計画においては、施策体系ごとの事業を推進するだけでなく、これらの事業を効果的に組み合わせ、その一体的、総合的な推進に取り組むことで、事業間の連携と相乗効果を引き出すために、3つの重点プログラム（まちづくり戦略プログラム、元気づくりプログラム、地域かがやきプログラム）を編成しています。

見直しに当たっては、本市の主要な施策の推進を図りつつ、総合計画全体にわたっての、より一層の着実な推進に繋げていくことが重要であり、この重点プログラムを対象とすることで、効率的かつ効果的な見直しを図ることとしました。

(3) 方法

重点プログラムについては、平成20年度から、行政評価システムのひとつとして、政策評価を試行的に実施してきました。

平成22年7月には、平成20・21年度の2か年の政策評価を基に「まちづくりレポート」を作成し、見直しのための基礎資料として活用しました。

見直しの実施に当たっては、津市総合計画審議会へ諮問し、御審議をいただいた上、答申を頂戴するとともに、市議会まちづくり推進調査研究特別委員会へ見直しの進ちよく状況等について随時報告し、御意見をいただいたほか、各地区地域審議会からも御意見を頂戴し、「平成22年度津市総合計画前期基本計画中間見直し報告書」をとりまとめました。

2 検討経過について

(1) 津市総合計画審議会

平成22年8月31日、津市総合計画審議会委員に係る委嘱式及び第1回審議会を開催し、中間見直しに当たり、審議会からの意見を求める旨の諮問を行いました。

その後、4回の審議会及び2回の分科会を開催していただき、平成23年2月15日に答申を頂戴しました。

(2) 市議会まちづくり推進調査研究特別委員会

平成22年4月15日に開催された、まちづくり推進調査研究特別委員会において、中間見直しの目的、対象、方法及び手順等についての報告を行い、御審議をお願いしました。

その後、4回の特別委員会や2回の地域意見交換会などを開催していただく中で、平成22年12月には、「地域意見交換会実施報告」を、平成23年1月には、「津市総合計画前期基本計画の中間見直しに係る提言」を頂戴しました。

(3) 各地区地域審議会

各地区地域審議会においては、重点プログラムのうち、地域かがやきプログラムについて、エリア内の各地区地域審議会ごとに進行管理を行っていただいております。各事業の進ちよく状況を踏まえた評価を行っていただいております。

平成22年11月26日付けで、各地区地域審議会あてに意見のとりまとめを依頼し、同年12月末から平成23年1月中旬にかけて、御意見を頂戴しました。

なお、頂戴した主な御意見については、総合計画審議会における地域かがやきプログラムに係る御審議において、論点整理をお願いし、同審議会の答申及び答申に添付の地域かがやきプログラムに係る意見として、とり

まとめていただきました。

(4) 津市総合計画基本計画推進検討委員会

平成22年5月20日付けで、津市総合計画基本計画推進検討委員会設置要綱を制定し、6月10日に第1回委員会を開催しました。

第1回委員会においては、見直しの考え方等について検討するとともに、実務的な検討については、企画員、地域企画員会議において実施することとしました。

その後、毎月定期的に行われる企画員、地域企画員会議において、まちづくりレポートを活用した事業進捗状況の確認や、総合計画の記述の点検等を行いました。

これらの作業を踏まえ、平成23年3月30日に、第2回検討委員会を開催し、本報告書を取りまとめました。

3 見直し結果について

前期基本計画の中間年度における見直しに当たっては、津市総合計画審議会及び市議会まちづくり推進調査研究特別委員会において、重点プログラムを対象とした過去2カ年間の政策評価を基にした「平成22年度津市まちづくりレポート」を基礎資料とし、進ちよく状況等を御説明するなどして、御審議をお願いしました。

その結果、総合計画審議会からは、重点プログラム全体における総括的な観点から、「計画策定後、初の中間点検ということもあり、現状としてはおおむね着実な推進が図られており、引き続き計画的な推進に努められたい。」との御意見を頂戴しました。

また、市議会まちづくり推進調査研究特別委員会からは、総括的事項として、「総合計画に基づく事業の推進に当たっては、「津市」という会社をいかに経営するか、着眼点をどう位置付け、事業展開し、まちをどう建設するのか等の大局的見地から、その時々々の社会経済情勢に応じ、執行状況の確認や見直しを行うとともに、役割分担と責任、具体的で明確な目標を持って、市の土台作りを強力に推し進め、市民の要望に応えるまちづくりに全力で取り組まれない。」との御意見を頂戴しました。

このようなことから、本市における計画推進に当たっては、今後も将来像である「環境と共生し、心豊かで元気あふれる美しい県都」の実現のため、引き続き、着実な計画の推進を図り、市民の要望に応えるまちづくりに全力で取り組んでいくことが肝要であり、次に掲げる御意見及び御提言を十分尊重し、さらなる計画推進を図ってまいります。



津市総合計画審議会答申及び市議会まちづくり推進調査研究特別委員会からの提言等による前期基本計画の中間年度における見直しに係る意見及び提言は、次のとおりです。

なお、各項目末尾に括弧書きで、意見及び提言の区別を明記しました。

【凡例】

- ・津市総合計画審議会からの答申……………【答申】
- ・市議会まちづくり推進調査研究特別委員会からの提言……【提言】

(1) 総合計画の総括的な推進に当たり、今後留意すべき事項

- 重点プログラムの推進については、計画策定後、初の中間点検ということもあり、現状としてはおおむね着実な推進が図られており、引き続き計画的な推進に努められたい。

また、プログラムを構成する事業のうち、一部進捗に遅れのあるものについては、今後の取組において、より一層の努力を払われたい。

【答申】

- 重点プログラムの進行管理においては、各事業における課題等を明確にし、効率的かつ効果的な事業推進のもと、着実な計画の推進を図られたい。

【答申】

- 総合計画に基づく事業の推進に当たっては、「津市」という会社をいかに経営するか、着眼点をどう位置付け、事業展開し、まちをどう建設するのか等の大局的見地から、その時々々の社会経済情勢に応じ、執行状況の確認や見直しを行うとともに、役割分担と責任、具体的で明確な目標を持って、市の土台作りを強力に推し進め、市民の要望に応えるまちづくりに全力で取り組まれたい。

【提言】

- 重点プログラムの各事業の推進に当たっては、計画の基調である市民の参加と協働をより意識するとともに、プログラム事業の実施と合わせて、先導的に取り組んでいただける人材の発掘、育成にも配慮した取組を図られたい。

【答申】

- 総合計画の見直しに当たっては、さまざまな事業の裏付けとなる財政計画についても、社会経済情勢の変動を踏まえ、絶えず厳しい目で見直しを図られるとともに、合併特例債、過疎債等の有利な財源の活用や、自主財源の確保、民間活力の積極的導入をこれまで以上に推進するなど、リーダーである市長の下、行政経営の観点からのさらなる努力を図られたい。

【提言】

- 今後の総合計画の策定に当たっては、偏りなく意見聴取し計画に反映させることが必要となる。とりわけ労働や子育てに実質的にかかわる 20～40 歳代の若い世代は、さまざまな現実的課題に直面しており、将来の市を担っていく世代でもあることから、かかる世代の意見を計画にどう反映させるかを十分に検討されたい。

【提言】

(2) 各重点プログラムごとの意見及び提言

ア まちづくり戦略プログラム

- ・ 高度成長時代に整備した上下水道や道路、橋梁などのインフラが、耐用年数を迎える時期に差し掛かっている。市域が広がったこともあり、これらの更新には莫大な経費が想定されることから、施設そのものの在り方の検討や長寿命化も含め、計画的で実効性のある施設更新に取り組まれない。 【提言】

未来を拓く都市空間形成プログラム

- ・ 新都心軸の形成の検討に当たっては、農業施策や土地利用のあり方、次世代に夢と希望を与えるようなまちづくりについて、課題を鮮明にして市民に問いかけ、方向性について広く議論しながら具体化に向け取り組まれない。 【答申】
- ・ 津なぎさまちについて、海の玄関口にふさわしい整備に取り組むとともに、中心市街地である大門・丸之内との連携についても検討されたい。 【答申】
- ・ 新都心軸構想については、3つの拠点のつながりだけではなく、この軸を中心とした市内への広がり、さらには、都心と自然とのつながり等を意識した検討をされたい。 【答申】

自然の恵みの価値創造プログラム

- ・ バイオマス等の活用について、今後も調査研究を進め、本市の状況に見合った方向性を示されたい。 【答申】
- ・ 森林セラピーロードの一層の整備を進めるとともに、その活用にあたっては、地域の方々との協働や人材育成にも配慮した取組を進められたい。 【答申】
- ・ 有害鳥獣対策をより一層推進するとともに、環境保全の観点から、駆除後の対応について、新たな取組を推進されたい。また、里山の荒廃も獣害の大きな原因と思われることから、里山の整備についても検討されたい。 【答申】
- ・ 有害鳥獣対策について、すでに市域の大部分の地域で、獣害による農作物や住民への被害が広がっている。農作物への被害や交通の障害、さらには、地域住民の安全・安心の確保の観点から、具体的な対策を明らかにし、一つ一つ確実に施策を講じられることを求める。 【提言】
- ・ 子どもたちの生活様式の変化に関わって、交流に関する施策の実施にあたっては、子どもたちが自然を通じた交流が図れるよう、廃校舎を利用した生活体験等、様々な取組を検討されたい。 【答申】

海に開くまちづくりプログラム

- ・ 漁業振興の取組については、道の駅での海産物の販売等、地産地消を踏まえた取組をより一層推進されたい。【答申】
- ・ 津なぎさまちについて、海の玄関口にふさわしい整備に取り組むとともに、中心市街地である大門・丸之内との連携についても検討されたい。【答申】(再掲：未来を拓く都市空間形成プログラム)

持続可能な地域形成プログラム

- ・ バイオマス等の活用について、今後も調査研究を進め、本市の状況に見合った方向性を示されたい。【答申】(再掲：自然の恵みの価値創造プログラム)

歴史と文化の拠点形成プログラム

- ・ 歴史文化資源について、保存に関する取組を今後も継続的に進めるとともに、それらを活用した誘客にも取り組まされたい。【答申】
- ・ 津城跡及び周辺地区の整備については、事業規模が大きくなることが予想され、全市的な取組としての機運を高めるためのPR活動等により、市民のアイデアを活かした市民参加型の事業として推進を図られたい。【答申】
- ・ 千歳山については、北大路魯山人と並び称される川喜田半泥子に関連する施設として、全国にPRできる資源であることから、歴史と文化に接する場としての活用を検討されたい。【答申】

健康とスポーツの振興プログラム

- ・ スポーツ施設の整備と合わせ、健康増進等をテーマとしたスポーツ振興施策を実施されたい。また、スポーツを軸とした観光や地域振興についても検討されたい。【答申】
- ・ 津シティマラソンを始めとするスポーツ関連事業においては、市内の人的資源の有効活用を図るため、関係者だけではなく、多くの人の協力のもと実施することを検討されたい。【答申】

イ 元気づくりプログラム

住みやすさ向上プログラム

- ・ 伊勢湾に面した長い海岸線を有し、東海、東南海・南海地震等の大規模地震発生の際には相当の被害が予想されている中で、備蓄・避難施設を含めた防災施設の更新・強化や、有事の際に地域特性を踏まえた適切な避難及び対応ができるような、地域における市民の防災意識の一層の啓発など、市民の安全・安心の速やかな向上を図られたい。【提言】
- ・ 自主防災組織の整備及び組織の強化に当たっては、地域特性を踏まえた綿密な取組を進めるとともに、高齢者が主体となっている実態も踏まえ、若年層の参加を促すなど、実効性にも留意した取組を図られたい。【答申】

元気な人づくりプログラム

- ・ 三重大学を始めとする市内の高等教育機関との連携をより一層進められたい。
- ・ 津ぎょうざについて、津市の全国発信につながるよう、より一層の活動の促進を図られたい。【答申】

若者定住プログラム

- ・ 未来の津市の在り方を決定づける産業構造の中心核として、誘致企業を選定し、産業拠点の形成と高度化を図られたい。また、国土の中心に近い交通至便なところにあり、雪が少なく、365日企業活動ができるという市の利点を生かし、雇用を生み、人づくりの拠点となる積極的な企業誘致活動を推進されたい。【提言】
- ・ 幼保一体化について、国の動向を注視しつつ、導入に向けての準備を進めるとともに、子育てをしやすい環境づくりに向けて、より一層の取組を推進されたい。【答申】
- ・ 将来を担う子どもたちが、将来津に住んで、生活し、家庭をつくっていくため、小さいころから郷土津市を愛する心を育む教育が必要ではないか。郷土ゆかりの人物や歴史等を知り発掘すること、また、山から海に広がる市域を最大限に生かして、児童・生徒の相互交流を深めることなど、郷土学、ふるさと学といえる知識の共有や、生きる力の育成等の教育の充実を図られたい。【提言】

交流による活力創造プログラム

- ・ 津市の魅力は、産業や豊かな自然など、様々な恵みが一体となった「住みやすさ」にあると思われる。文化及びスポーツ施策について重点的に取り組むことで、住みやすさの一層の充実を図られたい。【答申】
- ・ 交流に関する施策の実施に当たっては、様々な市民の参加が不可

欠であり、特に、若年層やいわゆる団塊世代の参加を促進するため、伊勢神宮の式年遷宮や、近年のウォーキングブームを積極的に活用するなど、市内外の観光資源等を活用した取組を推進されたい。

【答申】

- ・ 津シティマラソンを始めとするスポーツ関連事業においては、市内の人的資源の有効活用を図るため、関係者だけではなく、多くの人の協力のもと実施することを検討されたい。

【答申】(再掲：健康とスポーツの振興プログラム)

- ・ スポーツ施設の整備と合わせ、健康増進等をテーマとしたスポーツ振興施策を実施されたい。また、スポーツを軸とした観光や地域振興についても検討されたい。

【答申】(再掲：健康とスポーツの振興プログラム)

- ・ 大河ドラマ「江～姫たちの戦国～」の放映を契機とした事業の実施に当たっては、様々な事業を組み合わせ、戦略的に取り組まれたい。

【答申】

- ・ 中山間地域においては、定年後に田舎暮らしを希望している都会の人の受け皿となるような移住交流の取組をさらに進め、地域の活性化を図られたい。

【答申】

津らしさ実感プログラム

- ・ 津ぎょうざについて、津市の全国発信につながるよう、より一層の活動の促進を図られたい。

【答申】(再掲：元気なづくりプログラム)

- ・ 「津ぎょうざ」を市のご当地グルメとして全国に発信するため、食感や味の水準を確保するための認定制度を導入するなど、消費者の期待や満足度の向上に努められたい。

【提言】

- ・ 本市の情報発信を始めとするまちづくりの推進において、市の広報のあり方は極めて重要と考える。市をいかに全国発信するか、市のイメージ戦略を担う専門部署の設置など、広報機能の強化、充実を図られたい。また、報道機関へのより積極的な情報提供等、メディアを有効に活用し効果的なPRを実施されたい。

【提言】

ウ 地域かがやきプログラム

- ・ それぞれの地域にはそれぞれの生活者があり、日々の生活を営んでいる。地域の特性を生かしたまちづくりであっても、特性を強調しすぎて地域の生活者が犠牲になってはならない。地域かがやくためには、同時に生活の場を充実させていくことが必要である。

【提言】

- ・ 当委員会が昨年実施した地域意見交換会では、地域で活躍されている各界の方々とさまざまな視点からの有意義な意見交換を行うことができた。地域振興に当たっては、その際にとりまとめた「地域意見交換会実施報告」における地域の方々の御意見を踏まえ、より一層の推進を図られたい。
- ・ 地域の声に耳を傾け、スピーディーに施策に生かせるよう、総合支所を有効に活用した地域支援の在り方を十分検討し、市域全体の調和した発展を図られたい。

【提言】

東部エリア ～キラリと輝く人づくり・まちづくり～

- ・ 研究情報ハブの形成に当たっては、産業振興センターを核とした産学官の連携による「知」の情報を発信していく取組を、また、文化情報ハブの形成に当たっては、各種文化団体の協力を得て、リアルタイムに情報を集積できる環境づくりに取り組まされたい。【答申】
- ・ 地域ブランドの情報発信に当たっては、安定した販売量を確保できる地域ブランドの発掘に取り組むとともに、販売に当たっては、様々な方々へ認知されるような企画・運用を検討されたい。【答申】
- ・ 市民特派員の情報発信に当たっては、市民の関心が得られるよう、特派員の質的向上や、さまざまな機会でのPRに努め、一層の利用促進を図られたい。【答申】
- ・ 多様な人材の育成については、どのような人づくりを目指すのかという目標を明確にし、受講生が目的意識を持って取り組める講座体系を検討するとともに、講座修了後に受講生が地域リーダーとして活躍できる仕組みづくりや、新たな人材の発掘・育成にも取り組まされたい。【答申】
- ・ スポーツ・レクリエーション等の実施に当たっては、特定の参加者に偏ることなく、より幅広い層が参加できるよう取り組まれるとともに、心豊かな生きがいのある暮らしづくりに繋がる新たな実施内容について、工夫、検討されたい。
また、久居駅周辺で行われているレクリエーション事業の実施に当たっては、副都市核に相応しい新たな交流と活力の創造を目指し、久居駅周辺地区が一体となって取り組むよう努められたい。【答申】
- ・ 多文化共生の地域づくりに当たっては、日本の方と外国籍の方が互いに同じ場所でともに学べるような方向で取り組んでいくとともに、このような取り組み、国際理解のある地域づくりを全市へ広

げていくよう推進されたい。 【答申】

・ 伝統文化の継承と賑わいの創造に当たっては、「宮踊り」や「獅子舞事業」など伝統行事においては、継承者の育成方法や他の地域からも参加できる仕組みについて検討されたい。 【答申】

・ 河芸地域から香良洲地域まで連なる海を活かした交流の推進に当たっては、地域住民同士の一体感のある企画を推進されたい。 【答申】

・ ユニバーサルデザインのモデル地域づくりに当たっては、ソフト面だけでなく、ハード面の普及にも取り組まれない。また、モデル地域における成果を全市的に拡大していく取組を検討されたい。

【答申】

北部エリア ～都市や自然と共生するふれあいの里づくり～

・ スポーツ・レクリエーション活動の促進に当たっては、芸濃・美里・安濃の各地域の散策コースと連携した、一体的なコース設定に取り組むなど、北部エリア内の3地域が連携した取組を進め、エリアとしての一体感を生む取組を推進されたい。 【答申】

・ 新たな観光交流の創出を始めとする、エリアにおける事業の実施に当たっては、イベント同士が相互に盛り立てていける取組として、地元農産物や特産品の生産・販売のための支援や、地域の観光資源と連携し、観光交流だけでなく、世代間交流、地域間交流にも配慮した取組を進められたい。 【答申】

・ 経ヶ峰ハイキングの実施に当たっては、ハイキング事業と他の事業の連携について検討するとともに、環境整備に当たっては、ボランティア団体等市民参加による取組を進められたい。 【答申】

・ 美里水源の森の整備に当たっては、整備計画の策定など、長期的な視野で、水源の森づくりに取り組まれない。 【答申】

・ 錫杖湖畔周辺の整備に当たっては、施設の一体的な利用など、多くの人が利用しやすい環境整備に取り組まれない。 【答申】

中部エリア ～“みのり”と“ぬくもり”の郷(さと)づくり～

・ 榊原温泉郷の発展には、地域で行われる様々な事業を一体的に考え盛り上げていく必要があり、それにはまず、地域住民、温泉旅館、市の三者が話し合い、グランドデザインづくりから始めるべきである。 【答申】

また、温泉利用者からのアンケートに基づく事業検討や、コンサルタントによる市場調査、あるいは、地域の方々の協力や参加による事業展開など、これまでと違う観点から事業を見直し、よりよい取組とされたい。 【答申】

- ・ イベント等の事業の実施に当たっては、一過性の取組とならないよう、地域で定着する話題づくりや、イベントだけにとどまらず、温泉客誘致に繋がるようなPR方法等を検討されたい。【答申】
- ・ 榊原マラソンについては、参加者の増加に取り組むことが必要で、温泉施設等と連携し、参加者を温泉宿泊に繋げていくよう工夫されたい。【答申】
- ・ 地域における地産地消の促進に当たっては、榊原の朝市としてのオリジナルの名物・特産品の掘り起こしにより温泉の魅力アップに繋げていくほか、お母さん方を対象とした「料理の作り手」の育成など、家庭の力を掘り起こし、地産地消に繋げていくなどの工夫した取組を進められたい。【答申】
- ・ 地域におけるふれあい交流の場づくりに当たっては、誰もが社会参加しやすい環境づくりのため、地域ごとの行事や、お金をかけずに老若男女が楽しめる企画の検討などを通じ、地域全体で作り、楽しめる取組を進められたい。【答申】
- ・ 桜の樹勢回復については、継続した取組が必要で、それも含めた、河川周辺の環境整備に当たっては、環境学習の観点から、次世代を担う子どもたちを巻き込んだ持続的な活動を進められたい。【答申】

南部エリア ～健康で暮らせる自然と歴史の地域づくり～

- ・ 美杉地域は、豊かな自然と歴史と伝統に支えられた文化があり、それらを誇りとして生きる経験豊かな人材も豊富である。
しかし、行政をはじめそれぞれの立場の方々が様々な対策を講じているにも関わらず、過疎・高齢化が進み、活力が低下するという大変厳しい状況下であり、集落機能の維持は近い将来大変困難になると思われる。
については、集落機能の維持、再生のため、格段の施策配慮をお願いしたい。【答申】
- ・ 美杉地域に止まらず、津市にとっても貴重な歴史資源である多気北畠氏城館跡並びに伊勢本街道の保存、活用について、市を挙げての早急な取組を進められたい。【答申】
- ・ 現在の異常な獣害は、美杉地域の住民の生活する気力を衰退させている。
既にたくさんの獣害対策を講じていただいていることは理解しているが、全市を挙げた抜本的で元気の出る獣害対策を進められたい。【答申】

参 考 資 料

(1) 津市総合計画審議会関係資料	
ア 開催経過	14
イ 諮問	16
ウ 答申	17
(2) 市議会まちづくり推進調査研究特別委員会関係資料	
ア 開催経過	66
イ 地域意見交換会実施報告	67
ウ 提言	74
(3) 各地区地域審議会関係資料	
ア 意見提出依頼	79
イ 意見	84
(4) 津市総合計画基本計画推進検討委員会関係資料	
ア 設置要綱	143
イ 開催経過	145

(1) 津市総合計画審議会関係資料

ア 開催経過

日時	場所	名称	主な内容等
平成22年8月31日	本庁4階庁議室	委嘱式及び 第1回津市総合計画審議会	委員の委嘱、市長からの諮問、審議会の運営について、見直しの進め方について
平成22年9月30日	津リージョンプラザ3階 生活文化情報センター	第2回津市総合計画審議会	まちづくりレポートを基礎資料とした今後の取組方向の検討について (まちづくり戦略プログラムに関する論点整理)
平成22年10月13日	本庁4階庁議室	第3回津市総合計画審議会	まちづくりレポートを基礎資料とした今後の取組方向の検討について (元気づくりプログラムに関する論点整理)
平成22年10月26日	本庁4階庁議室	まちづくり戦略プログラム 分科会	まちづくり戦略プログラムに係る今後の取組方向について
平成22年11月1日	本庁4階庁議室	元気づくりプログラム 分科会	元気づくりプログラムに関する今後の取組方向について
平成22年12月16日	本庁4階庁議室	第4回津市総合計画審議会	津市総合計画審議会からの答申素案について
平成23年2月4日	本庁4階庁議室	第5回津市総合計画審議会	津市総合計画審議会からの答申のとりまとめについて
平成23年2月15日	本庁第1応接室	津市総合計画審議会答申式	津市総合計画審議会から市長への答申について

津市総合計画審議会委員(平成22年8月31日委嘱)

(敬称略、会長・副会長以外の委員は五十音順)

職名	氏名	団体名等
会長	後藤 正和	三重大学 理事・副学長
副会長	北村 早都子	津市市民エコ活動センター 事務局長
委員	浅田 剛夫	津商工会議所 副会頭
〃	荒井 隆夫	津市社会福祉協議会
〃	井坂 紀之	中勢地区労働者福祉協議会 会長
〃	石見 隆浩	安濃地区地域審議会 会長
〃	今井 直毅	白山地区地域審議会 副会長
〃	内山 則夫	河芸地区地域審議会 会長
〃	大下 幸男	久居地区地域審議会
〃	岡田 武士	美杉地区地域審議会 会長
〃	川北 輝	津市NPOサポートセンター 理事長
〃	木下 美佐子	香良洲地区地域審議会 副会長
〃	鯉江 盈	津市商業団体連合会 会長
〃	小泉 忠子	津市文化芸術団体連絡協議会 理事
〃	小林 賢司	津市老人クラブ連合会 会長
〃	近藤 典也	津市水産振興連絡協議会
〃	櫻井 しのぶ	三重大学医学部教授
〃	須山 美智子	津市婦人会連絡協議会 会長
〃	辻岡 光雄	美里地区地域審議会
〃	豊田 千春	一志地区地域審議会 会長
〃	中川 幹夫	津市自治会連合会 会長
〃	西口 正國	津安芸農業協同組合 経営管理委員会会長
〃	沼江 れいこ	津地区地域審議会
〃	長谷川 之快	津市体育協会 会長
〃	服部 紗弓	津市げんき大学三重大学分校 学生代表
〃	服部 基恒	(社)津市観光協会 副会長
〃	濱野 章	芸濃地区地域審議会
〃	前田 洋明	津市PTA連合会
〃	水井 悦雄	中勢森林組合 代表理事組合長
〃	吉田 壽	津・久居地域救急医療対策協議会 会長

イ 諮問

津市政策第251号
平成22年8月31日

津市総合計画審議会
会長 後藤正和様

津市長 松田直久

津市総合計画について（諮問）

津市総合計画前期基本計画の中間年度での見直しに当たり、津市総合計画審議会条例（平成18年津市条例第309号）第2条の規定により、貴審議会の意見を求めます。

（参考）

事業の進ちょくや国及び三重県における制度の変更などに応じて弾力的な運用が図れるように、各基本計画の中間年度（策定から3年目）での見直しを行い、短期基本計画としての活用を図ります。

（「津市総合計画基本構想」から抜粋）

ウ 答申

津 総 計 審 第 8 号
平成 23 年 2 月 15 日

津市長 松 田 直 久 様

津市総合計画審議会
会長 後 藤 正 和

津市総合計画について（答申）

津市総合計画前期基本計画の中間年度での見直しに当たり、平成22年8月31日付け津市政第251号で諮問のありましたみだしのことについては、審議の結果、下記のとおり答申いたします。

今回の答申にあつては、各重点プログラムを構成する事業の取組状況について個別に整理するのではなく、重点プログラム全体における総括的な推進の観点からのとりまとめといたしました。

今後の計画推進及び後期基本計画の策定に当たっては、本答申のほか、別紙の各プログラムごとの意見、さらには我々の審議会における様々な議論を十分踏まえて取り組まれますことを要望します。

記

- 1 重点プログラムの推進については、計画策定後、初の中間点検ということもあり、現状としてはおおむね着実な推進が図られており、引き続き計画的な推進に努められたい。
また、プログラムを構成する事業のうち、一部進捗に遅れのあるものについては、今後の取組において、より一層の努力を払われたい。
- 2 重点プログラムの進行管理においては、各事業における課題等を明確にし、効率的かつ効果的な事業推進のもと、着実な計画の推進を図られたい。
- 3 重点プログラムの各事業の推進に当たっては、計画の基調である市民の参加と協働をより意識するとともに、プログラム事業の実施と合わせて、先導的に取り組んでいただける人材の発掘、育成にも配慮した取組を図られたい。

《重点プログラム》

1 まちづくり戦略プログラム

① 未来を拓く都市空間形成プログラム

- ・ 新都心軸の形成の検討に当たっては、農業施策や土地利用のあり方、次世代に夢と希望を与えるようなまちづくりについて、課題を鮮明にして市民に問いかけ、方向性について広く議論しながら具体化に向け取り組まれない。
- ・ 津なぎさまちについて、海の玄関口にふさわしい整備に取り組むとともに、中心市街地である大門・丸之内との連携についても検討されたい。
- ・ 新都心軸構想については、3つの拠点のつながりだけでなく、この軸を中心とした市内への広がり、さらには、都心と自然とのつながり等を意識した検討をされたい。

② 自然の恵みの価値創造プログラム

- ・ バイオマス等の活用について、今後も調査研究を進め、本市の状況に見合った方向性を示されたい。
- ・ 森林セラピーロードの一層の整備を進めるとともに、その活用に合わせて、地域の方々との協働や人材育成にも配慮した取組を進められたい。
- ・ 有害鳥獣対策をより一層推進するとともに、環境保全の観点から、駆除後の対応について、新たな取組を推進されたい。また、里山の荒廃も獣害の大きな原因と思われることから、里山の整備についても検討されたい。
- ・ 子どもたちの生活様式の変化に関わって、交流に関する施策の実施に当たっては、子どもたちが自然を通じた交流が図れるよう、廃校舎を利用した生活体験等、様々な取組を検討されたい。

③ 海に開くまちづくりプログラム

- ・ 漁業振興の取組については、道の駅での海産物の販売等、地産地消を踏まえた取組をより一層推進されたい。
- ・ 津なぎさまちについて、海の玄関口にふさわしい整備に取り組むとともに、中心市街地である大門・丸之内との連携についても検討されたい。

(再掲 1-① 未来を拓く都市空間形成プログラム)

④ 持続可能な地域形成プログラム

- ・ バイオマス等の活用について、今後も調査研究を進め、本市の状況に見合った方向性を示されたい。

(再掲 1-② 自然の恵みの価値創造プログラム)

⑤ 歴史と文化の拠点形成プログラム

- ・ 歴史文化資源について、保存に関する取組を今後も継続的に進めるとともに、それらを活用した誘客にも取り組まれない。

- ・ 津城跡及び周辺地区の整備については、事業規模が大きくなることが予想され、全市的な取組としての機運を高めるためのPR活動等により、市民のアイデアを活かした市民参加型の事業として推進を図られたい。
- ・ 千歳山については、北大路魯山人と並び称される川喜田半泥子に関連する施設として、全国にPRできる資源であることから、歴史と文化に接する場としての活用を検討されたい。

⑥ 健康とスポーツの振興プログラム

- ・ スポーツ施設の整備と合わせ、健康増進等をテーマとしたスポーツ振興施策を実施されたい。また、スポーツを軸とした観光や地域振興についても検討されたい。
- ・ 津シティマラソンを始めとするスポーツ関連事業においては、市内の人的資源の有効活用を図るため、関係者だけではなく、多くの人の協力のもと実施することを検討されたい。

2 元気づくりプログラム

① 住みやすさ向上プログラム

- ・ 自主防災組織の整備及び組織の強化に当たっては、地域特性を踏まえた綿密な取組を進めるとともに、高齢者が主体となっている実態も踏まえ、若年層の参加を促すなど、実効性にも留意した取組を図りたい。

② 元気な人づくりプログラム

- ・ 三重大学を始めとする市内の高等教育機関との連携をより一層進められたい。
- ・ 津ぎょうざについて、津市の全国発信につながるよう、より一層の活動の促進を図りたい。

③ 若者定住プログラム

- ・ 幼保一体化について、国の動向を注視しつつ、導入に向けての準備を進めるとともに、子育てをしやすい環境づくりに向けて、より一層の取組を推進されたい。

④ 交流による活力創造プログラム

- ・ 津市の魅力は、産業や豊かな自然など、様々な恵みが一体となった「住みやすさ」にあると思われる。文化及びスポーツ施策について重点的に取り組むことで、住みやすさの一層の充実を図りたい。
- ・ 交流に関する施策の実施に当たっては、様々な市民の参加が不可欠であり、特に、若年層やいわゆる団塊世代の参加を促進するため、伊勢神宮の式年遷宮や、近年のウォーキングブームを積極的に活用するなど、市内外の観光資源等を活用した取組を推進されたい。
- ・ 津シティマラソンを始めとするスポーツ関連事業においては、市内の人的資源の有効活用を図るため、関係者だけではなく、多くの人の協力のもと実施することを検討されたい。(再掲 1-⑥ 健康とスポーツの振興プログラム)
- ・ スポーツ施設の整備と合わせ、健康増進等をテーマとしたスポーツ振興施策を実施されたい。また、スポーツを軸とした観光や地域振興についても検討されたい。(再掲 1-⑥ 健康とスポーツの振興プログラム)
- ・ 大河ドラマ「江～姫たちの戦国～」の放映を契機とした事業の実施に当たっては、様々な事業を組み合わせ、戦略的に取り組まれたい。
- ・ 中山間地域においては、定年後に田舎暮らしを希望している都会の人の受け皿となるような移住交流の取組をさらに進め、地域の活性化を図りたい。

⑤ 津らしさ実感プログラム

- ・ 津ぎょうざについて、津市の全国発信につながるよう、より一層の活動の促進を図りたい。(再掲 2-② 元気な人づくりプログラム)

3 地域かがやきプログラム

① 東部エリア ～キラリと輝く人づくり・まちづくり～

- ・ 研究情報ハブの形成に当たっては、産業振興センターを核とした産学官の連携による「知」の情報を発信していく取組を、また、文化情報ハブの形成に当たっては、各種文化団体の協力を得て、リアルタイムに情報を集積できる環境づくりに取り組まれない。
- ・ 地域ブランドの情報発信に当たっては、安定した販売量を確保できる地域ブランドの発掘に取り組むとともに、販売に当たっては、様々な方々へ認知されるような企画・運用を検討されたい。
- ・ 市民特派員の情報発信に当たっては、市民の関心が得られるよう、特派員の質的向上や、さまざまな機会でのPRに努め、一層の利用促進を図られたい。
- ・ 多様な人材の育成については、どのような人づくりを目指すのかという目標を明確にし、受講生が目的意識を持って取り組める講座体系を検討するとともに、講座修了後に受講生が地域リーダーとして活躍できる仕組みづくりや、新たな人材の発掘・育成にも取り組まれない。
- ・ スポーツ・レクリエーション等の実施に当たっては、特定の参加者に偏ることなく、より幅広い層が参加できるよう取り組まれるとともに、心豊かな生きがいのある暮らしづくりに繋がる新たな実施内容について、工夫、検討されたい。
また、久居駅周辺で行われているレクリエーション事業の実施に当たっては、副都市核に相応しい新たな交流と活力の創造を目指し、久居駅周辺地区が一体となって取り組むよう努められたい。
- ・ 多文化共生の地域づくりに当たっては、日本の方と外国籍の方が互いに同じ場所でともに学べるような方向で取り組んでいくとともに、このような取り組み、国際理解のある地域づくりを全市へ広げていくよう推進されたい。
- ・ 伝統文化の継承と賑わいの創造に当たっては、「宮踊り」や「獅子舞事業」など伝統行事においては、継承者の育成方法や他の地域からも参加できる仕組みについて検討されたい。
- ・ 河芸地域から香良洲地域まで連なる海を活かした交流の推進に当たっては、地域住民同士の一体感のある企画を推進されたい。
- ・ ユニバーサルデザインのモデル地域づくりに当たっては、ソフト面だけでなく、ハード面の普及にも取り組まれない。また、モデル地域における成果を全市的に拡大していく取組を検討されたい。

② 北部エリア ～都市や自然と共生するふれあいの里づくり～

- ・ スポーツ・レクリエーション活動の促進に当たっては、芸濃・美里・安濃の各地域の散策コースと連携した、一体的なコース設定に取り組むなど、北部エリア内の3地域が連携した取組を進め、エリアとしての一体感を生む取組を推進されたい。
- ・ 新たな観光交流の創出を始めとする、エリアにおける事業の実施に当たっては、イベント同士が相互に盛り立てていける取組として、地元農産物や特産品の生産・販売のための支援や、地域の観光資源と連携し、観光交流だけでなく、世代間交流、地域間交流にも配慮した取組を進められたい。
- ・ 経ヶ峰ハイキングの実施に当たっては、ハイキング事業と他の事業の連携について検討するとともに、環境整備に当たっては、ボランティア団体等市民参加による取組を進められたい。
- ・ 美里水源の森の整備に当たっては、整備計画の策定など、長期的な視野で、水源の森づくりに取り組まれたい。
- ・ 錫杖湖畔周辺の整備に当たっては、施設の一体的な利用など、多くの人が利用しやすい環境整備に取り組まれたい。

③ 中部エリア ～“みのり”と“ぬくもり”の郷づくり～

- ・ 榊原温泉郷の発展には、地域で行われる様々な事業を一体的に考え盛り上げていく必要がある、それにはまず、地域住民、温泉旅館、市の三者が話し合い、グランドデザインづくりから始めるべきである。
また、温泉利用者からのアンケートに基づく事業検討や、コンサルタントによる市場調査、あるいは、地域の方々の協力や参加による事業展開など、これまでと違う観点から事業を見直し、よりよい取組とされたい。
- ・ イベント等の事業の実施に当たっては、一過性の取組とならないよう、地域で定着する話題づくりや、イベントだけにとどまらず、温泉客誘致に繋がるようなPR方法等を検討されたい。
- ・ 榊原マラソンについては、参加者の増加に取り組むことが必要で、温泉施設等と連携し、参加者を温泉宿泊に繋げていくよう工夫されたい。
- ・ 地域における地産地消の促進に当たっては、榊原の朝市としてのオリジナルの名物・特産品の掘り起こしにより温泉の魅力アップに繋げていくほか、お母さん方を対象とした「料理の作り手」の育成など、家庭の力を掘り起こし、地産地消に繋げていくなどの工夫した取組を進められたい。
- ・ 地域におけるふれあい交流の場づくりに当たっては、誰もが社会参加しやすい環境づくりのため、地域ごとの行事や、お金をかけずに老若男女が楽しめる企画の検討などを通じ、地域全体で作り、楽しめる取組を進められたい。
- ・ 桜の樹勢回復については、継続した取組が必要で、それも含めた、河川周辺の環境整備に当たっては、環境学習の観点から、次世代を担う子どもたちを巻き込んだ持続的な活動を進められたい。

④ 南部エリア ～健康で暮らせる自然と歴史の地域づくり～

- ・ 美杉地域は、豊かな自然と歴史と伝統に支えられた文化があり、それらを誇りとして生きる経験豊かな人材も豊富である。
しかし、行政をはじめそれぞれの立場の方々が様々な対策を講じているにも関わらず、過疎・高齢化が進み、活力が低下するという大変厳しい状況下
にあり、集落機能の維持は近い将来大変困難になると思われる。
については、集落機能の維持、再生のため、格段の施策配慮をお願いいたし
たい。
- ・ 美杉地域に止まらず、津市にとっても貴重な歴史資源である多気北畠氏城
館跡並びに伊勢本街道の保存、活用について、市を挙げての早急な取組を進
められたい。
- ・ 現在の異常な獣害は、美杉地域の住民の生活する気力を衰退させている。
既にたくさんの獣害対策を講じていただいていることは理解しているが、
全市を挙げた抜本的で元気の出る獣害対策を進められたい。

論点	発言内容
<p>新都心軸の形成に係る今後の取組方向について</p>	<p>津市の将来の発展を考えた場合に、津のインターチェンジからなぎさまちに至る縦の軸を、将来の軸というような既に御説明いただいたとおり、いくつかの調査研究あるいはセミナーなどを開かれまして、各種の検討が進められていますが、その内容について、まだ、明確な御説明がないように感じております。</p> <p>私は、やはりこの軸は、スポーツの中心地的な、大規模スポーツ施設、あるいは、田園都市にふさわしい住宅の建ものが考えられると思います。</p> <p>土地利用計画とか、いろんな権利の調整等がございますので、今の時点では、なかなか具体的にお示しにくいといっているのか、また、それにはどういう問題点があるのかといったところを、もう少し具体的に出していただいて、委員す。</p>
	<p>私は、津市の位置づけとしては、工業のまちとも違いますし、昔は商業だったかも分かりませんが、商業とも違うと津市が打ち出すのは、文化も含めた住みやすさだと思います。市内に大学も、4つございます。こんなまちはないしやっぱり、住みやすさを謳っていくには、文化とスポーツが重要であり、そこを重点的にするべきだと思います。</p> <p>先ほど、進捗が分かりづらいとの御意見でしたが、私も二つ述べさせていただきます。</p> <p>津インター周辺の圃場整備のところですが、中勢用水を、思い切って、外していかないといけないと思います。どし先日、新聞に出ていましたけど、メッセの位置づけというのはどうなんでしょうか。</p> <p>メッセというのは、昔の通産省に補助金をいただいていたと思います。</p> <p>記事によると、あの施設を少し改築したいということですけど、私は、大きく改築してもよいと思います。</p> <p>その辺を含めて、どこまで構想ないし計画が進んでいるのか、あるいは、まだ市民の意見を聞いているだけなのか、</p>
	<p>せつかくこういう審議会という場があるわけです。</p> <p>思い切った判断、例えば、農振の用地を都市的な土地利用に切り替えるということになりますと、今おっしゃったよ題もあろうかと思ひます。</p> <p>また、津市の将来像を考えますと、農業政策もどんどん進められて、減反政策も現在4割にまで達しておりますし、す。将来日本の人口が減る中で、食糧はどうするかといった大きなテーマもあります。</p> <p>それらも踏まえて、議論するのは容易ではないですが、せつかくのこういう場ですから、将来、こういった地域の土どのように進めていくかということに関する津市の考えというのを、思い切って出していきたい、そしてそのためにくという姿勢が出てくれば、一歩ずつでも二歩ずつでも進められるのではなからうかと、このように思ひます。</p> <p>今の段階ですぐ地区計画云々ということは、私も考えておりませんが、夢を踏まえた姿を明らかにしていくというの</p>
	<p>大変貴重な意見で、これは提案書の、意見の中に盛り込ませていただくという扱いにさせていただきますことよろししそれから、先ほどおっしゃった住みやすさというのは、例えば、産業と豊かな自然とか、そういった恵み等が一体とスポーツについても、ウォーキングという取組みもありますし、文化施策としては、いろいろな施設がありますね。そういったものを掘り起こして、皆さんに分かりやすくしていく。それが、津市の売りじゃないかというような御</p>
	<p>先日、都市の住みやすさを見ていたら、今回のランキングで、横浜が上がってきたんですね。鎌倉が上がってきた津市の良さというのは、今更商業都市になるわけでもないですし、住みやすさのような良さのような気がします。</p> <p>全国の住みやすさの調査結果を見ますと、津市は意外にいい位置にあるように思ひます。</p> <p>工業は、サイエンスとファクトリーがあったら十分ですし、商業も、この社会状況ですし、インターの辺りの規制なな気がします。文化やスポーツで、なんとかいい形にしていきたいなと思ひます。</p>
	<p>そういうものでアピールして行って、人が来てくれる、地域が活性化されていくという循環を作り上げていくとい</p>
	<p>新都心軸について、中勢用水の受益地に関する課題があるとのことですか、これは、住宅地が出来たらだめなんでし私は、エコシティというか、電力、太陽熱というようなもので生活できるような住宅地にすれば、これはまた人がすだから、何か持ってくるという必要もなく、そういうものだったら、中部電力や、団地開発業者等と一緒に事業をすてはないと思うので、観光の資源にもなり得ると思ひます。</p> <p>そんなにも経費もかからないのではないかと、個人負担でやってもらうこともできますし、その個人負担に対しては、</p>
	<p>いろいろ難しい、一番根本要のところではなかなか進みにくいところがあって、法的な問題とか財政的な問題とか、どところがあったのかと思ひますが、課題としては、整理させていただいたように思ひますが、いかがでしょうか。</p>
	<p>都市計画関係の法律とか、農振の関係の法律とか、そういった法律もあるわけですけども、その運用は、あくまに従って、何も法律を無視してということを行っているわけではなくて、そういう法律を前提にして、市長の権限、地判断として、調整をしていくということは可能ではないかと、と、こういうふうと考えておるわけです。</p> <p>従って、例えば中勢用水の受益地を振り替えるということも考えられるわけです。</p> <p>また、あの辺の地域を農振の用地から外すと。</p> <p>一方で、市街化区域に指定された農地もたくさんあるにも関わらず、高齢化が進んで耕作放棄地もどんどん出ているということも十分考えられます。</p> <p>それから、先ほどおっしゃられました、エコシティという考え方ですが、エコという考え方は、今、世界的な大きなく分かりませんが、自然の力をフル活用した、若者や年寄りが住みやすい街をモデル的につくっていくということも、幸い、津は広い空間があるわけですから、広い農地も林地もあるわけですから、その辺をどういうふうに使っていく一マだと考えるんですね。</p>

ラム分科会発言整理一覧

	発言概要	まとめ
<p>意識で構想も策定されております。おると理解しておりますが、どういうふうに進めているという説明はあ</p> <p>建設、あるいは、人の交流を活発にするようないろいろな施設、そういった</p> <p>いう考えも理解できるんですが、どういう課題を、どういう方向で検討し</p> <p>員の皆さんの間で意見交換を活発にさせていただけたらありがたいと考えま</p>	<p>新都心軸の形成について、調査研究やセミナー開催等を通じ、各種検討が進められていると理解している。</p> <p>様々な権利関係の調整が必要なものであることから、課題や検討の方向性等を具体的に公開してはどうか。</p>	<p>津市の魅力は、産業や豊かな自然など、様々な恵みが一体となった「住みやすさ」にあると思われる。</p> <p>文化及びスポーツ施策について重点的に取り組むことで、住みやすさの一層の充実を図りたい。</p>
<p>と思います。</p> <p>と思いますので。</p> <p>ここで合意をいただかないと、進めていけないと思います。</p> <p>、現状が分かりませんので、御説明をお願いします。</p>	<p>津市の魅力は、工業や商業ではなく、「文化も含めた住みやすさ」だと思う。</p> <p>文化とスポーツを、重要施策として重点的に取り組むべき。</p> <p>スポーツ施設の建設に当たり、メッセウイングを積極的に活用してはどうか。</p>	
<p>ように、中勢用水の受益負担金の問題や農地の転用問題等、いろいろと課</p> <p>、超高齢化が進んで農業の担い手がいないという実態も明確になっていま</p> <p>土地利用をどう考え、若い人たちに夢と希望を与えるようなまちづくりを</p> <p>こ解決しなければいけない課題についても鮮明にして市民に問いかけてい</p> <p>のは、こういった場で必要ではないかと、このように考えたものです。</p>	<p>新都心軸の形成に当たり、特に農業関連施策の關係に課題があると考えている。</p> <p>容易な問題ではないからこそ、早急に、津市の将来に係る夢を明らかにするとともに市民に問いかけるなどの取組みを進めるべきではないか。</p>	
<p>いでしょうか。</p> <p>となったというようなことでよろしいわけですね。</p> <p>も</p> <p>提案でございました。</p>		
<p>ましたし、札幌はもちろんです。</p> <p>などを無理に外しても、商業施設が来て活性化するというものもないよう</p>	<p>津市の良さというのは住みやすさにあるのではないか。</p>	
<p>う考え方でですね。</p>		
<p>すかね。</p> <p>見に来るといふかね、活性化すると思うんですけどね。</p> <p>する必要があるとは思いますが、まだまだ全国でもそういう街をつくつ</p> <p>、政府からの補助金もあるわけでしょうし。</p> <p>いろんなものが絡んでいるものですから、なかなか資料としても出にくい</p> <p>でも行政当局の裁量で動かせる部分が相当あるわけです。</p> <p>地域の分権と言うことが今言われていますから、地域の、主体性を持った</p> <p>ることや、跡継ぎがいけないといった将来の課題を考えると、振り替えると</p> <p>な課題となっておりますから、どういう言葉がいいのかどうかは、私もよ</p> <p>、津市が発信していくということだって、考えられないことはない。</p> <p>いくかというのですね、やはりまだ議論していく値打ちがある大きなテ</p>	<p>津インター付近について、新エネルギーを活用する住宅地とし、活性化に繋げてはどうか。</p>	
	<p>当面の法律や仕組みにとらわれて議論が進められていないのではないか。</p>	

論点	発言内容
	<p>従って、あまりに当面の法律とか制度・仕組みにとらわれて議論が進められないというのはいかがなものかという点について、</p> <p>現在のくにづくり、地域づくりの法律があるわけですけれども、今の地方の動きや各県の知事さんの発言などを聞いて私自身は知りませんが、地域の発想を大事にしていくという考え方が、相当中央政府にも伝わっていったらいいと思います。しかも最近、総務大臣が、国会議員ではない、知事経験者の方がなっておられるということから、地域分権と言っているような発言がなされてきていると受け止めております。</p> <p>従って、その辺のところは、もう少し柔軟に考えていったらいいんじゃないかと思うんですが。</p> <p>三重交通やいろんな会社で、バスのツアーを行っています。津の参加者の方が、たくさん関東まで来ています。知人に、どうして関で乗るのか、どうして津駅や三重会館や御センターで乗らないのか聞いてみました。駐車場のメッセは駐車場もあって、車が駐車できますから、うまく三重交通などと連携したら、旅行の拠点として有望なのかもしれません。また、今年名古屋の港の花火を見に行きました。ちょうど、津の港みたいなのところですけども、津の大門みたいな住宅地では花火は迷惑だということなら、せつかく港があるので、会場をこちらに変えるとか、そういったアイデアです。</p>
<p>交流に関する施策の多面的な取組みについて</p>	<p>この自然の恵みでございますけれども、津市は非常に大きい市になって、農村とか森林地帯も入ってきました。取組みを見ていますと、大人の話が多いんですけども、子どもたちの交流をまずやっていったらどうかと思うんですが、昔は、学校の遠足というのと、近くの山とかそういったところに行ったわけなんですけれども、美杉の川上神社の辺りって、都市部の、特に小中学生がそこへ行く、それから美杉の人たちは御殿場とか、海岸に来るとかですね。そういったところから始めれば、津市の一体感が、将来出てくると思うんです。まず、小中学生から、都市部の子どもとくるといいますか、そういうことをやれば、将来、津が一体化するし、大人たちもいい場所だと行ってくれるんで、そういうことを。既に森林セラピーということで、コースが出来てるんですね。それが多分ウォーキングコースになっていると思うんですけども、もし、そこにそういうのが組み込まれていないか若年層と言いますか、そういう人たちにも広がりを持たせてはどうかという御提案だったというふうに解釈いたします。</p> <p>雲出川流域だけではなくて、安濃川や岩田川もいっぱいあるわけだから、もうちょっと運動を広げていただきたいとそれから、遠足のバス代を予算に組み込めば、もっと活発に交流できると思います。バス代って大してお金がかわかる</p>
<p>森林資源の多面的な活用を</p>	<p>美杉町で、この9月に、森林セラピー運営協議会というのが出来まして、これから、その協議会が森林セラピー基地として、今、美杉町では小学校が1校になりまして、空いている学校もあるんです。そういうのも活用していただいて、津や久居の、街の子が美杉に来ていただいて、キャンプしていただいたり、勉強しますし、そういうのも、うまく利用していただいて、都市の方と山村の方と交流の場を作っていただいたら、私たちがそれから、今、山歩きというのがすごく流行っているんです。美杉に伊勢本街道がございますが、そこへ、バスがたくさん来てもらっています。先日も、1日に10台くらい来ていただいたんですが、1台のバスに40人くらい乗ってきますんで、10台で400人の駅もしっかり流行っておもしろいんですが、大和の方から来てみえて、こちらの方まではあんまり通っていません。多気の方から、北畠神社辺りが、大阪方面からの入込み客が多いので、その辺も、もっと力を入れて宣伝してたくさん来ていただいておりますので、皆さんも是非一度美杉に来ていただいて、その実態を見ていただいたらいいと思います。</p> <p>私、大学にいたら、森林関係の先生が言っておりましたけれども、大阪方面から来る人たちは、美杉の林を見ると、北畠を含めて、いろんな史跡もあります。そういう意味では、いろんな、いわゆる歴史のルートとかそういったものは、随時整備を進められているというふうなことは、出来ていても、それが案内される場所が限られているとか、宣伝が少ないということだと困りますので、やばいからって、来ていただけるようにということが重要ではないかというふうに思いました。それから、新雲出川物語推進委員会の皆さんは、ボランティアで、いろんな、地域の良さとか誇りとか、自然を守っているんだと思うんですが、そういうボランティア、ふるさとのことをよく教えていただけるような方の育成、整備だけではなくて、そういう地元の人にも関わっていただくことが大事ですね。もてなしという、すばらしい言葉</p>
<p>交流に関する施策の多面的な取組みについて</p>	<p>先程来、お話に出ております新雲出川物語推進委員会ですが、これは元々、津市が合併したときに、なんとか地元のことを考えました。そして、雲出川は源流から河口まで一つの線につながるじゃないかということで、雲出川を中心として、何か一体化させたい。それで、山・川・海、それぞれの子どもたちを含めた交流を、先ほど御紹介がありましたように、植樹から潮干狩りまで、前回、文化協会も是非、ということでお話をいただきましたので、そういった文化的な、歴史的なものもたくさんあるというふうに考えております。</p>

ラム分科会発言整理一覧

	発言概要	まとめ
<p>ふうに考えます。</p> <p>いておりますと、これはまあ、マスコミからの情報ですから正確なところ るんじゃないかと、こういうふうに思っておるわけです。 ますか、地域を主体とした補助金の在り方といったような構想まで、既に</p>	<p>今の地方の動きなどを見ている と、地域の発想を大事にしていく ということが重視されており、今 後、国の動向に変化があることが 想定されることから、柔軟な対応 をすべき。</p>	
<p>ないというのが答えです。)ではないでしょうか。 なところからずっと、テキ屋さんや若者もいっぱいでした。 イアで埋めていったら、この都心軸というのが生きてくるような気がしま</p>	<p>バスツアーの拠点等、メッセウ イングの駐車場の活用について検 討すべき。 また、花火等のイベントについ ても、新都心軸との連携を検討し てはどうか。</p>	
<p>です。 りに、今、小さいのはあるみたいですが、大きいキャンプ場をつく どもたちを美杉へ連れて行く、美杉の子どもたちを御殿場へ、海へ連れて よっと考えたんですけど。</p>	<p>大人を対象とする交流事業が多 いようであるが、子どもを対象と した事業にも取り組むべき。</p>	<p>森林セラピーコース等の整備 が進められているが、それを利用 した取組みを子どもや若年層 にも広げていくべき。</p>
<p>ければ、そういったものを少し加えるということ、さらに、もう少し若い、 :した。</p>	/	
<p>と思います。 らないので、やったらどうかと思いますけどね。</p>		
<p>地を運営していくということで、始めたところです。 強していただいたりというのもよいと思います。太郎生の小学校も空いて :ち美杉の者としても、活性化するのではないかと思います。 00人が来ていただいたことになります。 ので、こちらの方はあまりご存じないかもしれませんが。 いただいて、活性化に繋げていただいたらという感じもしております。 りがたいと思います。</p>	<p>統合により、空いている小学校 もあるので、そういった施設を活 用して、交流事業を実施してはど うか。 また、市外との交流について、 山歩きが流行っており、大阪方面 からの入込み客が多いので、市に おいても広報活動を充実すべき。</p>	<p>森林セラピーロードの一層の 整備を進めるとともに、その活 用に当たっては、地域の方々と の協働や人材育成にも配慮した 取組を進められたい。</p>
<p>、まさに森林を見に来たって感激して帰るらしいですね。 うに思いますし、それを一層、しっかりと進めていただくということ、あ はり、市としても、積極的にいろんな機会、場所をとらえて、案内しても ったり、恵みをさらに大きくしたりとか、いろんなことで活動していた 、養成というのは、なさっておられるわけですか。 言葉で表現されましたけど。</p>	/	
<p>地域を一体化するようなことをやりたいということで、何が出来るかなと 化出来るようなことがやりたいということが、そもそもの始まりなんです りまで含めまして、いろいろやっております。 ございますので、そういうものを含めて、是非、事業に取り組んでいきたい</p>	<p>(新雲出川物語推進委員会の活動 について説明)</p>	<p>交流に関する施策の実施に当 たっては、様々な市民の参加が 不可欠であり、特に、若年層や いわゆる団塊世代の参加を促進 するため、伊勢神宮の式年遷宮 や、近年のウォーキングブーム を積極的に活用するなど、市内 外の観光資源等を活用した取組 を推進されたい。</p>

論点	発言内容
	<p>最近、日本全国で、集落が崩壊していくと聞いております。年寄りの方が、一人で生活していると。若者が戻ってこない、集落がつぶれるといった情報が流れておるわけですが、美しい日本の国土を守っていくための受け皿として行政の方も若干なりの助成をして、積極的な取組みをしていったらいいんじゃないかと、こういうふう</p>
	<p>市民参加型ということになると、私もまだ現役で勤めてますと、なかなか地域のために働けないわけでした、職からおりますし、しなくてはならないだろうと思っております。 また、60歳とか65歳とかの方は、まだそれから20年や25年は悠に元気ががんばられるわけですから、そうあれば、大変効果的になるのかなと思いました。 その辺り、定年なされた直後位の方々に向けての取組みは、何かなされているんでしょうか。</p>
	<p>そういう取組みを進めている一方で、課題もあるということですので、そういう点をしっかりと取り組んでいた</p>
	<p>自然のいいところでございますけれども、そういうところは、今、過疎が進んでおまして、美杉、美里、芸濃と、津市のスポーツ少年団の人たちと話をしていると、合宿する場所がないと言っています。 野球の練習場や、合宿所や、サッカーの練習場、特にサッカーを練習する場所が津にはないそうなんです。 何か規制があるのかもしれませんが、これから空いてくる学校もあるわけですし、そういうグラウンドをできるか例えば野球の練習場所として、津球場とかを借りたらいいんですけど、そんな高いところは借りられませんので、学校では他の子どもたちもいて危ないし、思いっきり練習もできません。 ああいう、空いた学校のグラウンドを使わせてもらえるといいなあという声があるものですから、そこは、これか</p>
	<p>市内で、体育館の開放をしていますよね。</p>
	<p>合併で、いっぱい小学校も空いてきますよね。芸濃は2つ空いてきますし。</p>
	<p>美杉は夏も涼しいということで、今年の夏も結構よそからも来ていただいて使ってもらってますので、使っていた</p>
	<p>ボランティアガイドについてでございます。 平成25年に、伊勢神宮の式年遷宮がございますね。翌年の平成26年がおかげ年ですね。 その影響もあって、街道ウォークというのが、今、ものすごく盛んなんです。 先ほど、伊勢本街道にバスが10台来ていると言われましたけど、15台が一週間に2回あったときがあるんです。 白山町にも初瀬街道が通っておりまして、私も白山道するべの会の一員でございますから、日頃法被を着て、道の津市全体を見渡しますと、一身田寺内町のところをトップにですね、各地区で大変な活動をされておまして、ガイは名古屋方面から、たくさんいらっしゃいます。 また、1団体500人くらいの団体さんが多いんです。この前白山に500人の団体がおみえになりましたが、ガイないくらい忙しかったです。 それぐらい、大変なブームになっておりますから、そのブームに乗らない手はないと思います。 中高年の方が多くて、若者というところまではちょっとまだ届いていないと思いますけれども、やっぱり、今の2、</p>
	<p>来た人たちがまちに寄ってくれるように工夫して、買い物でもしていただくとか。そのまま帰るのでは、メリットが</p>
	<p>たまたま私も、親父が美杉の出身でして、小学校、中学校の間は、美杉におりました。やはり美杉は素晴らしいと今は、猿が出てくるようになってきて、私の親戚も猿退治で困っております。 合併後、私どもは、津市内の各施設を見て回ったんですが、市内にはたくさんの施設があるんです。 規模的には中途半端なものが多いですけども、たくさん施設があるんです。竹原にも、素晴らしい施設がありま また、美杉の山の上のところにも、素晴らしいグラウンドがある。その横には、キャンプファイヤーができる施設がああいうのを、もっともっと利用できないかなと思いつながら、スポーツ少年団の方に言うわけです。 あの上のグラウンドは、はっきり言って、他にはないような素晴らしいグラウンドですが、その活用量は非常に美杉のソフトボールのスポーツ少年団はあそこを使っているんで、一度見に行ったことがあるんですけども、競技そういう施設を、もう少し活用できないかと思つます。 旧津市内からここまで行っているいろいろやるには、何かがないとなかなか行けないというのが現状だと思うんです。 だから、そういう素晴らしい土地を、何とかみんなで盛り立てていければと思います。</p>
	<p>子どもたちの生活が、いいのか悪いのかは別にしまして、普段の生活様式が、かつての我々の子ども時代と比べて、私がある学校に勤めていたときに、正月の休み、お正月以降7日まで休みがあるわけなんですけれども、その休みがしかし、一度も子どもの姿を見ずに、年配の方が、ゲートボールだとか、ウォーキングだとかで、元気に動いてみ子どもたちの生活が、かつての、今ここにおみえになれる方の子ども時代とは、非常に変わってきていること大きく変わってきておりますが、子どもたちが家の中に入って、機械相手に遊んでいることが、子どもの成長に果たただ、子どもたちが外で遊ぶのに必要な、かつて我々が遊んだ里山が、今、市内にあるだろうか。 今、美杉の方の森林のすばらしさ、芸濃町の方の森林のすばらしさをお聞きしました。</p>

ラム分科会発言整理一覧

	発言概要	まとめ
<p>めには、年をとっても暮らしていきたいという都会の方が出てくれば、そう思ったものですから、発言させていただきました。</p>	<p>限界集落等高齢化が進む中山間地域においては、定年後に田舎暮らしを希望している都会の人の受け皿となるような移住交流の取組をさらに進め、地域の活性化を図るべき。</p>	<p>中山間地域においては、定年後に田舎暮らしを希望している都会の人の受け皿となるような移住交流の取組をさらに進め、地域の活性化を図りたい。</p>
<p>ら放たれれば、地元の方と一緒にいろんな取組みができるだろうと思って</p> <p>ういう方々に、どう事業の中に入れていただくのか、その辺のポイントが</p> <p>：だくというような提案という形はとらせていただけるかなと思います。</p>		
<p>、小学校が廃校になっていっています。</p> <p>だけ使わせてあげるようにできないでしょうか。自分たちの学校でやっているんです。</p> <p>らの課題として検討してください。</p> <p>：だいたらいいと思います。もちろん、日程的に空いていればとなりますが。</p>		
<p>よ、</p> <p>ご案内なんか立たせていただいております。</p> <p>イドやってる者も大変ですけれども、お越しいただくのも関西からあるい</p> <p>イドをしている私たちは15人くらいしかいませんから、お昼も食べられ</p> <p>、3年の間は大いに活かしていくべきではないかなと思います。</p> <p>が半減してしまいますから。</p>	<p>伊勢神宮の式年遷宮や、近年のウォーキングブームを積極的に活用すべき。</p> <p>現状では中高年の方が多く、若年層層まで拡大できていないため、このような観光資源の活用を。</p>	<p>交流に関する施策の実施に当たっては、様々な市民の参加が不可欠であり、特に、若年層やいわゆる団塊世代の参加を促進するため、伊勢神宮の式年遷宮や、近年のウォーキングブームを積極的に活用するなど、市内外の観光資源等を活用した取組を推進されたい。</p>
<p>：ころです。</p> <p>ます。</p> <p>がある。</p> <p>：によくない状況です。</p> <p>技をのびのびとできます。</p>	<p>市内にたくさんの施設があるが、離れたところまでいって活用するという現状にない。</p> <p>スポーツ少年団としても、今後、そういった施設の活用を検討したい。</p>	<p>子どもたちの生活様式の変化に関わって、交流に関する施策の実施に当たっては、子どもたちが自然を通じた交流が図れるよう、廃校舎を利用した生活体験等、様々な取組を検討されたい。</p>
<p>、非常に変わってきております。</p> <p>：中に、3日ほど地域を歩いたことがありました。</p> <p>：える方の姿を見ました。</p> <p>：は事実だと思います。</p> <p>：たしていいのかということは、私自身は非常に疑問に思います。</p>	<p>子どもたちの普段の生活様式が、昔と比べて非常に変わってきている。</p> <p>自然と共生するような生活とするような取組を進めるべきでないか。</p>	

論点	発言内容
	<p>これは、非常にすてきなものですけれども、メジロを捕ったり、ホオジロを捕ったりするような里山が、自分たちもまた、川へ行っても、子どもたちが川へ入って遊べるようなところがあるだろうか。</p> <p>実は安濃でもその話が出たんで。かつてのことを思うと、安濃川が、葦の原になって、子どもたちが入る幅がない。そういう状況の中で、我々が子どもたちを育てていく上で、また、生活をしていく上で、自分たちが今置かれている今後、進めていかなければならないのではないかと考えております。</p> <p>昔に戻るというわけではありません。今もいろんな取組みを実施して、前へ前へ進んでもらっているわけですが、人ありきとなった環境作りを、今後、我々は考えていかなければならないのではないかと思いますので、是非、非常に難しいことではありますけれども、基本的なところだと思いますので、きちっと提言書の中にまとめていかないと、いざれにしても、子どもたちが自分たちのふるさとを、自然の中で楽しむということでございます。</p> <p>そのことは、将来自分たちの街を大切にするという気持ちに繋がる大きな要素ですので、そういった廃校等も含めてさせていただきますと思います。</p>
有害鳥獣対策の強化を	<p>前回からの提言・意見のまとめを見ていただくと、このプログラムの中に、有害鳥獣対策というのが論点となっており、先ほどお話も出しましたが、動物たちも生きていくのに必死なんですね。</p> <p>今、COP10が名古屋で開催されておりますけれども、やはり生き物たちと共生できるまちづくりというものは、ようになってきたのは、人と動物の生活する領域の境界線があやふやになってきている、すなわち、緩衝地帯である里山です。</p> <p>動物たちを退治すること、やっつけることばかりを考えるのではなくて、そういった目でもって、何か対策を立てて治水治山という問題もありますけれども、やはり、遊び場の問題も含めまして、里山整備が重要であり、そういう川の改修工事も、もちろん大切でございますけれども、親水公園なり、そういったいわゆる自然工房といいますか、付け加えさせていただきたいと思っております。</p> <p>それから、このプログラムの中で、バイオマス等の活用ということが、まったく話題に上っておりませんが、その辺書かれていない状況なのですが、それほどどのようなことなのかということも、少し、御説明いただければと思います。</p> <p>そういった調査研究というのでしょうか。そういうものを進めているという中で、一つの方向を見つけてもらうと思います。</p> <p>何もやっていないというわけではないということで、御意見をいただきたいと思っております。</p> <p>有害鳥獣対策の件ですが、これは、子どもの登下校の時の安全確保の問題ということも含めて、現在は間引きですが増えているというふうな数字がありました。</p> <p>この辺につきましてはどうでしょうか。</p> <p>有害鳥獣対策ですが、前回の審議会でもお話をさせていただいたんですが、年々、鳥獣の被害が増えてまして、最近で夜はもう、危なくて車で道路を走れない状態です。</p> <p>鹿との交通事故が何件あったかはちょっと分かりませんが、私の近くでも、5人や6人は交通事故をやっておる。また、鹿というのは骨が割と堅いらしくて、車とぶつかると車が損壊するんです。</p> <p>そういう被害が出てまして、もうほんとに夜は危なくて、40キロ以上のスピードでは危なくて走れない状態になっ。なかなかな言っていられない状態となっております。</p> <p>鹿というのは、10頭の母親が1頭ずつ、10頭の子どもを産むとすると、10頭のうち7頭までが雌なんです。子を産むということになります。そういう状態で、ねずみ算式にどんどんどんどん増えていくらしいんです。</p> <p>そういう状態で、今は、家の軒まで来るような状態になってます。私の家も、玄関前に鹿がしょっちゅう来ていて、もうそんな状態ですから、とにかく頭数を何とか減らしていただかないと。</p> <p>美杉に入ってもらえばよく分かるんですが、鹿と猿の柵の中でお百姓さんが野菜作りをしているというような状態。今、頭数調整として捕っているのも、昨年、津市全体で約1,600頭と実績が書いてもらってありますが、その半分は、その捕った800頭位を、適正に処理されている部分もあるとは思いますが、ちょっとどのくらいの数が分かりません。</p> <p>ですから、何とか、今の対策以外に、そういう適切な処理のできる方法を、施策を、というのを、何とか考えていて、死骸の焼き場を作っていただくか、食肉として利用できることを考えていただくということができないでしょうか。</p> <p>今、美杉地区では、地域の活性化協議会というのを立ち上げまして、いろいろな活動を始めた協議会も出てきています。</p> <p>それでは、そういった、いわゆる間引きという処理を講じつつ、他県で先進的に食肉加工する例も多々あると思えます。しかも可能な限りにおいて、企業との協働というか、よく分かりませんが、何か特産品になれば一番いいんではないかと、後押しですか、そういう要望をつけさせていただくことでよろしいでしょうか。</p> <p>それから、子どもたちが、実際に被害がある危険な場所を通ったりするということで、これについては、何か教育もさせていただきますでしょうか。</p> <p>そういう場所があることは間違いのないと思っておりますので、引き続き、しっかりと取り組んでいただくという形でお願いいたします。</p>

ラム分科会発言整理一覧

	発言概要	まとめ
<p>の身近にあるだろうか。</p> <p>という状況になっています。</p> <p>る生活と同時に、そういう、人の生活に関わるような環境作りを、是非、</p> <p>も、我々の生活、それから子どもたちの生活が、自然の中に、子どもあり</p> <p>そういう方向で、まちづくりを検討していただければと思います。</p>		
<p>せていただきたいと思います。</p> <p>て、活用するというこも、提案の中に入れてさせていただくというふう</p>		
<p>おります。</p> <p>、非常に大切なことで、近年、動物たちが里の方に下りてきて人を脅かす</p> <p>里山が整備されていないということが非常に大きな問題かなと思っており</p> <p>て行かなくてはいけないのかなということのを思いました。</p> <p>ことも含めた上で、考えていただきたい。</p> <p>か、そういった形の取組みも是非考えていただきたいなということで、一</p>	<p>人と動物の生活する領域の境界線となる里山が整備されていないことが獣害の大きな原因。</p> <p>頭数調整だけでなく、里山整備の観点からも取り組むべき。</p> <p>治水治山という観点からも里山整備は重要。</p>	<p>有害鳥獣対策をより一層推進するとともに、環境保全の観点から、駆除後の対応について、新たな取組を推進されたい。また、里山の荒廃も獣害の大きな原因と思われることから、里山の整備についても検討されたい。</p>
<p>辺り、記述の方も非常に下の方が空白になっておりまして、ほとんど何も</p>	<p>バイオマスの活用についても検討を進めるべき。</p>	<p>バイオマス等の活用について、今後も調査研究を進め、本市の状況に見合った方向性を示されたい。</p>
<p>ということ、提案するという形でよろしいでしょうか。ありがとうございます</p>		
<p>かね。これを中心に進めておられるということで、かなり数も前年度比で</p>		<p>有害鳥獣対策をより一層推進するとともに、環境保全の観点から、駆除後の対応について、新たな取組を推進されたい。また、</p>
<p>では、昼間でも、美杉の奥へ行くと、道路から見えるところにおるんです。</p> <p>んです。</p> <p>ってますんで、捕るばかりが対策じゃないというもあるんですが、なか</p> <p>子ども7頭が雌ということになりますと、翌年は17頭が1匹ずつ子ども</p> <p>るんです。毎晩くらい。</p> <p>んです。</p> <p>は美杉で捕っていると思うんです。</p> <p>ませんが、不適正な処理をされて、そのまま山に捨てられているものもあ</p> <p>たきたいと思います。</p> <p>か。</p> <p>ますので、その辺の支援も市にお願いしたいなと思ってますので、よろし</p>	<p>特に美杉地域では有害鳥獣による被害は深刻であり、頭数調整をしないとどうしようもない。</p> <p>なお、捕殺した後の対応も必要。</p>	<p>また、里山の荒廃も獣害の大きな原因と思われることから、里山の整備についても検討されたい。</p>
<p>ますので、そういったような情報を、しっかりと発信していただきながら、</p> <p>すけれども、そういったことにも取り組んでいくということを要望すると</p> <p>委員会等で特に推進しているというような、さらに進めていける要素は、</p>		<p>有害鳥獣の農作物への被害以外の、人間、特に子どもへの直接的な被害の防止について取組</p>
<p>いするということになりますでしょうか。</p>		<p>まれたい。</p>

論点	発言内容
<p>地産地消を踏まえた漁業振興の取組み</p>	<p>1-3の海に開くまちづくりプログラムでございますが、地産地消を踏まえた漁業振興の取組みをということでございまして、その中では、道の駅における魚の販売等の取組みを進めてほしいというような内容でございましたが、これについて</p> <p>私も昨日聞いたばかりなんです、今度12月18日に、美杉の道の駅で、白塚の海産物の販売をやっていたかと、私も、どのような形になるか、聞いたばかりで分からないんですが、道の駅で大々的にやっていたかという話を聞いています。</p> <p>リピーターが増える要素としては、いろんなものがよりどりみどり、海のものから山、里のものを一か所で購入できると、いろんな人が訪れてくれるというようなことを期待できるというようなことでもございました。</p> <p>先ほどおっしゃったように、河芸地域の審議会におきましても、今から3年のうちですか、道の駅ができるという前アピールできるのか、たくさん御意見が出ておりまして、まだ確たる方針は出ておりませんが、今、一生懸命是非、行政の方の御支援をお願いしたいという気持ちでございます。</p>
<p>まちづくり（ハード整備）に歴史（伝説）、文化、伝承等を活かす</p>	<p>それでは、1の方の、歴史と文化の拠点形成プログラムでございますが、大きく分けて、まちづくりに歴史・文化・文化でございます。</p> <p>観光・文化・自然・スポーツといったものが盛りだくさんに入ってくる内容だと思っておりますが、何か、さらにこれを発する御提言がございませんでしょうか。</p> <p>今、予定と比べてどれくらい進んでいるというふうな当局の方では考えておられるのでしょうか。</p> <p>文化と歴史の拠点形成という意味において、観光ルート等の整理や、集客のための取組みという点で、どうでしょうか。</p> <p>歴史とか文化とかの史跡となりますと、保存ということも大切なこととなりますので、保存計画も策定して、なおさらにこれを継続的に進めてほしいという形で、提案をさせていただきたいと思っております。</p>
<p>スポーツイベントの開催目的について、市民の健康増進というだけでなく、観光、地域振興の観点も重要ではないか</p> <p>総合的なスポーツ施設の整備</p>	<p>前に、シティマラソンの話を、おっしゃっておられたと思います。</p> <p>私たちの大学の中にも、実は非常にマラソン愛好家の方が大勢おりまして、その中に、御存知の方もおられるかもしの日本代表についていた高地トレーニングの専門家の方がいらっしゃいます。元々は、マラソンの高地トレーニングという人的資源をあまり利用ができてないと思っております。</p> <p>その先生と、先日の審議会でのマラソンのお話をしましたところ、元々、名松線沿いの駅伝があったとお聞きいたし、その先生によると、あれは非常によかったのに、何でやめちゃったんだろうということでした。</p> <p>多分、諸事情がいろいろおありになったんだろうと思うんですが、周りを見てみると、マラソンばかりでなく、例えば、津シティマラソンじゃ全然だめだからって言って、菰野町のかもしかマラソンに行く人もいます。あのよう、うまくできるんじゃないかかと思っております。</p> <p>他にも、志摩マラソンもありますよね。志摩マラソンもすごく人が集まるし、伊勢マラソンなんて、野口みずきさんが津市でも、フルマラソンをやらうと思えばやれるのというお話だったんですが、それをやるためにはすごくたくさん、しかし、先ほど、メッセのところ大きな体育館を作る、体育館を作るということは、世界大会も開催できる施設を津市にとっては非常に大きな、ある程度お金も使ってやることなのだろうと思っておりますが、施設を作っても、それなり私は、東京マラソンや、いろんなフルマラソンにも出ておりまして、マラソン大会というものが、非常に多くのお金、そういうことからも、スポーツ施設を作るとおっしゃるのであれば、そういうイベント等も含めた上で、利用しやすいイメージがあります。</p> <p>具体的に大きな体育館を作るという話があるのであれば、それに向けて、いろんなスポーツが盛り上がるきっかけという人がたくさん出てくると思っております。</p> <p>10キロマラソン、ハーフマラソン、フルマラソンというのは、走っている人はたくさんおられると思っております。</p> <p>今、すごいブームですから、例えば、美杉までの街道を行くっていうのは全然問題ないことで、三重県とともにやるいろんなイベントとの協働じゃないんですが、もし、津市として、そういうイベントも考えていただく、津市と三重大学は、救急医療に関する連携も行っておりますので、そういう意味でも、その他のいろんな面で協働し生が、私はすごく好きなので是非やりたいと、おっしゃっておりますので、いろんなところで協働していくことは可能歩くこと、そして少しジョギングすること、そして走ることは、実は繋がった営みでして、その営みによって健康にうことも全部含めて、取り組んでいただきたいと思います。</p> <p>もし津市がスポーツを中心に活性化を図るとおっしゃるのであれば、そういう人的資源等を是非活用していただきていていただきたいと思います。</p> <p>式年遷宮に向けてというのは、時間的に無理かもしれませんが、市民としては嬉しいなと思っております。</p> <p>先般も、ハーフマラソンの実施についてお話しさせていただきました。</p> <p>来年1月30日に津シティマラソンを、安濃を中心に開催いたします。このシティマラソンですが、スタッフは、ノ今、どういスタッフで運営しているかを申し上げますと、体育協会、各競技団体から何人かが出ております。さらに競技団体から出て運営しておるわけなんです。</p> <p>市からもいろいろ御協力いただくわけですが、はっきり言って、全部ボランティアでやっておるわけなんです。当日の弁当も出ません。安濃まで行く交通費も、みんな自前です。</p> <p>そんな中で、シティマラソンを運営しているわけですから、ハーフマラソンを実施するとなれば、これはもう一つ、シティマラソンの運営というのは、参加者にただ走ってもらえればそれだけでいいというものではないです。運営に当たっては、やはり、地域と警察・交通関係との調整を始め、様々なことを全部しなければならぬ。</p>

ラム分科会発言整理一覧

	発言概要	まとめ
<p>ございます。 て、何か。</p>		<p>漁業振興の取組については、道の駅での海産物の販売等、地産地消を踏まえた取組をより一層推進されたい。</p>
<p>らしいですね。 聞いてますので、これからも取り組んでいただけるのではないかなと思っ</p>	<p>美杉の道の駅で白塚の海産物の販売が行われるが、今後もこのような取組みを進めてほしい。</p>	
<p>というのは非常に魅力的なことです。そういう取組みの中で、またい</p>		
<p>前提で、委員さん、侃々諤々、何を売ったらいいのか、何が特産物として検討中でございます。</p>	<p>河芸の道の駅について、地域審議会でも検討している。行政の支援をお願いしたい。</p>	
<p>・伝承を活かすということ、新都心軸の具体的なイメージというところ 発展させていく上で、課題と思しき点、こう進めたらよいただろうというよ うか。</p>		<p>歴史文化資源について、保存に関する取組を今後も継続的に進めるとともに、それらを活用した誘客にも取り組まされたい。</p>
<p>かつ、保存のための取組みも進めているということでございますので、さ</p>		
<p>しれませんが、先日、サッカーのワールドカップが開催されましたが、そ ぐの専門家です。そういう人がいるにも関わらず、 しました。 例えば、ウォーキングをしている人もすごく増えています。 うな高低差が激しいところではなく、もうちょっと平地で走れるところ ゃんがいるもんだからすごくたくさん人が来ています。 さんのハードルがあるのは十分承知しております。 目指すというふうにお聞きしております。 りのイベントがないとそれを作る価値が半減するように思います。 金が動く大きなイベントの一つだと認識しております。 用計画みたいなのがないと、それはいいよねって言って終わってしまうよ を作っていただけたら、市民の方も、がんばってやっつけようかな ることも可能ではないかと思えます。 といいと思います。 していくことができますし、大学の中を見ても、何人かの医学部の先 能だろうと思えます。 になるということも、もう実証されていますので、糖尿病を予防するとかい きたいし、きちんと年次計画みたいなのを立てていただいて、それを公開</p>	<p>津シティマラソンをはじめとする市のスポーツ関連事業において、市内の人的資源を有効に活用すべき。 スポーツ施設の建設に合わせ、スポーツ振興施策も実施すべき。</p>	<p>スポーツ施設の整備と合わせ、健康増進等をテーマとしたスポーツ振興施策を実施されたい。また、スポーツを軸とした観光や地域振興についても検討されたい。</p> <p>津シティマラソンを始めとするスポーツ関連事業においては、市内の人的資源の有効活用を図るため、関係者だけでなく、多くの人の協力のもと実施することを検討されたい。</p>
<p>ハーフマラソンをやりたいんですよ。 らに、体育振興会も何人かが出ています。このように、ほとんど体育協会 です。 、違う組織を作るなりして対応していかないと、とうていできません。</p>	<p>スポーツ関連事業の実施に当たって、施設整備や人的資源について、市を始めとする様々な方に御協力いただきたい。</p>	

論点	発言内容
	<p>そういうことも考えると、どういった組織であればこれを受けて、シティマラソンを実施できるのかなと思います。おそらく、運営団体側に何かメリットがないと、これはできない。こないだも、体育協会の役員と話をしていたときに、こういう話がありました。我々としても、みんなハーフマラソンをやりたいんです。そうだけれども、他の人たちがどれだけ応援してくれるの。実際に、津シティマラソンに何人みえると思います。2,300人くらいです。この参加者を、ジョギングから2キロ、5キロ、10キロというふうに区別をする、それだけでも大変なものなん。私も、陸上競技をかじった一人ですけれども、はっきり言って、2キロ、5キロ、10キロより、ハーフマラソンのをどうするのか、これは、前に濱野さんにもお答えしたんですけど、今は、そんな状況です。それから、屋内スポーツ施設のことについて、今、お話しされましたけれども、実は、昨日、「動く市長室」で、体我々、長年の夢を、今度実現しようというふうになっているわけです。屋内スポーツ施設について、我々が一番要望したのは、高速に近い、駅に近い、飛行機に近い、市外から来た場合に具体的な場所を挙げて、どこどこにしてほしいというような希望はしたことはありません。たまたま、メッセウイングを中心としたあの辺で、総合体育館を作ったという話になってきましたが、現時点では、津球場は鳩が入ってくるし、暑いし、久居の体育館も、暑くてやっていられない、そういうふうな施設なんです。実は、9月17日から9月21日まで、三重県で日本スポーツマスターズというのが開催されました。これは、はっきり言って、高齢者のオリンピックみたいな大会です。その参加者として、7,000人が三重県に来ていただきました。選手だけですよ。ところが、競技のグラウンド、その他、競技する場所がないものですから、津には、県都でありながら、1,500人し。津市では、バレーボールと軟式野球が行われました。軟式野球はメインとなったのは津球場、安濃の球場で、その他に、ヤマギシのグラウンドとか、芸濃のグラウンド。それ、選手は満足出来ない状態でしたが、我々体育協会も一生懸命やった。安濃の体育館では、バレーボールだけをやったんですが、それでも、試合の半分以上は鈴鹿に持って行かれました。はっきり言って、選手は非常に困っておられたと思うんですが、それでも気分よくゲームをして、21日の終了式。そんなふうに、津では、体育館すら、大きな県大会、国の大会とか、そういう大きな大会を全然行えないようなもの。中学校の部活の大会すら同様です。中学校の陸上競技の大会はどこを使っていると思いますか。津にはトラックがないんです。実は伊勢のグラウンドを使っています。それから、大安のグラウンド。公式グラウンドはそれぐらいしかないんです。大会そのものを、伊勢や大安の方に持って行って、競技をしているというわけです。津市は、三重県の県都ですから、そういう大会の出来る施設を作っていかなければいけないと思います。こういうふうに私たちは思っております。これが、何十年に渡る、私たち関係者の夢です。昨日の「動く市長室」での市長さんとの話でも、そういう話になったんです。皆さんがおっしゃっていただいておりますように、是非、シティマラソンをやりますよ、みんなで。その代わり、皆さんの御協力をお願いいたします。これは、体育協会だけの力では、絶対に運営できません。だから、いろいろみなさんに御協力いただいて、行政も入ってもらって。実は、シティマラソンのために、私、寄付をもらいに企業を歩いて回っているんですよ。会長がわざわざ行って、寄付をもらわなければ、シティマラソンの運営ができません。是非、ハーフマラソンやる時には、皆さん、御協力をお願いします。</p>
	<p>シティマラソンを、観光とか地域振興の観点から、少し見直す。それについては、体育協会のみでは、ハーフマラソンとかの実施は不可能だということで、市サイドの後押し、そう体育協会と一緒にやっていけるような体制がほしいということでございますね。</p>
	<p>先ほど、体育協会の会長がおっしゃられましたように、体育協会にすべてをお任せするという形で、ハーフマラソンだけれども、前にも申し上げましたように、合併前に、長野県の小布施のセイラさんが白山町へおみえになりまして、私も長野へ行って見たんですが、本当に、体育協会の方ももちろんみえますけれども、地域の方がみんなで協力して本当に地元密着型の手作りの大会で、スタートの時に、セイラさんが乗っていた台といえば、工事現場の台みたい。ちよっと音も外れてるみたいですが、一生懸命演奏してくれますし、道沿いでは、地域の方がいっぱい応援して。津市もそういう大会でいいと思うんです。きちんとしたスポーツの大会としていくと、なかなか難しいかも分かりませんが、楽しめるイベントという。小布施の大会で最後におもしろかったなと思ったのは、参加料が少し高いようですけれども、温泉の券をくれる。これは、津市でもそんなに難しくありませんよ。津市でも、参加料をあと500円上げてもらって、前日でも、次の日でも、一週間の間でもいいですから、榊原の温うな気がするものですか。もちろんスポーツの大会ではありますが、観光や、いろんなものを含めたいなと思います。また、交通規制の問題ですけれども、小布施では、メインの道はあんまり走らせてくれなくて、脇道みたいなところですが、それがまたよかったです。メインの道だと、アスファルトの広い道路ですけれども、脇道ですから、いろんなところを、ぐるぐる回るみたい。コースの最後は道の駅になっていまして、そこに帰ってくるものですから、みなさん、自然と買い物をして帰ります。</p>

ラム分科会発言整理一覧

	発言概要	まとめ
<p>。</p> <p>のか。体育協会だけで、これができるわけがない。</p> <p>です。</p> <p>の方が華やかでいいですよ。しかし参加者が何人に増えるのか、応援態勢</p> <p>本育協会と市長との懇談を行いました。</p> <p>に、非常に交通の便がよいところがいいなということです。</p> <p>、市内の大きな体育館は、津体育館、久居体育館だけなんです。</p> <p>しか来ていただけませんでした。</p> <p>とかを借りて競技を行いました。</p> <p>。</p> <p>には帰ってもらいました。</p> <p>のしかありません。</p>		
<p>ういったところもしっかりと取り組んでいただきながらですね、そういう</p>	/	
<p>ラソンの実施というのはなかなか難しいと思います。</p> <p>、楽しんでやってますとお話をいただきました。</p> <p>てやってますね。</p> <p>なものでしたし、スタートの演奏はというと地元の消防団の人の演奏で、</p> <p>てくれて、さすが長野ですから、リンゴやらいっぱい食べさせてくれます</p> <p>形で、この津の名物になるようにしたらいいと思います。</p> <p>です。</p> <p>温泉にでも行ってもらうとか、何か観光とも結びつけていったら、いいよ</p> <p>ろを走るようになっていました。</p> <p>な形で楽しみながら走れました。</p> <p>：すね。あれだけ商品が並んでいると。</p>	<p>津シティマラソンについて、楽しめるイベントという形でハーフマラソンを実施して、交流事業としても活用してほしい。</p>	

論点	発言内容
	<p>うまいこと組んである、さすが観光地だなと思いました。 ですから、私が言いますのは、せっかくシティマラソンに来てもらうんですから、それをうまく利用してほしいとい 市の職員で走るのが好きな人は、来年にでも一度行って見てこいと思います。 私が行って見てきましたら、そう思いましたものですから。</p> <p>今、基本計画を策定するとのお話をいただきましたので、どういうふうに入るのか分かりませんが、先ほど商工観 て喜んでらおうという観点でそういうことをやれば、リピーターも増えるということだろうと思います。 それから、フルマラソンであろうと、ジョギングであろうと、ある程度健脚の方でないといけないですけども、レ 健康・体力づくりをして、病院にかからないようにというような観点で、いろいろな取組みがなされてきておりま そういったところに関しては、何か御提案とかございますでしょうか。 ここでは示されておられませんけれども、いろんなパターゴルフだとか、なんとかゴルフだとかがあるように思いま</p> <p>高齢者のスポーツということでは、アクティブシニアということがあります。 定年になられた方々が組織を作って、いろいろなスポーツをやるというもので、市内でもあちこちで活動されてみ えば、津では津ソフトボールがございいます。 今まではゲートボールだけだったんですが、今は、テニス、それから、なんとかゴルフとか、ずいぶんたくさん出 ああいうのを、これからもっともっと強化していかなければいけないと思います。 これは教育委員会だけでなく、福祉施策でもありますね。 寝たきり老人を作らないために、高齢者の健康づくりというのが、今後、今まで以上に大事になってくると思いま 私どもが中心になって、いろんなことをやっておりますので、是非、そういうのを、もっともっと盛り立てていき</p> <p>そういう指導員とか、そういう方々はふんだんにおられるということではよろしいでしょうか。</p> <p>津市にある資源を活かしてという観点では、津市内には相当多いゴルフ場を利用してはどうかと思うんですよ。 アジアンサーキットという、アジアをずっと回ってゴルフをするというのがあるんですけども、津市内は、ゴルフ 10日とか一月がかりで回って、優勝者には、どこかの、東海マスターズに出られるとかいう席さえ取れば、全国が 難しいとは思いますが。</p> <p>大変貴重な提案でございますので、そういった方面での取組みも、ちょっと話をしてもらおう、口火を切ってもらおうと 思います。</p>
<p>その他（施策の広がり と 広報のあり方）</p>	<p>実は、私は、津市民ではありませんが、よそから入ってきた者なのでいつも思うんですけども、津市は、皆さんが も、県都であって、大学や県庁があるというまちだと思います。 また、特徴的なものもありますよ。例えば、市の名前もそうです。津市は、世界で一番短い名前なんですよ。 私も、英語で津市って書くときに、いつも苦勞するんですよ。 「Tsu-shi」って書くとなんか変な感じがするので、「Tsu-City」って書いたり、いろいろ苦勞しています。 特徴的なものもあって、だけど、住みやすいと皆さんおっしゃいましたよね。 津市は、三重県の中では、割と転出入される方が多いと聞いています。 そうすると、転入してみえた人が、ああ、ここ、意外と歴史もあるし、自然も多いし、海も山もあって、いいところ 宣伝してもらえたりする、もしくはいい印象を持っていただけたらいいなと、私いつも思うんですね。 それなのに、私の印象なんですけれども、津市の広報の仕方に問題があるように感じます。 津市の、市民に対するアプローチの仕方というか、例えば、新都心軸にしても、なぎさまちにしても、うまく伝わ 阪とかあっちの方向を向いているような気がして仕方がないので、あれなんですけれども。 津市って、他から入ってきた人がイメージ出来にくくなってすごく思っています。 もうちょっと、なんでしょうか、宣伝の仕方がどうか分かりませんが、例えば、津市の広報にしてもそうなんです いんです。こういったことを、もうちょっとうまく、あんまりたくさん出し過ぎずにしたらいのにもと思います。 この審議会に出てきたときに、総合計画が総花的になりすぎていてダメだっておっしゃった委員がいて、私も、そ 重点プログラムも項目が多くありすぎるような気がしてしょうがないので、メインのものをぐっと押し出して、こ 評価についてもそうです。この見直しの結果も出しますよね。そのときの出し方を、是非ちょっと考えていただき 津市民が、津市はこうなっていくんだ、こうなったらあと5年たてばこうなって、楽しみだなんて思えるような、目 っと関心を持って下さるかなって思うんです。 そうでないと、こういった施策が実施されていて、その評価や見直しを私たちがやって、こういう事業がこんなふ 先ほど長谷川委員がおっしゃったような、市民の方にも、もっと協力してもらいたいというのは、総合計画の中で もともとこの中には、協力・共生というのは主要な柱だったはずなので、もうちょっと、津市民の関心を寄せても それも、特にメインになることを中心に、インパクトのある報告書づくりをしていただきたいし、プレスリリースの</p> <p>津のPRになるかどうかは分かりませんが、半泥子が大きなポイントとなるような気がします。 陶器もブームとなっていますから半泥子に関連する施策のところですが、出来たら、体験が出来る形がいろいろと 東の魯山人、西の半泥子というくらい存在ですから、やはり、その、西の半泥子が体験できる場所というのは、 それから、市内にウォーキングが出来るコースがいっぱいありますから、せっかくならPR出来るウォーキングとし こないだ少し書いたんですけども、津市にかこつけて津（2）デイウォーク、高虎とお江の歴史を歩いてみませ いてくるようなPRをしたらどうかなあと思います。</p>

ラム分科会発言整理一覧

	発言概要	まとめ
<p>いうことです。</p>		
<p>光部次長さんから、もてなしという言葉もございましたように、人を集め レクリエーションと言いますか、高齢者の方々が、元気にスポーツを通じ ます。</p>		
<p>ます。</p> <p>来ています。</p> <p>ます。</p> <p>たいと、寝たきり老人を作らない、という方向で行きたいなと思います。</p>	<p>スポーツ関連事業について、健康増進という福祉政策としての位置づけも重視し、取組みを進めるべき。</p>	
<p>ゴルフ場が全国的に見ても多いので、これを活かさない手はないと思います。 から来るのではないかなと思うんですが。</p>	<p>市内に数多くあるゴルフ場を利用した施策の実施を。</p>	
<p>という、そういった取組みをしてもらおうということで、お願いできればと</p>		
<p>おっしゃられたように、商業都市でもないし、産業都市でもないし、で るよねというふうにして、またどこかに転出した後も、津市のお話をし ていないように感じます。美杉はどちらかという、どうも奈良とか大 すけれども、印象が残らないんですよ。はっきり言ってインパクトがな れがすごく納得できて。 れを広報して。 たいと思います。 目標と進捗状況の出し方をしっていただけたら、きっと市民の方もも うに進んでるんだよって言葉で言っても、うまく伝わりません。 も、市民との協働という形で書いてあったと思うんですよ。 らえるような出し方を、是非是非していただきたいと思います。 の仕方少し考えていただけたらいいのではないかと思います。</p>	<p>ポイントを押さえたインパクトのある広報を行ってほしい。</p>	<p>ポイントを押さえたインパクトのある広報を。 総合計画におけるそれぞれの施策の成果を結びつけて、全体的に大きな成果としていくべき。 それらをいかにうまく広報するかが重要であり、しっかり取り組まれない。</p>
<p>思います。 意外と全国にPRになると思います。 してほしいと思います。 んかとか、ウォーキング大会を開催するのでも、広報、新聞社なんかがつ</p>	<p>津市の特徴として川喜田半泥子を活用すべき。 イベントとの名称に「津」という名前を活用してPRしてはどうか。</p>	<p>千歳山については、北大路魯山人と並び称される川喜田半泥子に関連する施設として、全国にPRできる資源であることから、歴史と文化に接する場としての活用を検討されたい。</p>

論点	発言内容
	<p>津のウォークはいいのがありますが、県外まで広報することを考えた場合には、そういう形でしていくのも、一つ。また、マラソンの話も出ましたけど、マラソンは今ブームですから、全国でも、京都や名古屋や大阪が開催するといや京都に先駆けてフルマラソンをするんです。</p> <p>参加者の枠は5,000人くらいだったそうなんですけど、5日で埋まったって聞きました。それも、PRをうまくしたかPRのことを考えずに、ただ、奈良でマラソン大会を開催しますということだったら、ここまで集まるかどうか。津は、せっかく津という、特徴的ないい名前があるので、名前を含めたPRを、小さいことからしていってらうか。</p> <p>前期基本計画の2年間の成果で、まだ、点とも呼べないものもあるかもしれませんが、確実に一步一步前進して、本線と線が結びついて面になって、全体的に総合計画が具現化されるということだと思います。</p> <p>広報については、出来るところからしっかりとやるという取組みをやるということで、いろんな取組みのところで提案されるべきものなので、私も大学の方で文科省相手に、よい評価をされるためにうまく書こうとしますが、やっぱり私は思いますけれど。</p> <p>そうであっても、いかにうまく広報するかということもやっぱり大事なことです、しっかりと取り組んでいただ</p>
<p>その他（津城跡）</p>	<p>津城跡とその周辺の整備・活用について、まだ一言もどなたからも出ていなかったの、言わせていただかなければこの事業は、言っただけ出来るような活動ではないと思いますので、早いうちからもっと市民に対して、意識づけのこしていったらどうかなと思うんです。</p> <p>おそらく、5年、10年では出来上がらないような大きな事業だと思います。</p> <p>しかし、この新都心軸の形成には、やっぱり、お城を外すことは難しいですし、藤堂高虎公とお城は、やっぱり活か私はこの津城跡の整備・活用を考える会にも入れてもらってるんですけども、一般の方は、お城に関する取組みのこの前、白山町からバス1台40名で、この城跡を見に来たことがあるんです。</p> <p>以前よりはちょっと整備されておりますけれども、ひどい状態です。</p> <p>城垣の方は、多分、もう調査が入って、どこをどう修理した方がいいと検討されていると思うんですけど、熊本城のからでも10年かかったということなんです。</p> <p>費用が54億かかったそうで、その54億のうち、40億は公費で、あとの14億は、一般市民の寄付とか、そういうもちろん規模が違いますから桁も違うと思いますけれど、そういうお金を一般から関心を持って寄付をいただくとうふうに思います。</p> <p>これから、いろんなテレビでも取り上げていって、そういう中で、きちっとそれに載るような形で行くということでは、そういうことについても盛り込ませていただきます。</p>
<p>その他（子育て）</p>	<p>今日のお話の中で、子どもたちのことを考えていただいている御意見を、本当にたくさんいただいて、嬉しく思っ実際に外で遊んでいる子どもたちを見かけなくなった等々の話を聞きますが、我々が小学校のときには、入学と同時にPTAは、今でもまだ加入率が100%近いんですけども、子ども会の場合、旧津市ですと、びっくりするくらい半分くらい切ったのかなと思っていたのですが、もっと低い、約35%だという話を聞きました。</p> <p>その子ども会も、年に1回くらい、津球場を使わせていただいて、球技大会を開催しています。我々の小さいときもそういうのに参加したくても、会員じゃないと入れない等々の問題があります。</p> <p>子ども会への加入は強制は出来ないことだと思うんですが、そういうところに関わらせていただいている我々が、あていけるような行事をたくさん作ることによって、口コミで魅力が伝わるような会にして、加入者を増やしていく。しかし、行政の方からも、学校の方を通じて、こういう行事、こういう会、こういう絵本の読み聞かせ、こういうそういう行事をやっていることも知らないということがあると、本当に寂しいと思いますので、ちょっとずつ、第一保護者にとっても、あんなの今まではやりたくなかったけど、1回行ってみたらすごくおもしろかったというような味を持ってくれることになりまして、そうすると、高齢の方から若い方までのつながりが出来て、もっともっと住みまけられるような、そんな元気なまちになるんじゃないかなと思いますので、その辺の協力も出来たらお願いしたい</p> <p>子どもというと、まちづくりでもあるし、元気づくりでもあるし、どちらも区別が出来ない話で、行政的なパの問題になって来るだろうと思います。</p> <p>そういう面で、どういう形になるか、今、御意見いただいたことも受け止めさせていただいて、提案の中に盛り込</p>

ラム分科会発言整理一覧

	発言概要	まとめ
<p>の方法のような気がします。 いうことですが、奈良が、今年の遷都 1,300 年ということで、大阪からだと思います。</p> <p>かなあと思いますね。</p>		
<p>核になるコンテンツが出来て、そのコンテンツと結びついて線になって、案をさせていただき、その一方で、評価というのは、実績があって評価と実績をしっかりと上げて評価されるという方が、すてきじゃないのかなとよくという形にさせていただきたいというふうに思います。</p>		
<p>ばならないかなと思うんですけど。 のつもりでPRをしていただいて、関心を持っていただくという運動を起かしていかねばならないところだと思います。 のことを、何もご存じない。</p> <p>の本丸御殿が整備されたというので見に来ましたら、やっぱり基礎づくりという浄財であったということなんです。 とするのなら、運動だけは早い目に起こした方がいいんじゃないかという</p>	<p>津城跡及び周辺地区の整備について、事業規模が大きいため、市民の関心を集めるために早めにPR活動を開始すべき。</p>	<p>津城跡及び周辺地区の整備については、事業規模が大きくなることを予想され、全市的な取組としての機運を高めるためのPR活動等により、市民のアイデアを活かした市民参加型の事業として推進を図りたい。</p>
<p>で、よろしいですね。</p>		
<p>ておりました。 時に子ども会に入るのが当たり前でした。 の加入率になると聞いています。</p> <p>からありましたので、かなりの歴史があると思うんですけども。</p> <p>あそこに行きたいからうちも子ども会に入ろうというのを親子で話し合っかないと思っております。 森林・海・山の行事があるというPRをしていただきたいとも思います。 一歩を踏み入れていただくとありがたいと思います。 なことがあれば、それがきっかけになって、ずっと、そういう活動にも興やすい、もっとみんなが安心して、子どもが外でも遊ぶ姿をいつでも見かます。</p>	<p>現在、子ども会の加入率が低くなっている。 行政からも、学校を通じて子ども会活動のPRをしていただきたい。</p>	<p>子育ては、まちづくりでもあり、元気づくりでもあるとともに、行政や子ども会等、様々な主体が様々な取組みをしている。 一つ一つ取組み、それらを連携して、大きなものにしたい。</p>
<p>ックアップと、個々のそういう子ども会の取組み、それぞれが、一つ一つ ませてもらえればと思います。</p>		

論点	発言内容
<p>自主防災の推進について</p>	<p>自主防災組織について、自分の住んでいる地域のことを申し上げますと、合併後の、平成19年でしたか、自治会をところが、その防災組織自体が活動できるかがちょっと疑問でございまして、恥ずかしいことでございますけれども約だけがあるような感じでございます。</p> <p>ですから、ここに書いてあるように、自主防災そのものを、もう少し、強化をするような方向で持って行っていた</p> <hr/> <p>今、言われたように、自治会を中心とした自主防災組織ですが、私の住んでいる敬和地区でも、会長さんを中心に、入している会員さんが、年齢的に見ると、どちらかというと助けてもらう人の方が、一生懸命にやっているように感じるところがございますので、もう少し若い人が、自主防災組織の中核になるとまでは言いませんけれども思っております。</p> <p>大変難しい話ということは承知しておりますけれども、地区の現状はそういうことですので、心配をしております</p> <hr/> <p>年配の方々だけではなかなかできませんので、そういった実態も把握していただきながら、機能する組織にしていきたいと考えております。</p> <p>御意見の中に、自主防災組織の活動予算について最低でも10万20万の補助を出すべきとございます。</p> <p>この項目それ自体は、個別の事業に関する要望ですので、本審議会で直接取り扱うものではないかもしれませんが、のか、それにつきまして、何かコメントをしていただけますか。</p> <p>市として、取組む基本的な方針はこういうポイントにあって、それをこういう形で進めていることが明確にでき</p> <hr/> <p>いろいろお話ししていますが、10の地域について、国勢調査ベースで年度別に人口を把握されていますが、若年人口減少高年齢化が進むとか、先ほどから言ってみえますが、例えば、高齢者の方々が多くなってきている。</p> <p>これは目に見えて分かるわけですね。</p> <p>そういうデータをベースにものを言ったりしないと。</p> <p>少子高齢化という言葉はみんな使われていますが、データ的に調べた人はいますか。そういうところに、ちょっと僕はたまたま、少子高齢化という言葉を使っておりますので、平成2年から、5年おき、平成17年まで、久居地津市は10地域あります。全部調べました。確かに少子高齢化は進んでおります。この数字を見たら、誰でも分かるか、例えば、災害対応だとか、防災の体制づくりだとか、何かやるときに、各地域にどれだけの自治会があるのか、この例えば地域によって自治会の大きさも違いますし、負担金を同一でやるのか、二つの自治会、三つの自治会が重なれば、僕はあまりにもQ&Aにならんとするんではないかと。</p> <p>だから、事実を調べてもらって、例えば、今年、ちょうど平成22年で国勢調査を行ってしますので、今年の分の人と思っておりますけど、こういう一つ一つのデータをベースに話をしてもらえると、ものすごく分かりやすい。そんな</p> <hr/> <p>地域かがやきプログラムですか、そちらの方で、地域別に属性がありますよね。</p> <p>各地域のいろんな特徴がありますので、そちらの方で、もう一度地域への落とし込みとして提案してもらいたい形がーそれと、市の方も、数字はこの審議会の場ではいちいち挙げないにしても、全体像を把握しながらやっておられるですから、それは間違いはないだろうと思えますし、どうしても地域ごとに特徴が違いますけれども、この地域では面を評価するに当たって、一つ一つ項目を挙げて御検討いただくわけにもいかないと思います。</p> <p>前に議論のテーマとなった保育所とかの問題でも、榊原とかはもう子どもがいないというお話がありましたよね。ですから、そういうようなところは、各地域のいろんな要望を受けながら対応しているという前提で、御議論してよろしいでしょうか。</p> <p>住みやすさ向上プログラムの全体を通してなんですけれども、特に防災関係のところ、地域の特徴とか予想され徴による大きな影響を受ける可能性はありますよね。</p> <p>ですから、そういった各地域における、少なくとも被害とかそういうものが違うということも想定しながら、自主で少し地域差も含めて綿密に進めていただくということですね。</p> <p>それから、若い方々にも入っていただけるよう取り組んでいただくとか、民間の建物についても耐震化を進めるよろしいでしょうか。</p> <p>他にもあるかと思いますが、漏れないように、いろんな意見を吸収させていただきたいと思えます。</p>
<p>その他（事業の評価・取組みについて）</p>	<p>意見・提言書をずっと読ませていただきましたが、これを見て、具体的にどういことをやれば、その問題が解決例えば、2-1住みやすさ向上プログラムのところで、まちづくりレポートで、事業効果を検討するための実績、数字の記載を作ってくださいよ。</p> <p>どれが悪いのか、どれの数値が〇で、どういう数字が普通で、どれがいいの、というのがありません。</p> <p>具体的に数字を教えてください。その数字を見て、一つの目標というのを見据えて、達成しているところ、達成しそして、達成していないところは何をしたらいいのか、課題検討項目が出てくると思うんですよ。</p> <p>だから、これは大きくまとめた形で書いてありますけれども、そういうふうの一つ一つ問題解決をしていくべきで僕は今初めて読ませていただきますけれども、衣食住なんです、これ。全部仕切れちゃうわけですね。</p> <p>住みよさ、食と、環境と、衣食住の3つに分けられるんですよ、これ。</p> <p>その中で、特に、なぜなのかを検討していかねばいけない項目が多々あると思います。</p> <p>だから、要するに、それを皆さんで取り組んで、一つ一つちっほけな問題を見つけて、直すことによって、何か、何も、ただこれだけを見ていても、具体的に何をやるんだということについて、いい意見が出てこないような気がそんなふうに感じます。</p>

ム分科会発言整理一覧

	発言概要	まとめ
<p>を中心にした防災組織としまして、自主防災組織が全町的に作られました。ども、私どもの地域の自主防災組織は、会計も何もございませんで、ただ規ただけたらと思うんでございます。</p>	<p>自治防災組織が機能していないため、行政の支援を。</p>	<p>自主防災組織の整備及び組織の強化に当たっては、地域特性を踏まえた綿密な取組を進めるとともに、高齢者が主体となっている実態も踏まえ、若年層の参加を促すなど、実効性にも留意した取組を図られたい。</p>
<p>よくやっただいていいると思うんですけども、その自主防災組織に加惑じております。も、中心になっていただくように、そういう組織を考えるべきではないかとす。</p>	<p>自主防災組織で、高齢者が中心的な役割を果たしている。若い世代の参加を促進する取組みを。</p>	
<p>ということをさらに取組を進めるということ、これも盛り込ませていただは、市としてのバックアップというものの種類とか内容がどのようなものなればと思ひますが。</p>		
<p>ね。 弊は疑問があります。地区には37地区ありますけど、37地区の人口を調べております。かと思ひます。こういうデータを調べてますか。よってやっておるのか、事実を把握しないで、ただ抽象的なものの言い方だ、口等のデータが出ると思ひますので、私もそれは確認させてもらおうかなんな気がします。</p>	<p>今年に国勢調査の実施年度であり地域ごとの人口が把握できるため、そのようなデータに基づいた議論を行うべき。</p>	
<p>一番いいかなという気がします。ることだろうと思ひます。そうじゃないとできませんから。まこういう取組、この地域ではこういう取組みと、総合計画という全体計ね、ていただければいいかなというふうに思ひます。 する被害の違いといった面で、詳しくはちょっと分かりませんが、地域の特防災組織を組織化していただいたので、今度はより強化する中身について、よう、積極的に啓発や要請をしていくということをお願いするということ</p>		
<p>決できるかっていうのが、一つも見当たらないんです。、特に数値での指標の記載がないとの意見があります。 してないところが初めて分かるんです。 しょう。 、いい、元気づくりの方に繋がるような気がします。がしますけれど。</p>	<p>まちづくりレポートが具体的な書き方をされていない。課題検討項目を具体的に明示して、具体的な議論をすべき。</p>	<p>実施した事業について、可能な限り数値化したデータを活用し、一つ一つ評価や課題の検討を行うべき。</p>

論点	発言内容
	<p>ごもっともなところもあるかと思います。</p> <p>前回、例えば、ウォーキングマップを作ったから、健康推進にどれだけ役に立ってるんだという御質問と言いますしかし、確かにウォーキングマップを作ったから、あるいは、ウォーキングのルートを作ったから、何名の健康づくり環境づくりを行っているということですね。</p> <p>市としては、健康づくりをしていくための環境づくりをやっているわけですよ。</p> <p>そして、それをどれだけの人が利用していくか、どういうふうにご利用していくかということに対して、皆さんのいできるようなしていきましようということですね。</p> <p>私は市の代弁するわけじゃないですけど、前期計画の計画期間5か年のうちの2年間の事業で、当面はこういうしてしっかり見えてこないというだけであって、少し経てば、しっかりと数字をお示しできるようになるんじゃないですか、確かに、特にひとづくりと言いますか、元気づくりのところでは、どれだけ効果があったのかというように、ウォーキングマップは、健康推進だけが目的ではなく、いろんな人を呼びましよう、呼び込みましよう、そまく掘り起こして交流事業を展開して、そして津市を活性化させていきましようということも狙いとしてあるわけですから、そういうところも考えていくと、これこれという結果が出ました、というような形で出すことがいいのかとおっしゃるとおりで、分からないでもないんですけど、出し切ったからどうかということもあるもので、全体</p>
<p>その他（高等教育機関との連携）</p>	<p>地域審議会でも議論しておりまして、そこで、委員の方から、意見が出ております。</p> <p>今、会長がおっしゃられたように、ちょっと具体性がないんですが。</p> <p>まちづくりレポートを読ませていただいたところでは、三重短大との連携についての取組みというのは非常に見え津市には、三重短大の他に三重大とか看護大とかがあるんですが、産学連携とか、高大連携とか、大学間連携とか連携がちょっと見えてこないんで、その具体的な説明がほしいということですね。</p> <p>これは質問ではなくて、先ほど会長さんがおっしゃっていただいたように、ウォーキングマップを作成・配付する前から取組みを進めてまいります。</p> <p>ただ、その中で、我々現場の意識として、先ほど大下委員がおっしゃられましたように、もうちょっと現場の方に実は、自分たちの関わっている健康づくりのところでも言いますと、三重短大との連携ばかりではなくって、三重大近々、骨密度のアンケートを採るということも行う予定です。</p> <p>そういうふうにしつ現場に、ただ机上で話し合いをするだけではなくて、そうやって出て行くというの、も取り組んでます。</p> <p>そういったような取組みもあるということですね。</p> <p>大きな組織と大きな組織だと、看板背負って意見交換みたいなことになると、なかなか難しいんですよ。</p> <p>ですから、組織全体ではなく、ある部署ということなら部署という大きさの方が、例えば大学にも社会連携の方にだったらどなたがいますかというふうな形でお問い合わせをいただいて、できるところから進めるという形でさせて頂き続き、三重大学としても、津市の方と一緒にやっていきたいと思っております。</p> <p>看護大学もありますし、高田短大もありますので、三重短と合わせて進めていただきたいと思いますので、その点のしたいというふうにも思います。</p>
<p>津ぎょうざの魅力向上を</p>	<p>この津ぎょうざという大きな取組みも津市として進めてきております。</p> <p>この津ぎょうざについてですね、前回は、井村屋の社長さんが、津ぎょうざの取組みに関わって、おいしいの作るある委員の方は、各店舗でおいしい店とそうでない店のばらつきがあるとおっしゃって見えましたから、この辺もあるところに行ったら、シラスの入った津ぎょうざがあって、とってもおいしかったという話もありますので、まあ、これを進めるに当たって、現在、ボランティアでやっていた方々へのバックアップ体制とか、あざいますか。</p> <p>その津ぎょうざというのはどこで売ってるんですか。</p> <p>食べたことあるけど、私自身はあまりうまいとは思わなかった。</p> <p>まちの中に、黄色い、津ぎょうざって書いた旗が立っている店がたくさんありまして、そこで販売されておりますそれから、元々は子どもたちの給食に出て人気があったことなんです、何で人気があったのかなというところをころも大きいのかなと思います。</p> <p>今、業者さんの中では、揚げぎょうざが果たして日本人に支持されるかどうかというところまで考えて、研究をもしかしたら、これは海外に売った方が、受けるかもしれないねという話をしてる業者さんもあるということですから、スーパーに、チルドで、パックに入ったのも販売されていますので、一度、お探しになってみてくださいまた、そういう商品についても、これからどんどん開発していくということですね。</p> <p>井村屋さんも協力していただけるということですので、そういう方向で、取り組んでいただくということで、津ぎ</p>

ム分科会発言整理一覧

	発言概要	まとめ
<p>か、御意見がございました。 ぶくりに寄与しましたという数字は出て来ませんよね。ですけれども、いろいろな意見をいただいて、そして皆さんが、楽しんで健康にウォーキングうものを、環境整備の中でも、特にきっかけづくりという段階で、まだ形とやないかなというふうに思っているんです。 うことを、果たして数字に出せるのか、それから、全体を見ても分かりますとして、津が持っている自然の恵みや、歴史の豊かさ、そういったものをうで、一つの取組みの中に、二つも三つも目的が仕込んであるわけですね。でどうかというもあるんですね。 体で、お考えいただけたらと思うんですが。</p>	/	
<p>えております。 いろいろな連携が考えられるんですけれども、どうも、三重短大以外との</p>	<p>(香良洲地域審議会における意見の紹介) 三重短大だけではなく、他大学との連携事業についても、実績として明示すべき。</p>	<p>三重大学を始めとする市内の高等教育機関との連携をより一層進められたい。</p>
<p>うという段階で終わってはいけないということで、我々も、まだまだここに出ていくことが必要だと考えております。 大の看護学科の学生さんや、看護大学の学生さんたちに御協力いただいて、もちろん保健センターの方と行政の方にもバックアップしていただいて、</p>	<p>机上での議論だけではなく、実際に現場で活動する機会も重要である。</p>	
<p>こそういう窓口がありますので、いわゆる気楽にお話を聞いて、こんな分野でいただけたら、大学としてもやりやすいんじゃないかなと思いますので、 点も、要望と言いますか、今後取り組んでいただきたいという形で、お受け</p>	/	
<p>るの協力しますよというようなことも言っていただいております。 も何とかしないといけない。 まだまだ工夫ができるのかというふうに思っております。 るいは、実施していただいている方々のところをどうするか等、御意見ご</p>	/	<p>津ぎょうざについて、津市の全国発信につながるよう、より一層の活動の促進を図られたい。</p>
<p>す。 と考えると、やっぱり揚げぎょうざで、おやつ感覚で食べられるということ</p>	<p>津ぎょうざの認知度・味に不満がある。 今後、一層の取組みを。</p>	
<p>をしていらっしゃるということをお聞きしました。 です。 さい。</p>	<p>津ぎょうざについて、海外展開への構想を含め、事業者は積極的に活動している。</p>	
<p>ぎょうざの関連ではよろしかったでしょうか。</p>	/	

論点	発言内容
<p>幼保一体化に関する国の方向性と市の方向性</p>	<p>それでは、次の幼保一体のことでございます。 これも、若者定住プログラムという括りにはなっておりますが、重点プログラムには入っていない項目ではございます。前回までに御意見として出ておりましたので、改めて頂戴したいと思いますが、いかがでしょうか。 国の方の所管も、厚生労働省と文部科学省となっておりますが、実態に合わせた幼保一貫ということが打ち出され導入されていくものだろうと思います。 そういうことで、これを拒む理由はどこにもなからうと思いますので、国の方で、法整備とかいろんな難しいところきるように、準備していただくということでよろしいでしょうか。</p>
<p>子育てしやすい環境づくり</p>	<p>それから、住みやすさ、あるいは若者定住というところで、やっぱり地域の人が、子育てしやすい環境づくりといいたい弱くなってきているというような御意見ですね。 人の転出入も多いですし、それから核家族も多いですから、なかなかこういったことがにくいような社会情勢です。 ICTですか、こういったものが、こういうことだけではやっぱりいけないだろうと思いますが、何かこれについてような検討をするような組織を作ったかどうかとか、何か御意見ございますでしょうか。 団地に行きますと、子どもが避難できる家ということで、旗を立てていただいたりしておりますけど。 今のお話ですが、つい先日の市広報にも、育生地区のそのネットワークというのが、ちょうどまたま載ったんでこういった、いい先進事例があるので、他の地域にも、是非そういったいい取組みを広げていって、いろんな地域それから、香良洲では、防災無線を使った取組みを行っております。 実はこの防災無線がなくなってしまうのでどうしようかという問題があるんですが。 これは他の地域にも事例はございますけれども、3時になりますとその防災無線で、お年寄りの方とか、買い物子どもさんの下校の時間に合わせて、まちに出てくださいというふうに放送するというところを行っています。 それから、我々ボランティアだとか、一般の市民の方だとか、いろんな人たちが関わってようやくできたことなんでありまして、おじいさんやおばあさんは、下校時にお迎えに行くものですから、ついでに他の、登下校が同じ方向のところです。 ただ、今言いましたように、防災無線がなくなってしまうので、一斉にこの情報を流していくにはどうしよう 今のやり方ができなくなるんですね。 やっぱりその辺をもう一工夫していただいて、何かいい方法を見つけていただきたいと思います。 ただ、御意見にもありましたように、いいモデルケースになっておられるようですので、それを市全体に広げていきたいと思います。</p>
<p>共通（自主防災の推進について、子育てしやすい環境づくり等）</p>	<p>自主防災でもそうなんですが、地域の特性というのを、是非、考慮に入れていただきたいと思います。 例えば、海岸線、沿岸はみんな一律平等でないといけないとか、あまりそういうふうなのではなくて、山間部と違お願ひしたいと思います。 そういう使い方につきましても、どういうところで盛り込ませていただくかは別として、きめ細かい対応を進めて</p>
<p>「江」への積極的な取組を</p>	<p>お江のお話ですが、地域審議会からはまちづくり戦略プログラムということで意見が出ておりますが、ちょうど元併せて申し上げます。 一番始めに、会長の方から、津市というのは商業都市でもない、産業都市でもないし、県都として、というお話と、このお江の取組みがまだまだ弱いのではないかという意見も出ておりますので、よろしくお願ひいたします。 後のところにも出てきますけれども、ウォーキングだとか、花火だとか、いろんな人が集まりやすいところと、も宣伝といいますか、アピールして取り組んでいただくという御意見がございます。 おそらく市としてもそういうことを考えておられると思いますが、そういうことを盛り込ませていただきたいと思 せっかく、津市に江というキャラクターがあるのですから、「江（Go）！ 津（To）」や「江（Go）！ 津（To）」 その次の御意見に、宿泊を伴う2デイウォーキングというのがありますね、これも、津（2）デイというふうに、すね、江だけではなく、そこに津を絡めたコピーを作るというようなアイデアを入れてもらったらどうなんでしょうか。 来年の放映に間に合うかどうか分かりませんが、お江が暮らしたところだというのは、しばらく使える話題だと思いますので、その歴史的なものも紐解いて、いい取組みや、市内のいろんな目玉になるような場所と、こういうイベントと、うまく組み合わせるということでしょう 是非、そういう取組みをしていって、そういうボランティアの人も育てていきたいし、また、そういうことで活性 そういう御意見も盛り込ませていただきたいと思</p>

ム分科会発言整理一覧

	発言概要	まとめ
います。 れてきておりますので、おそらく、早晚、いろんな法整備がなされた上で、 ころをクリアしてもらいながら、市としても、そういったものがすぐ導入で		<p>幼保一体化について、国の動向を注視しつつ、導入に向けての準備を進めるとともに、子育てをしやすい環境づくりに向けて、より一層の取組を推進されたい。</p>
うことで、子どもたちを見かけたらすぐ声を掛け合う、昔ながらのものが、 ですけれども、こういったことを危惧されて、御意見として出されておしま ついて、具体的にこうされたらよいんじゃないだろうかとか、あるいはこうい		
です。 域の取組みに還元させていただけるといいと思います。 かに行こうと思っている方とか、犬の散歩に行こうと思っている方は、是非、 ですが、もう一つ、おじいさんやおばあさんと同居している子どもたちが 子どもたちと、是非、一緒に帰ってほしいという取組みをしているとこ うかという課題があるんです。	<p>育成地区における児童虐待対策のような、いい先進事例があるので、そういった取組みを広げていってほしい。</p> <p>防災無線を利用した取組みも行っており、配慮いただきたい。</p>	
けるように取り組んでいくということをお願いするということでお受けし		
童うということもありますので、是非、その、地域の特性というところを、 てほしいという形で盛り込ませていただきたいと思います。	<p>地域特性を考慮に入れて議論いただきたい。</p>	<p>事業の実施に当たり、地域特性を踏まえたきめ細かい対応を進められたい。</p>
元気づくりプログラムにも該当していると挙げていただいておりますので、 岳がありました、やはり、津市をどう発信していくかということで考える	<p>「江」に関する取組みが弱いのではないかと。</p>	
もちろん秋の津まつりもありますし、そういうところを踏まえて、戦略的に 思います。		<p>大河ドラマ「江～姫たちの戦国～」の放映を契機とした事業の実施に当たっては、様々な事業を組み合わせ、戦略的に取り組まれたい。</p>
(To) 江(Go)!!」というふうにかけてみてはどうかと思います。 津というのをかけていくというか、TWO(2)の下に津って書くとかで ようか。	<p>イベント等のキャッチコピーに、「津」や「江」といった名前を活用してはどうか。</p>	
いろいろ取組みやっておられますので、さらに詳しいことが分かるような うかね。 性化していただきたいということですね。		

論点	発言内容
地域間交流の促進を	<p>それから、津市の魅力として、海と山とか、住みやすいとか、自然が豊富であるとか、いろいろあると思います。文化的なもの、歴史的なもの、それから、やはり教育が充実しているとか、いろいろあると思いますが、これにつただというようなことが提案されております。</p> <p>全体会議で、一度、海と山と交流して、ああ津ってほんとにいいなって思うような交流プログラムをしっかりとこれは地域審議会の方々をお願いした方がいいのかもしれませんが、ことここを交流したらいい取組みになるんさん、あるいは全国の皆さんに発信したらどうかということになると思います。</p> <p>この中山間地域の活力維持のために全市的な協力体制をという御意見が出ておりますが、この趣旨はどういう全市的な協力体制が取られるべきだということで、山間地域にいいものがいっぱいあるので、それで人を集めるとか、そういうものを整備するという話でしょうか。</p> <hr/> <p>これは、現在も進めている内容を、しっかりと取り組んでいくということになりますかね。</p> <p>桜の季節だとこの地域がいいとかありますよね。</p> <p>きれいなどころがいっぱいありますから、そういういろんな季節ごとにいい地域を押さえて、美しさをうまく一年だくということでしょうかね。</p>
海と山の魅力向上を	<p>津の特徴として、海と山というのがありますよね。この、海についてでございます。</p> <p>オーストラリアやニュージーランドへ行きますと、国民のほとんどの人が小さいボートを持っています。乗用車やトレーラーなんかで、自宅に保管しているボートを海岸へ引っ張って行って、無料で下ろせるスロープが海で遊んだり、ヨットに乗ったりしてます。</p> <p>日本では、そのスロープを利用するのに制限がありまして、漁港等にせつかく空いているスロープがあっても、ほそれで、ファミコンやパソコンのゲームに熱中している子どもたちを海へ引っ張り出すのに、こういったところの津インターから南の高速道路も無料となっておりますし、この津市にある漁港やマリナーのスロープを、土曜日は漁どもたちをもっと自然の中へ引っ張り出せるような施策を考えていただけたらと思うんです。</p> <p>日本は海に囲まれていても、小さなボート一つ、サラリーマンの人たちが持てないという状況です。</p> <p>これはやっぱり、マリナーといった係留施設の利用料金が非常に高いので、それで少ないのではないかと思って津市で、もう少し、自宅の庭におけるようなものをすぐに海へ下ろせるようにしていただけると、すごく元気な日本国内では、意外とそういったところが少ないです。既にある施設を使って、費用もかかずに、賑わうまち</p> <hr/> <p>ボートが高いとおっしゃったんですけども、子どもたちと楽しむヨットぐらいですと、軽四の乗用車ぐらいの値思います。</p> <p>風を利用して海を渡るという、そういうことが気軽に楽しめるよう少し規制を解除していただくだけで、健康な海そういうところから、広い心を持った、活発な、人が落ちたらすぐに助けに行けるような、川に子どもが落ちたら思います。</p> <p>やはり、自然に親しんで、荒れた海や、静かな海に遭遇するというのが、協力し合って、物事を進めていく活力ニュージーランドやオーストラリアの船は、そんなに高くありませんので、ニュージーランドでは、一般のサラリの近所にも無料のスロープがあるといった社会的な整備が出来ている、そういう環境があるわけですね。</p> <p>ですから、日本でも、他の市町村で規制がきつければきついで、津市でその規制を緩和する価値が出てくると思津では、そういう施設として、マリナーだけではなく、空いている漁港もあるんですよ。</p> <p>土曜日は漁師さんがお休みなんで漁港が空いてるんですけども、漁師さんたちは、ジェットスキーなどが増えてしかし、いい面もたくさんございますし、また、規制を緩和するだけで、費用はゼロでできるものですので、是非</p> <hr/> <p>そういったことに参加する子どもがおられますか。</p> <p>私たちの時代には外でぼっかり遊びましたから、おもしろいということは分かりますよ。</p> <p>だけど、今の子どもたちに、遊ぶ暇がありますか。</p> <p>習い事はせんならん。勉強勉強って親は言っている。</p> <p>何かあったときの責任も、えらいことになります。</p> <p>私が子ども会やとる時でも、責任のことがまず第一で、関わるのは怖いすわ。一人か二人しかない子どもです私の家の近くの団地で子どもの声って聞いたことありません。幼稚園があるで、まだ聞きますけど、本当に、遊ん</p> <hr/> <p>私、10年ほど、津海洋少年団の団長をしておりました。</p> <p>子どもたちの健全育成の一環として、やっておりました。</p> <p>うちも年会費で、子どもは安いんですけども、初めの頃は80人くらいおりましたが、今は、6人しかおりませどれだけ宣伝しても、いろんな家庭の事情とかいうことがありまして、だんだん会員が減っていくんです。</p> <p>私ども、カッターも3艇置かせていただいて、それを利用して、毎週やっておったんですけど、今はそういう現状話です。</p>
その他（事業の評価・取組みについて）	<p>先ほど、部長さんが津まつりの規模が大きくなってきたとおっしゃいましたね。ところが、その規模の大きさと3年前と5年前と、今年の津まつりはこう変わりましたという違いを出して、こんなに変わりましたよという事実ただ大きくなりましたと言っているだけで、3年前、5年前と比べたら、どんなふうが大きくなったのか、人数が考にお話をいただけるといいと思います。</p>

ム分科会発言整理一覧

	発言概要	まとめ
<p>、 ついて、中山間地域の活力維持のために、全市的な協力体制が取られるべき 考えてくださいとの発言がありました。 んじゃないのか、そういうのをセットで、市民の皆さん、あるいは県民の皆 ことでしたかね。 こめにはルートバスというか、ミニバスというか、コミュニティバスという</p>	/	<p>地域間の交流事業を、全市的な協力体制の下、促進されたい。</p>
<p>F中楽しめるような、そういったルートバス等を少しきちんと整備していた</p>	/	
<p>がありますので、子どもたちや御両親たちでボートを引っ張って下ろして、 ほとんどが使用禁止ということになっているんです。 の対策をしてはどうかと思います。 鮎師さんが休みです、その時に漁港を無料で利用できるようにして、子 おります。 まちになると思います。 ちにするというような方策も考えていただきたいなと思います。</p>	<p>津の特徴である海を多くの人 利用できるように、既設の港湾設 備を一般に開放してはどうか。 子どもの育成のためには、自然 とふれあう機会を作ることが重要 であり、港湾設備の一般開放は、 非常に有用。</p>	<p>子どもたちが海や山で楽しむ 機会を創出し、自然と共生した 生活を体験させる取組みを行っ てはどうか。 ただし、事業内容には検討が 必要。</p>
<p>直段で、トレーラー付きで販売されており、ものすごく高いものではないと 毎の子どもが育つと思うんです。 っすぐに飛び込めるような、そういう子どもたちを作っていけたらいいなと 力になると思います。 ノーマンの家族が、トレーラー付きで持っておりまして、どこにでも、自分 思うんです。津はすごいなとなります。 てゴミが増えるということで、一般開放に反対されております。 非ご一考願いたいと思います。</p>		
<p>すから。 んどの見たことない。</p>	<p>(主催者側の意識として) 自然を利用する機会の創出に当 たっては、今の情勢では、何かあ ったときの責任問題や、参加者数 の減少が課題。</p>	
<p>せん。 代ですので、思いとしては分かりますけれども、なかなか現実的には難しい</p>		
<p>いうのは、素人の我々が聞いてもよく分からない。 実を説明してくれないと、ものすごく理解しにくいですよ。 が増えたのか、商店がどれだけあったのがこうなりましたとかいうのを、参</p>	<p>数値データを基に、事業の評価 を行い、戦略的な検討を行うべき。</p>	

論点	発言内容
	<p>例えば、御存知だと思いますけれども、久居でも花火大会、夏まつりをやるんですよ。昔に比べて、2年か3年前から、花火を打ち上げる高さを落としました。何故かと言うと、花火を上げた煙が民家に全部入るらしいんですが、そのために市民の方から苦情がออกมาして、そ久居の花火大会というのはすごい人気がありますので、そういうことで高さを制限したりしております。ですから、大きい、小さいということより、どれだけのスタッフが絡んで、だいたい店は何件くらいでということデータがあったら、本当に戦略的なものの言い方ができると思うんです。さらに3年、5年先を見込んで、どういう手を打っていかうかとか、結果だけの話じゃなくって、そういうデータあります。</p> <p>実行委員会の方々は、今年よりは来年もう少し大がかりにできようだという思いでやっておられる。例えば市が号令して、例えば300店集めるぞと言ったって、市が集められるわけじゃありませんので、まちの商売というものですよね。</p> <p>おっしゃるとおりなんですけどね、ただ、どういう手を打っているかというのが大事だと思うんですよ。これは、人づくりですから、いろんな観光ボランティアにしても何にしても、そういう人たちを育成するという取組。そういうための何か講習会をやったという場合に、講習会をやって何人を養成できたんだという言い方になっていくということで、そういう人が形成されていくわけですから、実数で出てこないところもあるだろうと思うんです。では、最終的に何人の人間が養成できたんだ、何人のボランティアが養成できたんだと言っても、ボランティア活かになってからやろうかなと考える人とかもあるかと思うんで、どういう手を打っているかというのが大事だと、僕</p> <p>ただね、今、国でも、事業仕分けをやっているわけですね。それと全くイコールではないですけど、事業仕分けは、一つずつ、無駄なことといいことを分けてやっているわけですね。だから、そういう国の動きを視野に入れながら、我々のできるところは、よくなったと言葉だけで言うのではなく、僕が一番いいなということで、意見を言わせてもらっています。</p> <p>数字がないからこの事業は取りやめという議論になっていくと、全体の総合計画が破綻してしまいますから、それこの審議会で適切な事業を入れられるかと考えると、何年間もかけて、しっかりとした専門家がいろんな高所大所ね。ですから、これは数字が出てこないからだめだって抜いていくというもの、やっぱり変な話ですよ。だから、難しい面もあるかもしれないけど実数を大事にしてくださいとか、そういう提案の仕方はできると思うんですから、そういう形で、意見は吸収させていただこうかと思っていますが、それでよろしいですか。</p>
海と山の魅力向上を	<p>ちょっと数字で表せということで参考にさせていただければと思います。私は、白山の健全育成の会長もやっております。4年前から、冬、子どもを集めまして、長野県へスキーに行っております。夜出発、朝に向こうへ到着するという2泊3日ですが、4年前の参加人数は6人でした。大型バスを予定しておったんですが、参加人数が少なかつたため15人のマイクロバスに変更しての実施となりましてこのイベントも、毎年行っておりましたところ、今年の2月は、22人の参加がありました。このイベントに対しては、健全育成からは、保険料だけ支払うだけで、あとの実費は、全部御家庭から払ってもらって来年の2月、宿泊先も全部予約出来ておるんですが、参加人数25人というメンバーで、既に参加希望をいただいた西口委員の言われるような、子どもを自然の中に引っ張り出すという取組みを行っているわけですが、ここではスリの行事ですが、子どもたちも喜んで付いてきます。講師として3人の人、毎年同じ人に同行してもらってまして、なかなかうまいこと子どもたちの相手をしてくれる子ども一人あたり2万4千円くらいで、国民宿舎というか、そういうところに来年の分ももう予約してあります。そういうことをやっていますので、御紹介します。</p> <p>責任とかそういう問題が出てくるということで、2泊3日でスキーに連れて行くというのは、引率の方も、そこでその責任の問題ですけど、私事で恐縮なんですけど、時間が取れたときに、息子とオーストラリアへ、ツアーで世界一周レースに使われた大型ヨットに乗って無人島へ行くという現地ツアーに参加いたしました。そのツアーの参加者は、ヨーロッパのお年寄りが非常に多かったのですが、大型ヨットの甲板に並んで、ライフジその時に、すべて自己責任という感覚がすごくありました。ですから、自己責任ということを考えることとした方がよいのではないかと思います。引率する側の責任とか、そういうことを考え過ぎていては、せっかくの子どもたちの新しい体験というか、新体験私も初めて、その大型のレース用のヨットに乗ったときに、子どもみたいに、すごく速いとかすごく気持ちいいと、たいなという気があって、こういうことを言わせてもらったわけです。</p> <p>責任の問題につきましては、ここで議論できるような内容ではありません。非常に日本社会の中で、大きなジレンマこうやってあげたいと思っても、例えば、朝、交通の番に立つ年配の方々にしてみたら、道路を渡らせるについてというだけで済まないところがありますので、ちょっと難しいかなと思います。申し訳ないですけど、ここの中には盛り込ませていただかないつもりであります。</p>

ム分科会発言整理一覧

	発言概要	まとめ
<p>それで高さを低くした、そういう経過がございます。</p> <p>の方が重要で、それが2年、3年前と比べてどれだけ変わってますという</p> <p>をベースに話をした方が、皆さんが納得していただけるかなという気がし</p>		
<p>育工会とかいろんな方々の、努力の結果として、毎年毎年増やしていきまし</p>		
<p>取組みもあると思います。</p> <p>しまいがちですけど、これは、手を打っていくということ、継続的にやっ</p> <p>すよ。</p> <p>運動に参加したい気持ちはあっても、まだ仕事の方も忙しいから仕事が緩や</p> <p>弊は思います。</p>		
<p>たですよ。無駄なところがあったら削除していくのが事業仕分けの仕事なん</p> <p>て、人数的にこうです、ああです、というふうに、数字で実証できる方が、</p>		
<p>れに変わるものを入れなきゃいけないわけですよ。</p> <p>所から、その駒を組んでいっているわけですから、私たちにはできませんよ</p> <p>んですよ。</p>		
<p>ました。</p> <p>らっております。</p> <p>いておるんです。</p> <p>スキーができませんが、長野まで行けばスキーができるということで、年1</p> <p>る方で、子供らも喜んで参加します。</p>	<p>(健全育成事業の事例紹介)</p> <p>例年スキー教室を実施している</p> <p>が、ほとんど自己負担であるにも</p> <p>関わらず、年々、参加者は増えて</p> <p>いる。</p>	
<p>で非常に責任が生じるという御苦労も多々あると思います。</p> <p>ではない自由勝手な旅行に行ったときのことを御紹介させていただきます。</p> <p>ジャケットもまったく着けずに、裸足で乗ってツアーに行くんですね。</p> <p>験の芽を摘んでしまうような気がするんですよ。</p> <p>かを本当に感じましたので、そういうことを子どもたちに体験させてあげ</p>	<p>海外では「自己責任」という合</p> <p>意がある。</p> <p>その中で体験したツアーでの感</p> <p>動を子どもたちにも体験してほしい。</p>	
<p>ンマのところですね。</p> <p>て、責任のことを考えたら、本当に大変なことで、日本社会では、自己責任</p>		

論点	発言内容
<p>その他（地域活動と市の協働）</p>	<p>香良洲の方からの意見が、まちづくり戦略プログラムの方で一つございましたが、健康とスポーツの振興プログラムまたまちづくり戦略プログラム分科会の方でも取り上げていただいております、ここに書いてあるような内容と地域活動と市の協働のことについて盛り込んでいただければと思います。</p>
	<p>健康推進協議会と文化協会がまだできていないということですね。 これを立ち上げる意志がおりということですね。 地区の方にその意志がないと、市が何を言っても進まないわけですから。</p>
	<p>もちろんそんなんですが、地域の実勢が尊重されるところで、私自身も、健康推進協議会も立ち上げなくちゃいけないまちづくり戦略プログラム分科会の方に入っていらっしゃる小泉委員さんが、かなりがんばってくださっているんこれは地域特性というものもあることですが、先ほどからいろんな話が出ているように、もうちょっと行政側もバツ</p>
	<p>そうすると、こういったスポーツ振興に限らず、地域のそういう要望を吸い上げて、しかるべき組織作りとか、それは、これまで以上に進めてくださいということによろしいですか。 健康推進協議会、あるいは文化協会に限らず、地域にはそれぞれこういうことをやってみたい、こうやりたい、こり込ませていただくということにしたいと思います。</p>

ム分科会発言整理一覧

	発言概要	まとめ
ラムに該当するものでありましたので、発言する機会がありませんでした。だいたい同じようですが。	香良洲地域審議会からも、まちづくり戦略プログラム分科会でも議論されているものと同様の意見がある。 改めて、十分検討いただきたい。	地域の特性を踏まえて、地域における市民活動の支援を、より一層進められたい。
けないと思っております。それから文化協会の方ですね。んですけども、残念ながら香良洲には文化協会がないんです。ックアップしていただきたいと思っております。		
そういうものの助言とか支援とか、そういうものを、これまで同様、あるいはもう少しなくちゃいけないという思いがあると思っておりますので、そういう形で盛		

地域かがやきプログラムにおける各

東部エリア ～キラリと輝く人づくり・まちづくり～

	地区	課題・意見等
1 知の拠点としての情報発信		
(1) 研究情報ハブの形成		
	津	<p>大学等研究機関や企業との連携のもと、産業振興センターにおいて、メカトロニクスやハブに関わるナレッジ・ハブを整備して行くことで、特色ある「知」の情報拠点となる研究情報としての機能が発揮されていないために、産学官と連携しての「知」の情報を発信していく産業振興センターが核になり、産学官の橋渡しを行い、情報を整備する環境づくりや大学ります。</p>
(2) 文化情報ハブの形成		
	津	<p>市民や関係機関との連携のもと、「県都」としての文化情報の蓄積を行政情報システムにの形成をめざしていますが、各種団体の協力のもと、活動内容の情報を定期的に収集し、又各種団体の協力を得て、リアルタイムに情報を集積できるシステムを構築する必要があります。例えば、つ・ローカルインフォメーション事業「津のこと」を活用して、情報の集積や情</p>
(3) 国内・国際会議の開催		
	津	<p>メカトロニクスやバイオをキーワードとして、大学等研究機関や企業との連携のもと、三研究の国内・国際会議の開催をめざしています。新しい事業分野への進出を模索する中小企交換などが行われておりますが、会議の方向性が見えていないのが現状であります。新しい事業分野への進出には、高等教育機関と企業が連携した技術交流から生まれる先端進める必要があります。</p>
(4) 地域ブランドの情報発信		
	津	<p>本市のイメージ形成に資する特産品や農林水産物などの地域ブランドをホームページや携つ総合的な情報発信に取り組んでおりますが、地域で生まれた商品のブランドを高めるには間を要します。 津eネットショップは、安定した販売量を確保できる地域ブランドの発掘やパソコンを側面で検討をいただき情報を発信していく必要があります。</p>
	河芸	<p>国道23号中勢バイパス津（河芸）工区に予定されている道の駅の整備促進にあわせて、として、「道の駅」拠点づくりに取り組んでおりますが、道の駅がトイレ休憩だけの通過点の為には地元主導の運営に取り組んでいくことが必要であります。 早期に特産品開発や産直に対するコンセプトを明確に進めていくことが重要だと思われま</p>
(5) 市民参加による旬の地域情報発信		
	津	<p>四季折々の景観など、旬の地域情報を発信するため、市民特派員を設置するなど、市民と市民特派員が市民に向けて発信する仕組みであることから、市民の関心がどれくらい得られネットを使わない方に新しい情報をいかに伝えて行くのかが求められます。 例えば、地上デジタルへの移行に伴い、あらゆる電子媒体を利用しての広報活動や会議等であり、品質の高いサイトへ進めて行くには、市民が気楽に利用できることが必要でありま</p>

地区地域審議会からの意見整理内容

	概要	各プログラムごとの意見案
バイオをキーワードとして先端研究やそれらの融合情報ハブ形成をめざしていますが、産業振興センターく取り組みができておりません。 学研究機関と企業との先端研究の誘導を行う必要があ	産業振興センターを核とした、産学官の連携や情報を整備する環境づくりが必要。	<ul style="list-style-type: none"> 研究情報ハブ及び文化情報ハブの形成に当たっては、関係機関との連携に取り組むとともに、各種団体の協力を得て、リアルタイムに情報を集積できる環境づくりに取り組まれない。
こより整備して行くことで、洗練された文化情報ハブ文化情報を蓄積する体制づくりができておりません。 ります。 情報ハブとしての役割を担うことができると考えられ	「津のこと」を活用するなど、リアルタイムに文化情報を集積できるシステムの構築が必要。	
三重県総合文化センター等を会場とし、これら先端的企業の皆様が aumentando、講座やセミナーで意見 端的研究の会議の開催できる場づくりや環境づくりを	会議の方向性を検討することが必要。例えば、新しい事業分野への進出を目指すのであれば、産学連携の技術交流から生まれる先端的研究の会議の開催できる環境の構築が必要。	
携帯電話などの情報媒体を積極的に活用し、一体的かは、安定した販売量と地域ブランドを発掘して行く時 使わない市民に対しても認知されるよう、企画、運用	安定した販売量を確保できる地域ブランドを発掘するとともに、様々な市民の方に認知されるような企画、運用面の検討が必要。	<ul style="list-style-type: none"> 地域ブランドの情報発信に当たっては、安定した販売量の確保に取り組むとともに、販売に当たっては、様々な方々へ認知されるような企画・運用を検討されたい。
、地域情報発信拠点及び農林水産物等の流通促進施設点にならないよう工夫していくことが課題であり、そ ます。	道の駅の運営に当たっては、地元主導により早期に特産品開発や、産地直売のコンセプトを明確にすることが重要。	
参加型情報発信の仕組みづくりを推進していますが、 れるか、市民特派員の質的向上や高齢者などインター 等での人が集まるところでのPRなどの口コミも大事 ます。	市民特派員の発信する情報について、市民の関心を得る方法やさまざまな媒体での活用についての検討が必要。	<ul style="list-style-type: none"> 市民特派員の情報発信に当たっては、市民の関心が得られるよう、特派員の質的向上や、さまざまな機会でのPRに努め、一層の利用を図られたい。

	地区	課題・意見等
2 地域を担う人づくり		
(1) 多様な人材の育成		
	津	<p>公民館を中心とした社会教育施設や津センターパレスなど公共施設を活用し、市内及び近て専門的な知識を有する市民による講座等の開設により、地域社会における問題解決や支が、講座を利用して育成した人材の活動の場を提供できるよう目的意識を持った講座体系に動の場を提供できるシステムづくりが必要であります。また、将来は科目履修生としての単</p>
	久居	<p>現在は、事業内容が7地区公民館でバラツキがあり、どのような人づくりを目指すのかがあっても良いが、まずは目標を明確にし、講座内容の絞り込みが必要である。</p> <p>受講生が活躍できる仕組みづくり（ゲストティーチャーへの活用や受講生からの講師登用） 地域には、これまでの経験（仕事や趣味など）を生かして講師となれる人材が眠っている要と思われる。また、後継者が不足している自治会長や民生・児童委員など、地域のリーダ支所や出張所の統廃合が進む中、地区公民館には、地域のコミュニティセンター的な役割住民にも開かれた施設として活用できるよう努めて欲しい。</p>
	河芸	<p>公民館を中心とした社会教育施設や河芸庁舎などの公共施設を活用し、市内及び近隣の大的な知識を有する市民による講座等の開設により、地域社会における問題解決や支え合いの。一ター養成塾については、方針が不明瞭であり、講座の受講生が少ないことに対する対策。また、地域というものをもっとよく見て河芸だけでなく、広く津市全体で取り組む必要がなく、地元や各団体の代表者等に講義をしてもらうなどの手法も取り入れていく必要がある</p>
(2) スポーツ・レクリエーション等を通じた生きがいづくり		
	久居	<p>久居駅周辺地区は、総合計画で副都市核として交流拠点の一つに位置づけられている。このためにも、久居駅周辺が一体となって取り組む必要がある。</p> <p>現在の久居まつりは、二ノ町会場に限定した祭りとなっているため、久居駅一帯で祭りの導できるよう工夫が必要である。（ポスターやのぼりの掲示など）また、会場が狭く、高齢町への会場拡大も検討して欲しい。</p> <p>よさこいなど、余所の地域にある催しよりは、久居地域の伝統ある踊りや文化活動を発掘</p>
	河芸	<p>市民の誰もが気軽に参加できるスポーツ・レクリエーションイベントの開催など、市民の。クリエーションを通じた心豊かで生きがいのある暮らしを応援し、河芸町民の森公園内にお地域においてスポーツ教室は小中学生が対象となっており、今後はもっと幅広い年齢層、多スポーツ大会等では、一部の人や団体で自己満足していないか。スポーツクラブに属さな募れるよう広報等に力を入れるべきである。</p>
	香良洲	<p>市民の誰もが気軽に参加できるスポーツ・レクリエーションイベントの開催など、市民の。かいいのある暮らしづくりを応援するとなっていますが、特定の参加者が多いパターゴルフな生きがいのある暮らしづくりに寄与しているのだろうかと考えます。また、パターゴルフ参加を募るPR方法や交流の場づくりを検討する必要があります。</p>
(3) 多文化共生の地域づくり		
	河芸	<p>国際化が進むなか、本市の人口の約3.1パーセントを占める外国籍市民との交流を推進しめ合い、共に共生できる地域社会を形成していくため、相互交流イベントなどを通じて国際きまちは、多文化共生の地域モデルとして、外国人児童及び保護者への支援事業に取り糾基本は外国籍市民が地域に溶け込み、生活トラブルを回避することが目的であると考えま目線の発想が少なからず含まれ、今後はお互いが同じ場所で学べるような方向で取りくんでまた、国際理解のある地域づくりということで、河芸地区や香良洲地区だけでなく津市全</p>

	概 要	各プログラムごとの意見案
近隣の大学と連携した生涯学習講座や、各分野においてええ合いの仕組みを担う多様な人材の育成を図りますに取り組むことが大切であり、講座終了後、人材の活単単位が取れるような体制づくりも必要であります。	講座体系を整理するとともに、講座修了後の人材の活用に係るシステム作りが必要。	<ul style="list-style-type: none"> 多様な人材の育成については、目的を明確にした講座を実施するとともに、講座修了後に受講生が地域リーダーとして活躍できる仕組みづくりや、新たな人材の発掘・育成にも取り組まれない。
が明確でないように思われる。地区公民館により特色用など)を早急に整理すべき。ると思われるため、このような人材の発掘・登用も必ダ-となる人材の発掘や育成にも取り組んで欲しい。割が期待されている。公民館講座生だけでなく、地域	公民館の事業について、目標を明確にした講座内容の絞り込みが必要。受講生が、地域リーダーとして活躍できる仕組みづくりや、人材の発掘・育成にも取り組まれない。	
大学と連携した生涯学習講座や、各分野において専門の仕組みを担う多様な人材育成を図りますが、地域リ策が必要であると考えられる。があるのではないか。大学の教授などの講義ばかりでる。	地域リーダーの養成塾としての方針を明確にした上で、市全体へ取組を広げていくことが必要。	
この位置づけに相応しい新たな交流と活力を創造するの雰囲気演出することで、久居駅からも来場者が誘者や子どもたちには危険なため、隣接する新町や本掘して取り入れ、地域独自の祭りを工夫して欲しい。	地域の新たな交流と活力を創造するため、久居駅周辺の一體的な取組が必要。また、久居まつり等については、地域独自の工夫を取り入れられたい。	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ・レクリエーション等の実施に当たっては、より幅広い層が参加できるよう取り組まれるとともに、心豊かな生きがいのある暮らしづくりに繋がる新たな実施内容について、工夫、検討されたい。また、久居駅周辺で行われているレクリエーション事業の実施に当たっては、副都市核に相応しい新たな交流と活力の創造を目指し、久居駅周辺地区が一体となって取り組むよう努められたい。
の参加及び交流の場を提供することで、スポーツやしおける施設整備・充実に取り組んでおりますが、河芸多種目を検討するべきである。ない子どもたちにも配慮が必要であり、もっと参加を	幅広い年齢層・多種目を対象とした教室の開催が必要。また、広く参加者を募るための、広報にも力を入れるべき。	
の参加及び交流の場を提供することで、心豊かな生き大会や町内運動会などを単に開催するだけで、心豊かフ大会は参加者数の伸びも少ないため、もっと市民の	特定の参加者が多くっており、幅広く参加してもらう方策の検討が必要。また、事業目的の「生きがいのある暮らしづくり」に即した実施内容を検討する必要がある。	
し、文化や習慣等の異なる人たちが、互いの違いを認際理解のある地域づくりを進める中で、河芸地区につ組んできました。ますが、多文化共生事業と言いながら日本人の上からでいくべきであると考えます。全体で考えるべき事業であると思われれます。	日本の方と外国籍の方が、互いに同じ場所で学べるような方向で取り組んでいくべき。	<ul style="list-style-type: none"> 多文化共生の地域づくりに当たっては、日本の方と外国籍の方が互いに同じ場所で学べるような方向で取り組み、国際理解のある地域づくりを全市へ広げていくよう推進されたい。

	地区	課題・意見等
3 地域連携による交流の推進		
(1) 鉄道で巡るおもてなしルートの設定		
(2) 伝統文化の継承と賑わいの創造		
河芸	<p>「江～姫たちの戦国」ということで、江にちなんだイベントを初めて開催したが、もっと開催場所については、分かりづらかったため、駅から本城山までの案内板等を早急に手配 たくさんの来場者を募れるようなイベントにするため、もっと工夫が必要であり、全市を られる。</p>	
香良洲	<p>香良洲地区における「宮踊り」及び「獅子舞事業」は古くから受け継がれ、長い歴史と伝 約350年前から続いており県の無形民俗文化財に指定されております。しかしながら一番 では、伝統行事を活かした賑わいの空間の創出と地域を支える人づくりをしていく取り組み 今後は持続的な継承者育成の方法の検討、また参加者数の減少に対して他地区からも参加 く必要があります。</p>	
(3) 海を活かした交流の推進		
香良洲	<p>河芸地域から香良洲地域まで連なる市域で唯一の「海」を活かし、地域が連携した環境保 し、地引網などの観光漁業を企画推進し、海の魅力を提供するという目標に基づき香良洲地 るところであるが、以前よりも地域外からの参加者が多くなってきている。これは良い事だ 感が減ってきているように思います。その辺りを検討し、津の長い海岸線をもっと生かした 検討する必要があります。</p>	
(4) ユニバーサルデザインのモデル地域づくり		
香良洲	<p>市民及び地域の自主的な活動団体等との連携のもと、ユニバーサルデザイン推進モデル地 の開催、他地域への取り組みの浸透及び自主的な活動団体等とのネットワーク構築の支援を ては、かなりの取り組みをしていただいています。推進モデル地区としてハード（道路、 と全市民的に浸透させる取り組みを考えるべきです。</p>	
(5) 歴史文化の賑わいの創出		
津	<p>一身田寺内町の環濠や町並みなど歴史的景観をはじめ、地域の文化を感じさせる景観や風情 る体制づくりを進めてきましたが、一身田寺内町に残る多くの文化財や歴史的な町並みに いないように思われます。 高田本山専修寺等との連携や若者をもっと取り入れ情報を発信していく必要があります。ま け、心のやすらぎを味わえる活動も必要であります。</p>	

	概 要	各プログラムごとの意見案
華やかでインパクトがあるものにできなかったのか。引し、1月の放映後の来場に間に合わせる必要がある。を挙げてPRしていく取り組みが不足していると考え	たくさんの来場者が訪れてもらえるイベントにするため、もっと工夫が必要。全市を挙げてのPRを。	<ul style="list-style-type: none"> ・文化の継承と賑わいの創造に当たっては、来場者の増加のためのPRを始め、継承者の育成方法にも配慮した取組を進められたい。 ・ユニバーサルデザインのモデル地域づくりに当たっては、ソフト面だけでなく、ハード面にも取り組まれたい。また、モデル地域における成果を全市的に拡大していく取組を検討されたい。
伝統に培われた伝統行事であり、中でも「宮踊り」は番の担い手である若者が減少してきております。これみが出来なくなります。加出来る仕組みを検討し、もっと積極的に発信してい	伝統文化の継承者が減少しており、継承者の育成方法や、他の地区からも参加できる仕組みを検討することが必要。	
果全活動などにより安らぎを与え、潮干狩り、たて干地域では、ふれあいのかおり事業を通じ取り組んでいただと考えるが、その分地域住民同士のふれあい、一体た、一体感のある企画の推進やそれに伴うPR方法を	他地域との交流の増加に伴い、地域内のふれあいが減少しているように感じる。地域住民同士のふれあいも含めた一体感のある企画の推進が必要。	
地区として小中学校、企業などを対象にした研修講座を推進していますが、ソフト（研修講座等）面について、建物等）の面の普及が必要であります。また、もっ	ソフト面だけでなく、ハード面の取組も必要。また、全市民への浸透につながる取組を検討すべき。	
情などの発掘・活用など市民がまちづくりに参加できついで広く情報を発信していくことが、うまくできてまた、訪れる人への思いやりなどおもてなしの場を設	広く情報発信する取組が必要。また、高田本山専修寺等との連携や若者の参加を進める必要がある。	

	地区	課題・意見等
1 スポーツ・レクリエーション活動の促進		
(1) スポーツ・レクリエーション拠点の形成		
	安濃	スポーツ施設の整備・充実とともに、既存施設の今後の活用をソフト面から検討する必要 レク大会等を開催する会場としての活用を図りたい。 また、安濃中央総合公園及びその周辺における環境づくりについて、雑木林や小川、田ん ような自然豊かな環境づくりを目指されたい。
(2) 自然・歴史散策コースの整備		
	芸濃	龍王桜マラソン&ウォーキング事業について、エリア内へより一層事業参加を求め、エリ ボランティアガイド団体等と連携しながら、ウォーキングコースの整備を図り、地域の魅 が必要である。 今後も継続してウォーキングコース整備に取り組むとともに、北部エリア各地域内の散策 など)と連携させた一体的なコース設定・PR等の取り組みが必要である。 龍王桜マラソン&ウォーキング事業について、安濃・美里地域への参加PRにより一層努 アとして一体感を生む取り組みを検討し、持続(継続)可能な事業を目指して欲しい。
	美里	美里地区内のウォーキングコースについて、もっとPRが必要。案内板、駐車場や屋外ト も無い。 美里地域の自然や歴史遺産を活用し、今後も継続してウォーキングコース整備に組み たい。
	安濃	安濃地域としても、ボランティアガイド団体等によって設定された、明合古墳や大名塚古 アガイド団体等と連携しながら、ウォーキングコースの整備を図り、地域の魅力を紹介 たい。
2 地域産業振興の拠点づくり		
(1) 新たな観光交流の創出		
	芸濃	Geino X'mas 事業や自慢できる美里地域づくり事業など、同じ時期に開催されるイベ ン にたい。
	美里	地元農産物や特産品の生産・販売促進のための支援を行い、地産地消の推進及び地域農業 観光交流の推進に努められたい。
	安濃	安濃地域として、地域・文化等の資源を活かした地域・市民の活動を支援し、観光交流、 で、地域のコミュニティ活動や産業等の活性化を目指されたい。
3 自然と親しむ環境づくり		
(1) 経ヶ峰の自然がはぐくむ交流と健康づくり		
	美里	経ヶ峰がより一層市民に親しまれるよう、北部エリア3地域が連携して豊かな自然を守り に努められたい。
	安濃	経ヶ峰や北部エリアの認知度を高めるために、地域の物産販売やシティマラソンと同時開 ンクを検討されたい。また、歴史的資源やあおう温泉の組み合わせを検討されたい。 四季折々に楽しめる景観や野鳥観察、植物観察等が可能な環境整備を行うにあたり、ボラ 新たなハイキングコースとして、安濃川河畔散策や長谷山ハイキングとの連携を図り、さ たい。
(2) 美里水源の森の整備		
	美里	里山を生かした自然を体験できる癒しの場として、また水源保護、環境保全を啓発する場 定を進め、長期的な視野で水源の森づくりに取り組まれたい。
(3) 森と湖の環境整備		
	芸濃	落合の郷等の施設において、親子が自然にふれ、親しめる施設として、より魅力あふれる 錫杖湖畔周辺における施設の一体的な利用を検討し、より多くの人々が利用しやすい環境 たい。

	概 要	各プログラムごとの意見案
要があることから、北部エリア3地域で連携したスポ んぽ、湿地帯等があり、さまざまな生物が住んでいる	北部エリアの3地域で連携し たスポレク大会の開催等、施 設の活用を図られたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ・レクリエーシ ョン活動の促進に当たっ ては、北部エリア内の3 地域が連携した取組を進 め、エリアとしての一体 感を生む取組を推進され たい。
リアとして一体感を生む取り組みを検討されたい。 魅力を紹介するガイド団体の活動を支援する取組み 策コース（芸濃町椋本コースや安濃町明合古墳コース 努め、美里の龍神太鼓等に出演を依頼するなど、エリ	引き続きウォーキングコース の整備に取り組みるととも に、各地域の散策コースと連 携した、一体的なコース設 定に取り組みたい。 また、エリアとしての一体感 を生む取組を推進されたい。	
トイレの数も少ない。コースを紹介するパンフレット むとともに、ウォーキングコースのPRに努められた	ウォーキングコース整備やP Rに努められたい。 また、自然や歴史遺産の活用 を検討されたい。	
古墳等の歴史の地を巡るコースがあるため、ボランテ するガイド団体の活動の支援に取り組みたい。	ボランティア団体と連携した 取組を進められたい。	
ントを相互に盛りたてていくような取組みを検討さ るの振興を図られたい。また地域の観光資源と連携し、	イベント同士が相互に盛り立 てていける取組が必要。 地元農産物や特産品の生産・ 販売のための支援や、地域の 観光資源と連携した観光交流 の推進が必要。	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな観光交流の創出を 始めとする、エリアにお ける事業の実施に当たっ ては、イベント同士が相 互に盛り立てていける取 組として、地元農産物や 特産品の生産・販売のた めの支援や、地域の観光 資源と連携し、観光交流 だけでなく、世代間交流、 地域間交流にも配慮した 取組を進められたい。
世代間交流および地域間交流の機会を提供すること	観光交流、世代間交流、地域 間交流を推進することで、地 域コミュニティや産業等の活 性化にも繋げていくことが必 要。	
り、魅力ある観光資源としてハイキングコースの整備 開催等、経ヶ峰ハイキング事業といろんな事業とのリ ランティア団体等への支援等を図られたい。 さらなる市民の憩いの場としての魅力の向上を図られ	北部エリアの3地域が連携し てハイキングコースの整備 を。 ハイキング事業と他の事業の 連携についての検討が必要。 また、環境整備に当たっては、 ボランティア団体等への支援 による取組が必要。	<ul style="list-style-type: none"> ・経ヶ峰ハイキングの実施 に当たっては、ハイキン グ事業と他の事業の連携 について検討するととも に、環境整備に当たって は、ボランティア団体等 市民参加による取組を進 められたい。 ・美里水源の森の整備に当 たっては、整備計画の策 定など、長期的な視野で、 水源の森づくりに取り組 まれたい。 ・錫杖湖畔周辺の整備に当 たっては、施設の一体的 な利用など、多くの人が 利用しやすい環境整備に 取り組まれたい。
場としての利活用を期待する。具体的な整備計画の策	整備計画の策定など、長期的 な視野で、水源の森づくりに 取り組まれたい。	
る施設の利用方法等を検討されたい。 整備に努めて欲しい。	錫杖湖畔周辺において、施設 の一体的な利用など、利用し やすい環境整備を。	

	地区	課題・意見等
1 温泉リフレッシュゾーンの魅力アップ		
(1) 温泉利用客誘致への魅力アップ		
	久居	<p>榊原温泉・青山高原は、総合計画でレクリエーション拠点の一つとして位置づけられており上げられている。この位置づけに相応しい拠点づくりに向けて、榊原地域で行うさまざまな収穫祭など)を一体的に考え、盛り上げていく必要がある。</p> <p>地域住民、温泉旅館、市の三者で、榊原温泉郷を今後どのように発展させていくべきかを考える必要がある。</p> <p>花街道景観整備事業は、植栽品種を工夫することで、年間を通して花が楽しめるよう工夫はどうか。また、榊原温泉郷内の景観整備にも取り組んで欲しい。</p>
	一志	<p>近年の経済不況や観光ニーズの多様化により温泉施設の利用者数も減少傾向となっている事業と温泉の利用拡大をどう結び付けていくかが一つ課題です。</p> <p>アンケート等で温泉利用客から積極的に意見を求めて、それに対する施策を実施したらと「温泉と四季の花」ふれあいの里事業のような景観事業は外からの施策だが、外からの施なので、内部から変えていく必要があるのではないかと。</p> <p>一志温泉について、客動員等についての目標を設定して運営にあたってはどうか。</p> <p>一志温泉の運営について、コンサルタントを導入して市場調査を実施してはどうか。</p> <p>「温泉と四季の花」ふれあいの里事業について、モニタリングやイルミネーションという方面から見直してみてもどうか。</p> <p>毎回同じような内容を延々と審議しているのも、もっと前向きな審議をしなければならぬ議論をする必要がある。</p> <p>生産者に協力していただき、地元の農産物をとことめの里一志で販売してはどうか。</p> <p>少子高齢化が進んでいるので、コミュニティの場として考えてほしい。</p> <p>利用拡大のためには、小中学校、公民館等の絵画・写真等の展示を行い、広報活動を常に「温泉と四季の花」ふれあいの里事業について、刈取前に迷路を創って子どもたちにも楽しむことのできる企画運営をしてはどうか。</p>
	白山	<p>事業展開に関しては、一過性のイベントではなく白山地域で定着する話題づくりが必要で白山地域として猪の倉温泉を市内外にどのようにPRしていくか検討することが必要です。事業はイベントとして行うが、温泉客誘致についてはイベントだけにとどまらずPR方法</p>
(2) 温泉でつなぐふれあいルートの設定		
	久居	<p>当事業（榊原温泉マラソン事業）は、大会名称に「榊原温泉」を使うことで、榊原温泉の11月に変更したため参加者が減少しているが、今後、早い時期に開催日時をPRし、沿道マラソンによって榊原温泉を訪れる参加者等を、宿泊客に繋げるための工夫が必要である。講演会やウォーキング大会を開催するなど</p>
	白山	<p>初瀬街道には歴史や文化財も沢山あることからウォーキングルートについては、事業として実施による一過性の集客ではなく、ルートマップを活用した地域の魅力のPRを行う。また初瀬街道に限らず、拠点施設を活用したウォーキングルートを新たに設定整備し、集</p>

	概 要	各プログラムごとの意見案
おり、津市観光ビジョンでも重点地区の一つとして取 まな事業（榊原温泉マラソン大会、ふれあい朝市、秋 を話し合い、まずはランドデザインづくりから始め 夫するとともに、車を止めて鑑賞できるよう工夫して	榊原地域で行われる様々な事 業を一体的に考え盛り上げて いく必要があり、それにはま ず、地域の関係者が話し合い、 ランドデザインづくりから 始めるべきである。 花街道景観整備については、 年間を通じて花を楽しめるよ うな工夫や、車を駐めて観賞 できるような工夫が必要。	・榊原温泉郷の発展には、 地域で行われる様々な事 業を一体的に考え盛り上 げていく必要があり、そ れにはまず、地域の関係 者が話し合い、ランド デザインづくりから始め るべきである。 また、温泉利用者から のアンケートに基づく事 業検討や、コンサルタント による市場調査、ある いは、地域の方々の協力 や参加による事業展開な ど、これまでと違う観点 から事業を見直し、より よい取組とされたい。
る。 どうか。 施策をするだけではとことめの里一志はよくなる ないと思うが、そのためにはもっと資料をそろえて審 に新しいものにしてはどうか。 しんでいただく等、イベント活動を充実させて、地域	温泉利用者からのアンケート に基づく事業検討や、コンサル タントによる市場調査、ある いは、地域の方々の協力や 参加による事業展開など、こ れまでと違う観点から事業を 見直し、よりよい取組とされ たい。	
です。 す。 法等検討することが必要です。	一過性のイベントではなく、 地域で定着する話題づくりが 必要で、それらも含め、どう PRしていくか、検討が必要。	・イベント等の事業の実施 に当たっては、一過性の 取組とならないよう、地 域で定着した取組として の話題づくりや、地域の 魅力のPRに繋げていく よう取り組まされたい。
のPRに寄与している。平成21年度から開催時期を 首での応援協力や参加者の増加を目指す必要がある。 る。（温泉施設等と連携し、大会前日にスポーツ関連	榊原温泉マラソンの参加者の 増加に取り組むことが必要。 マラソン参加者を、温泉施設 等と連携し、温泉宿泊に繋げ る工夫が必要。	・榊原マラソンについては、 参加者の増加に取り組む ことが必要で、温泉施設 等と連携し、参加者をい かに宿泊に繋げていくか 工夫されたい。
して一過性のものでなく誘客のPRが必要です。 うことが必要です。 集客を行い地域活性化につなげる必要があります。	一過性のイベントとしてだけ ではなく、地域の魅力のPR が必要。 新たなウォーキングルート の整備が必要。	

	地区	課題・意見等
2 食のブランド化		
(1) 地産地消の促進		
	久居	より魅力的な朝市へ発展していくためにも、生産者組織を充実し、農作物や加工品の品数 ↑目指す必要がある。 榊原の朝市としてオリジナルの名物や特産品の掘り起こしを工夫し、朝市を通じた榊原 将来的には、市からの支援を受けずに自立していけるよう指導が必要である。
	一志	地産地消の元気づくり事業は参加者が減少しており、対策が必要です。 地産地消、旬産旬消を推進するために、お母さん方の料理研修等をし、料理の「作り手」 地産地消を推進するために、もっと保護者を巻き込んだPR活動をし、家庭の持っている
(2) 特産品づくりの推進		
	久居	現在は、イベント（「榊原温泉 秋の収穫祭」）に対する支援を行っているが、当プログラ 原温泉の特産物を生かした商品開発や名物づくりにも取り組む必要がある。 古代米を活用した特産品づくりは、民間企業等の協力によるお菓子の商品化で一定の成果 連盟、市観光協会等にも広報で取り上げてもらえるよう売り込みが必要であり、さらに、さ る。
3 地域力の維持、再構築		
(1) 地域の賑わい、ふれあい交流の場づくり		
	一志	夏まつり事業（納涼ぼんおどり大会）については、参加者が減少しており積極的なPRや 一志夏まつり事業は各地区でやったほうが盛り上がると思う。参加と協働という本来の たほうがいいのではないかと。 少子高齢化により高齢者が社会参加しやすい環境づくりをする必要があるため、高齢者 復活させてはどうか。PR活動については、学校、PTA、社会福祉協議会、自治会、公民 充実した広報活動を行ってはどうか。 夏まつりをとことめの里一志で行う場合は、中学校を解放して駐車場、屋台、カラオケ 大人の補助のもとで中学生や卒業生の実行委員会をつくり、地域全体で楽しめる行事を 夏まつりでも、ミニ商店街、特産物の販売等をしてはどうか。 一志町ふれあいまつり事業では、地元の方による軽トラ・ワゴン市、B級グルメ市、フ ツリレー等、お金をかけず、老若男女が楽しめる企画をしてほしい。
	白山	白山地域においては、指定管理ではありますが「わかすぎの里」、「リバーパーク真見」の 光客とのふれあい交流の場を提供し、施設のPR、イベント等による交流の場づくり、地域 指定管理施設に関し、地域かがやきプログラムとしても積極的に施設活用を前提とした取 施設に投資するのではなく、事業展開を行うことで地域住民の積極的な施設利用や取組
(2) 隠れた資源の再利用		
	一志	桜の樹勢回復は、短期的取組で出来ることではないので今後も継続して行う事が必要で 今後も河川周辺の環境整備に取り組む必要があります。 桜の保全活動を次世代へ引き継いでいくことが大切なので、河川環境保全の趣旨を理解し き。環境学習をするのであれば、県や市の出前講座を利用したり、小中学校の教師を呼んだ てはどうか。 企業や団体等にも声をかけて、河川環境の整備を行ったらどうか。
	白山	桜の樹勢回復は、短期的取組で出来ることではないので今後も継続して行う事が必要で 河川環境整備として、今後も既設遊歩道の保全整備を行うことが必要です。

	概 要	各プログラムごとの意見案
数を増やし、開催数を増やして定期的に開催できるよ 温泉の魅力アップを目指して欲しい。	朝市の拡大やオリジナルの名物・特産品の掘り起こしが必要。 自立した運営に向けての指導が必要。	・地域における地産地消の促進に当たっては、朝市の拡大やオリジナルの名物・特産品の掘り起こしが必要であり、そのためには、「料理の作り手」の育成など、家庭の力を掘り起こし、地産地消に繋げていくなどの工夫した取組を進められたい。
」を育成したらどうか。 る力を掘り起こしてはどうか。	「料理の作り手」の育成など、家庭の力を掘り起こし、地産地消の推進に繋げてはどうか。	
ラムの目標である「特産品づくり」の実現に向け、榊 果を得ているが、今後、販路開拓のため、県や県観光 古代米に続く新しい名物づくりにも取り組む必要があ	特産品づくりは一定の成果を得ており、今後は、販路開拓などの取組が必要。 さらなる新しい名物づくりにも取り組む必要がある。	
や魅力のある事業を検討していくことが必要です。 目的からみても、一志夏まつり事業を各地区へおろし が歩いて参加できる4小学校区の納涼盆おどり大会を 民館、老人会等を巻き込んで、小学校の協力のもと、 大会、体育館をお化け屋敷にする等をしてはどうか。 えてはどうか。 リーマーケット、カラオケ大会、大声大会、防災バケ	一志夏祭り事業について、参加と協働の観点から、各地区での実施についての検討が必要。 中学生等が中心となった、地域全体で楽しめるイベントについて、検討してはどうか。	・地域におけるふれあい交流の場づくりに当たっては、各地区の特性にあった実施方法の検討や、中学生等の実施主体への参加など、地域全体で楽しめる取組を検討されたい。
の既存施設を活用した地域住民と市内外から訪れる観 或住民の憩いの場となるよう事業展開が必要です。 取組が必要です。 が期待されます。	「わかすぎの里」、「リバーパーク真見」の指定管理施設を活用した、地域住民と観光客とのふれあい交流の場づくりを検討されたい。	
す。 して、子どもたちを巻き込んだ持続的な活動をするべ どり、博物館や環境学習情報センターを利用したりし	桜の樹勢回復については、継続した取組が必要で、それも含めた、河川周辺の環境整備に当たっては、子どもたちを巻き込んだ持続的な活動を進められたい。	・桜の樹勢回復については、継続した取組が必要で、それも含めた、河川周辺の環境整備に当たっては、次世代を担う子どもたちを巻き込んだ持続的な活動を進められたい。
す。	桜の樹勢回復については、継続した取組が必要。	

南部エリア ～健康で暮らせる自然と歴史の地域づくり～

	地区	課題・意見等
1 健康で元気な人づくり		
(1) 連帯意識に根ざした心豊かなコミュニティの形成		
	美杉	美杉地域は、豊かな自然と歴史と伝統に支えられた文化があり、それらを誇りとして生きるしかしながら、行政をはじめそれぞれの立場の皆さんが様々な対策を講じる中においても大変厳しい状況下であり、集落機能の維持は近い将来大変困難になると思います。については、集落機能の維持、再生のため、格段の施策配慮をお願いいたします。
(2) 暮らしの安心づくり		
2 自然の恵みの価値創造		
(1) 森林を活かしたヘルスツーリズムの推進		
(2) 自然を活用した産業の活性化		
(3) 豊かな自然環境の中での居住		
3 歴史と文化の拠点の整備		
(1) 歴史と文化の拠点整備		
	美杉	美杉地域に止まらず津市にとりましても貴重な歴史資源であります多気北畠氏城館跡並びにの早急な取り組みが必要であると考えます。
(2) 住民との協働による歴史・文化の保全・活用		
	美杉	【再掲】 美杉地域に止まらず津市にとりましても貴重な歴史資源であります多気北畠氏城館跡並びの早急な取り組みが必要であると考えます。
※南部エリア全体に関わるもの		
	美杉	現在の異常な獣害は、美杉地域の住民の生活する気力を衰退させています。既にたくさんありますが、全市を挙げた抜本的で元気の出る獣害対策をとることが必要であると考えます。

各プログラムごとの意見案	
<p>る経験豊富な人材もたくさんみえます。 よお、過疎・高齢化が進み、活力が低下するという大</p>	<p>・美杉地域は、豊かな自然と歴史と伝統に支えられた文化があり、それらを誇りとして生きる経験豊かな人材も豊富である。</p> <p>しかし、行政をはじめそれぞれの立場の方々が様々な対策を講じているにも関わらず、過疎・高齢化が進み、活力が低下するという大変厳しい状況下であり、集落機能の維持は近い将来大変困難になると思われる。</p> <p>については、集落機能の維持、再生のため、格段の施策配慮をお願いしたい。</p>
<p>ご伊勢本街道の保存、活用につきまして、市を挙げて</p>	<p>・美杉地域に止まらず、津市にとっても貴重な歴史資源である多気北畠氏城館跡並びに伊勢本街道の保存、活用について、市を挙げての早急な取組を進められたい。</p>
<p>びに伊勢本街道の保存、活用につきまして、市を挙げ</p>	
<p>の獣害対策を講じていただいていることは理解してい</p>	<p>・現在の異常な獣害は、美杉地域の住民の生活する気力を衰退させている。</p> <p>既にたくさんの獣害対策を講じていただいていることは理解しているが、全市を挙げた抜本的で元気の出る獣害対策を進められたい。</p>

(2) 市議会まちづくり推進調査研究特別委員会関係資料

ア 開催経過

(市議会まちづくり推進調査研究特別委員会)

日時	場所	名称	主な内容等
平成22年4月15日	議会棟第1委員会室	第1回まちづくり推進調査研究特別委員会	津市総合計画前期基本計画中間見直しの考え方について、今後の進め方について
平成22年6月17日	議会棟第1委員会室	第2回まちづくり推進調査研究特別委員会	平成22年度津市まちづくりレポート(案)について、総合計画における財政の見通しについて
平成22年8月5日	議会棟第1委員会室	第3回まちづくり推進調査研究特別委員会	津市都市マスタープランについて
平成23年1月6日	議会棟第1委員会室	第4回まちづくり推進調査研究特別委員会	津市総合計画審議会の開催状況及び意見集約状況について、津市総合計画前期基本計画の中間見直しに係る提言について
平成23年1月20日	議会棟第1委員会室	第5回まちづくり推進調査研究特別委員会	津市総合計画前期基本計画の中間見直しに係る提言について

(地域意見交換会)

日時	場所	名称	主な内容等
平成22年9月28日	芸濃総合支所大会議室	第1回地域意見交換会	旧津、河芸、芸濃、美里、安濃地域からの出席者との意見交換
平成22年10月28日	白山市民会館ホール	第2回地域意見交換会	久居、香良洲、一志、白山、美杉地域からの出席者との意見交換

(管外視察)

日時	視察先	視察目的
平成22年11月17日・18日	福岡県久留米市	久留米市総合計画について
	佐賀県佐賀市	佐賀市総合計画について

平成22年度
地域意見交換会実施報告

まちづくり推進調査研究特別委員会

はじめに

新・津市誕生以来2期目を迎えた今年3月、市の重点施策を監視・検証する4つの調査研究特別委員会が立ち上げられた。その1つであるまちづくり推進調査研究特別委員会では、平成20年4月にスタートした津市総合計画の推進を柱として調査研究を進めてきた。

津市総合計画では、広大な市域に一体感のある新しい県都を建設すべく、特色ある地域振興を目指す地域かがやきプログラムを重点プログラムの一つに位置付けており、地域の特性や資源を生かしながら地域づくりを進める中、それぞれの総合支所が、こうした地域づくりの拠点として中心的な役割を担うこととなっている。

津市総合計画における地域の在り方を検証するためには、地域で活躍する各界の方々との意見交換が必要との考えのもと当委員会は、地域の方々や執行部の御理解、御協力をいただき、市域を2つに分け、それぞれの地域に出向いて意見交換を行った。

以下は、地域意見交換会で得られた地域の実情と地域出席者の思いである。

平成22年12月

まちづくり推進調査研究特別委員会

委員長	小野	欽市
副委員長	西山	みえ
委員	青山	昇武
委員	小菅	雅司
委員	豊田	光治
委員	八太	正年
委員	桂	三発
委員	前田	勝彦

1 第1回地域意見交換会

(1)日 時 平成22年9月28日(火) 午前10時00分～

(2)場 所 芸濃総合支所大会議室(2階)

(3)出席者 地域出席者 7人

(旧津1、河芸1、芸濃2、美里1、安濃2)

まちづくり推進調査研究特別委員 8人

執行部 15人

(政策財務部と、河芸・芸濃・美里・安濃の各総合支所長・地域支援員)

議会事務局担当書記 2人

(4)意見(要旨/発言順)

ア 安濃地域出席者(工業団地自治会関係/男性)からは、工業団地への接続道路整備と工業団地同士の連携体制等について意見が出された。

安濃地域では津関線から工業団地への接続道路が狭く大型車の侵入が困難なことから、伊勢自動車道津ICへ回らなければならない。当該道路を改良整備するか、あるいは同安濃SAをスマートインターチェンジ化するなどして、しっかりとした侵入経路を確保してほしい。

市内には7～8の工業団地があるが、行政との情報の伝達ルートがないことから、工業団地側のさまざまな要望を行政に伝える機会がない。工業団地同士の連携を図る体制を作れば、情報のやり取りが迅速にできるのではないかと。

イ 河芸地域出席者(商工団体関係/男性)からは、開発行為上の規制(網掛け)の緩和等について意見が出された。

河芸地域は、津市と鈴鹿市の真ん中で発展しているが、開発行為上の規制(網掛け)が多く、課税上の問題がある上、都市景観や就労・雇用の確保、宅地開発による人口増の面からも支障をきたしている。行政の力で規制緩和を行って、まちづくりを支援してほしい。

ウ 芸濃地域出席者(小学校PTA関係/女性)からは、小学校の統合にかかわる問題、地域の安全・安心を担う駐在所の問題等について意見が出された。

芸濃地域の小学校の統合の影響で、統合した学校と単独の学校との教育力、指導力の格差が出ないか、中学校に進学した後もうまくやっていけるかという不安、それから廃止された小学校の跡地利用はどうなるのか。

市の西の玄関口ともいえる当地域から駐在所がなくなって、安全・安心がどう保障されるのか。

エ 芸濃地域出席者（まちづくり団体関係／女性）からは、小学校の統合にかかわる給食の問題と幼保一体化、地域のまちづくり協議会と市のまちづくりとの整合について意見が出された。

小学校の統合で安西・雲林院幼稚園が取り残されると、それまで安西小学校で作っていた給食がどうなるのか。市の給食センター建設計画もあるが、さまざまなリスクを考えると、安西・雲林院幼稚園、雲林院小学校の給食はどうなるのかというところから幼保一体化に行きつく。もし市として幼保一体化を考える機会があれば、芸濃町の幼稚園・保育所の子どもたちの居場所を視野に検討されたい。

まちづくりレポートが提案されているが、芸濃町のまちづくり協議会の思いと市が行おうとしている大きなまちづくりとの考え方や関連性の精査について、御指導願いたい。

オ 美里地域出席者（林業研究団体関係／男性）からは、高齢化による農林業の担い手不足と、獣害等で荒廃しきった山の状況等について意見が出された。

中山間地域の現状として、高齢化と後継者不足で林業の担い手、従事者がいない。また獣害がひどく、皆伐して植林しても1週間もしないうちにヒノキ、杉の皮がむかれ、山は荒廃しきっている。木材価格も低迷し、対策に苦慮している。

環境面、とりわけ地球温暖化の防止や災害発生の抑止効果を考えると、森林保全策等について、計画の中にもう一步突っ込んだ記述を盛り込まれたい。

カ 安濃地域出席者（地域文化スポーツクラブ関係／女性）からは、スポーツクラブ会員の減少等について発言があった。

運動による健康増進効果で病気を減らそうと、国の制度として各市町村にスポーツクラブを立ち上げたが、すでに数年が経過して会員数が減少しており、会員数の維持に苦慮している。高額な年会費も理由の一つと思われるが、事業を行うと講師謝金や体育館使用料など経費が必要で、会計的には難しい。

キ 旧津地域出席者（自治会連合会関係／男性）からは、市施設・幹線道路・海岸の整備等について意見が出された。

高齢者が集まれるような場所、健康維持のためにスポーツができるような市の建物を地元につくってほしい。

中勢バイパスの整備とともに、地震発生時に予想される江戸橋（国道23号）損壊を補完する意味で、河芸町島崎町線を早期に整備して、地域の安全・安心の確

保をお願いしたい。

また、津の観光資源の一つである長い海岸線を守る意味から、もっとも汚れがひどい北部海岸線の美化と、環境整備に早急に取り組みたい。

2 第2回地域意見交換会

(1)日 時 平成22年10月28日(木) 午前10時00分～

(2)場 所 白山市民会館ホール(2階)

(3)出席者 地域出席者 8人

(久居2、香良洲1、一志2、白山1、美杉2)

まちづくり推進調査研究特別委員 7人

執行部 15人

(政策財務部と、久居・香良洲・一志・白山・美杉の各総合支所長・地域支援員)

議会事務局担当書記 2人

(4)意見(要旨/発言順)

ア 香良洲地域出席者(消防団関係/男性)からは、災害発生時における指示、命令等の出し方と自主防災組織の在り方について意見が出された。

たとえば台風襲来時に山間地住民の感じる恐怖と沿岸住民の感じる恐怖とでは、その質がまったく違う。避難勧告や避難命令を含めて、その地域・時点に合った体制と指示や命令を速やかに取れる方法を考えてほしい。

地域の自主防災組織は、行政主導のものではなく地域の草の根から沸き上がってくるような組織でないと、いざという時に動かない。そういった組織づくりのための智恵を御教示願いたい。

イ 久居地域出席者(商工会関係/女性)からは、公民館の自主講座負担金の在り方等について意見が出された。

公民館講座としての3年間は、負担金が安価なことから参加者が多く集まるが、それを過ぎると自主活動となり負担金額が格段に上がり、参加者が激減する。3年で期限を切るのはいかがなものか。

また、久居地域出席者(温泉振興団体関係/男性)からは、榊原温泉の振興策と市の観光施策について、意見が出された。

合併して、市に甘えるのではなく、地域がまとまって自ら工夫して活性化に取り組まなければならないという思いが強くなった。すべて完成すれば91基になるという全国有数の青山高原の風力発電施設をランドマークとして、関西や中部か

らの人の流れを榊原温泉に呼び込むよう頑張りたい。接続道路の改修や新設等、行政にも御支援を願いたい。

ウ 一志地域出席者（農業団体関係／男性）からは、米価の下落と獣害への対策等について意見が出された。

政府の個別所得補償制度で米価が下落、面積が広い認定農家では多い所で1,000万の減収になっている。今後の成り行きによっては認定農家の倒産が懸念されており、市からの支援をお願いしたい。

猿、シカ、イノシシに加えて最近はクマの目撃情報もあり、市として獣害対策をしっかりとってほしい。

また、一志地域出席者（民生委員関係／女性）からは、要介護の独居老人への支援と地域から子どもが減ることへの対策について、意見が出された。

少子化で小中学校が統合されていくと、子どもたちの通学距離が遠くなるので、登下校時の安全等について御配慮願いたい。

エ 白山地域出席者（自治団体・学校評議員関係／女性）からは、青山高原ウインドファームの周辺環境への影響や獣害対策、地域の高齢者を守るシステムづくり等について意見が出された。

青山高原ウインドファームによる40基の風車新設計画に対して、周辺住民への低周波被害や開発に伴う新たな獣害誘発が懸念される。住民の不安を解消するよう、納得できる説明と対策をお願いしたい。

獣害対策について、ほおっておいたら子どもやお年寄りに危害が及ぶ状況となっているが、対策しようにも、補助金の条件が厳しい上に2分の1補助で、残りの負担が重い。何とか国・県・市のさらなる補助等について、御配慮願いたい。

オ 美杉地域出席者（自治会連合会関係／男性）からは、美杉地域の現状と再生への重点課題等について発言があった。

美杉地域は、主産業である林業の衰退とともに若年層を中心に人口が流出し、昭和45年の過疎法施行以来、過疎地域として過疎対策が進められてきた。平均高齢化率は域内4地区で50%を超え、限界集落である超高齢化地域となっている。

このような中、地域審議会では地域再生に向けた最優先の5つの重点課題

- ①獣害対策と遊休農地の活用
- ②森林セラピー基地のPRと集客拡大
- ③多気北畠氏城館跡周辺地区の歴史的資源のPRと集客・交流の拡大
- ④定住・二地域居住など、交流人口の拡大

⑤津市総合計画の地域かがやきプログラムの取り組み

について意見書をしたためた。主旨を御理解いただき御配慮をお願いしたい。

また、竹原地区では昨年9月、過疎・超高齢化の現状を少しずつでも解消しようと竹原地域活性化協議会を設立し、ボランティア的な活動や特産品の開発・販売、景観・環境整備活動等を行っている。

3 ま と め

地域の方々や執行部の全面的な御協力をいただいて開催した地域意見交換会であったが、地域出席者から、予想を上回るほどの現実的で貴重な御意見をお聞きすることができた。

津市総合計画のテーマの一つである市民の安全・安心に関しては、特に関心の高さがうかがわれた。

駐在所が統廃合された地域では、警察という他組織所管の部分についても、市全体のまちづくりの立場から、さらに積極的にかかわっていくことが求められていることが明らかになった。

大災害発生に備え市が取り組む自主防災組織について、地元の意識に温度差がある中で、いざという時に動ける組織をいかにつくりいかに運営するか、高齢化地域とりわけ超高齢化といわれる地域における自主防災の在り方など、現実的で重い課題が浮き彫りになった。

一方、地域づくりの拠点としての総合支所の役割にも、一石が投じられた。

温泉という観光資源をさらに有効活用して、市の観光施策に生かすために、商工観光部当局だけでなく、地域に詳しい総合支所が積極的に連携して総合支所自らが新たな人の流れを創造するという視点も考えていかなければならない。

まちづくりの原点に立ち返る特別委員会の新たな試みは、このほかにも多くの視点を私たちに与えた。その一つひとつは、今後、時間をかけて検証し活用されることになる。光の当て方によって物体の影がその形を変えるように、施策の在り方も多面的であり、さまざまな角度からの考察が必要である。

御出席いただいた地域出席者からは、これまでの審議会形式ではなく、今回のように市議会議員と直接意見交換できる場はとてありがたいし、自分たちの見識も広がった、との感想もいただいた。そうした方々の熱意に応えるためにも、いただいた意見の数々を今後の調査研究に生かしていきたい。

ウ 提言

まちづくり推進調査研究特別委員会 津市総合計画前期基本計画の中間見直しに係る提言

当委員会では、昨年3月の発足以来、津市総合計画を基本とした望ましいまちづくりの推進について、調査・研究を行ってきました。

とりわけ、津市総合計画においては、現在執行部において推進が図られている前期基本計画について、「事業の進ちょくや、国及び三重県における制度の変更などに応じて、弾力的な運用が図られるように、各基本計画の中間年度（策定から3年目）で見直しを行い、短期計画としての活用を図る」とされており、これまでに、重点プログラムを対象とした中間見直しの状況や、過去2カ年の評価をもとにした「まちづくりレポート」の報告などを受けてきました。

このことから、当委員会としても、本年度末を目途に執行部においてとりまとめられる前期基本計画の中間見直し、さらには、平成25年度からを計画期間とする後期基本計画の策定過程において、当委員会としての意見を反映させるため、委員からの意見・提案の主なものについて、提言としてとりまとめを行いました。

については、津市議会議長に報告を行いますとともに、執行部におかれては、当該中間見直し、さらには、総合計画を基にした今後のまちづくりに当たり、下記の点に十分留意され取り組まれるよう求めるところであります。

平成23年1月

まちづくり推進調査研究特別委員会

委員長	小野	欽市
副委員長	西山	みえ
委員	青山	昇武
委員	小菅	雅司
委員	豊田	光治
委員	八太	正年
委員	桂	三発
委員	前田	勝彦

《まちづくり戦略プログラム》

◎有害鳥獣対策について、すでに市域の大部分の地域で、獣害による農作物や住民への被害が広がっている。農作物への被害や交通の障害、さらには、地域住民の安全・安心の確保の観点から、具体的な対策を明らかにし、一つ一つ確実に施策を講じられることを求める。

◎高度成長時代に整備した上下水道や道路、橋梁などのインフラが、耐用年数を迎える時期に差し掛かっている。市域が広がったこともあり、これらの更新には莫大な経費が想定されることから、施設そのものの在り方の検討や長寿命化も含め、計画的で実効性のある施設更新に取り組まれない。

《元気づくりプログラム》

- ◎本市の情報発信を始めとするまちづくりの推進において、市の広報のあり方は極めて重要と考える。市をいかに全国発信するか、市のイメージ戦略を担う専門部署の設置など、広報機能の強化、充実を図られたい。また、報道機関へのより積極的な情報提供等、メディアを有効に活用し効果的なPRを実施されたい。

- ◎「津ぎょうざ」を市のご当地グルメとして全国に発信するため、食感や味の水準を確保するための認定制度を導入するなど、消費者の期待や満足度の向上に努められたい。

- ◎将来を担う子どもたちが、将来津に住んで、生活し、家庭をつくっていくため、小さいころから郷土津市を愛する心を育む教育が必要ではないか。郷土ゆかりの人物や歴史等を知り発掘すること、また、山から海に広がる市域を最大限に生かして、児童・生徒の相互交流を深めることなど、郷土学、ふるさと学といえる知識の共有や、生きる力の育成等の教育の充実を図られたい。

- ◎伊勢湾に面した長い海岸線を有し、東海、東南海・南海地震等の大規模地震発生の際には相当の被害が予想されている中で、備蓄・避難施設を含めた防災施設の更新・強化や、有事の際に地域特性を踏まえた適切な避難及び対応ができるような、地域における市民の防災意識の一層の啓発など、市民の安全・安心の速やかな向上を図られたい。

- ◎未来の津市の在り方を決定づける産業構造の中心核として、誘致企業を選定し、産業拠点の形成と高度化を図られたい。また、国土の中心に近い交通至便なところにあり、雪が少なく、365日企業活動ができるという市の利点を生かし、雇用を生み、人づくりの拠点となる積極的な企業誘致活動を推進されたい。

《地域かがやきプログラム》

- ◎それぞれの地域にはそれぞれの生活者があり、日々の生活を営んでいる。地域の特性を生かしたまちづくりであっても、特性を強調しすぎて地域の生活者が犠牲になってはならない。地域がかがやくためには、同時に生活の場を充実させていくことが必要である。

- ◎当委員会が昨年実施した地域意見交換会では、地域で活躍されている各界の方々とさまざまな視点からの有意義な意見交換を行うことができた。地域振興に当たっては、その際にとりまとめた「地域意見交換会実施報告」における地域の方々の御意見を踏まえ、より一層の推進を図られたい。

- ◎地域の声に耳を傾け、スピーディーに施策に生かせるよう、総合支所を有効に活用した地域支援の在り方を十分検討し、市域全体の調和した発展を図られたい。

《総括的事項》

- ◎総合計画の見直しに当たっては、さまざまな事業の裏付けとなる財政計画についても、社会経済情勢の変動を踏まえ、絶えず厳しい目で見直しを図られるとともに、合併特例債、過疎債等の有利な財源の活用や、自主財源の確保、民間活力の積極的導入をこれまで以上に推進するなど、リーダーである市長の下、行政経営の観点からのさらなる努力を図られたい。

- ◎今後の総合計画の策定に当たっては、偏りなく意見聴取し計画に反映させることが必要となる。とりわけ労働や子育てに実質的にかかわる 20～40 歳代の若い世代は、さまざまな現実的課題に直面しており、将来の市を担っていく世代でもあることから、かかる世代の意見を計画にどう反映させるかを十分に検討されたい。

- ◎総合計画に基づく事業の推進に当たっては、「津市」という会社をいかに経営するか、着眼点をどう位置付け、事業展開し、まちをどう建設するのか等の大局的見地から、その時々社会経済情勢に応じ、執行状況の確認や見直しを行うとともに、役割分担と責任、具体的で明確な目標を持って、市の土台作りを強力に推し進め、市民の要望に応えるまちづくりに全力で取り組まれたい。

(3) 各地区地域審議会関係資料
ア 意見提出依頼

津市政策第568号
平成22年11月26日

津地区地域審議会
会長 岡本 裕次 様

津市長 松 田 直 久
(公印省略)

津市総合計画前期基本計画中間見直しに係る意見のとりまとめに
ついて(依頼)

時下ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。

見出しのことにつきまして、本市におきましては、現在、津市総合計画前期基本計画の中間見直しを実施しているところです。

当該見直しに当たっては、貴審議会で開催されております地域かがやきプログラムの進行管理に係る御意見を反映したいと考えております。

つきましては、貴審議会における御意見をとりまとめの上、誠に勝手ながら、年内に政策財務部地域振興室まで御送付いただきますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

津市政策第568号
平成22年11月26日

久居地区地域審議会
会長 石川 裕一 様

津市長 松 田 直 久
(公印省略)

津市総合計画前期基本計画中間見直しに係る意見のとりまとめに
ついて(依頼)

時下ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。

見出しのことにつきまして、本市におきましては、現在、津市総合計画前期基本計画の中間見直しを実施しているところです。

当該見直しに当たっては、貴審議会で開催されております地域かがやきプログラムの進行管理に係る御意見を反映したいと考えております。

つきましては、貴審議会における御意見をとりまとめの上、誠に勝手ながら、年内に久居総合支所地域振興課まで御送付いただきますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

津市政策第568号
平成22年11月26日

河芸地区地域審議会
会長 内山 則夫 様

津市長 松 田 直 久
(公印省略)

津市総合計画前期基本計画中間見直しに係る意見のとりまとめに
ついて(依頼)

時下ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。

見出しのことにつきまして、本市におきましては、現在、津市総合計画前期基本計画の中間見直しを実施しているところです。

当該見直しに当たっては、貴審議会で実施されております地域かがやきプログラムの進行管理に係る御意見を反映したいと考えております。

つきましては、貴審議会における御意見をとりまとめの上、誠に勝手ながら、年内に河芸総合支所地域振興課まで御送付いただきますよう、何卒よろしくお
願い申し上げます。

津市政策第568号
平成22年11月26日

芸濃地区地域審議会
会長 鈴木 宗男 様

津市長 松 田 直 久
(公印省略)

津市総合計画前期基本計画中間見直しに係る意見のとりまとめに
ついて(依頼)

時下ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。

見出しのことにつきまして、本市におきましては、現在、津市総合計画前期基本計画の中間見直しを実施しているところです。

当該見直しに当たっては、貴審議会で実施されております地域かがやきプログラムの進行管理に係る御意見を反映したいと考えております。

つきましては、貴審議会における御意見をとりまとめの上、誠に勝手ながら、年内に芸濃総合支所地域振興課まで御送付いただきますよう、何卒よろしくお
願い申し上げます。

津市政策第568号
平成22年11月26日

美里地区地域審議会
会長 高岡 俊明 様

津市長 松田 直久
(公印省略)

津市総合計画前期基本計画中間見直しに係る意見のとりまとめに
ついて(依頼)

時下ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。

見出しのことにつきまして、本市におきましては、現在、津市総合計画前期基本計画の中間見直しを実施しているところです。

当該見直しに当たっては、貴審議会で実施されております地域かがやきプログラムの進行管理に係る御意見を反映したいと考えております。

つきましては、貴審議会における御意見をとりまとめの上、誠に勝手ながら、年内に美里総合支所地域振興課まで御送付いただきますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

津市政策第568号
平成22年11月26日

安濃地区地域審議会
会長 石見 隆浩 様

津市長 松田 直久
(公印省略)

津市総合計画前期基本計画中間見直しに係る意見のとりまとめに
ついて(依頼)

時下ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。

見出しのことにつきまして、本市におきましては、現在、津市総合計画前期基本計画の中間見直しを実施しているところです。

当該見直しに当たっては、貴審議会で実施されております地域かがやきプログラムの進行管理に係る御意見を反映したいと考えております。

つきましては、貴審議会における御意見をとりまとめの上、誠に勝手ながら、年内に安濃総合支所地域振興課まで御送付いただきますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

津市政策第568号
平成22年11月26日

香良洲地区地域審議会
会長 松島 昇 様

津市長 松田直久
(公印省略)

津市総合計画前期基本計画中間見直しに係る意見のとりまとめに
ついて(依頼)

時下ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。

見出しのことにつきまして、本市におきましては、現在、津市総合計画前期基本計画の中間見直しを実施しているところです。

当該見直しに当たっては、貴審議会で実施されております地域かがやきプログラムの進行管理に係る御意見を反映したいと考えております。

つきましては、貴審議会における御意見をとりまとめの上、誠に勝手ながら、年内に香良洲総合支所地域振興課まで御送付いただきますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

津市政策第568号
平成22年11月26日

一志地区地域審議会
会長 豊田 千春 様

津市長 松田直久
(公印省略)

津市総合計画前期基本計画中間見直しに係る意見のとりまとめに
ついて(依頼)

時下ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。

見出しのことにつきまして、本市におきましては、現在、津市総合計画前期基本計画の中間見直しを実施しているところです。

当該見直しに当たっては、貴審議会で実施されております地域かがやきプログラムの進行管理に係る御意見を反映したいと考えております。

つきましては、貴審議会における御意見をとりまとめの上、誠に勝手ながら、年内に一志総合支所地域振興課まで御送付いただきますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

津市政策第568号
平成22年11月26日

白山地区地域審議会
会長 西川 正志 様

津市長 松田 直久
(公印省略)

津市総合計画前期基本計画中間見直しに係る意見のとりまとめに
ついて(依頼)

時下ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。

見出しのことにつきまして、本市におきましては、現在、津市総合計画前期基本計画の中間見直しを実施しているところです。

当該見直しに当たっては、貴審議会で実施されております地域かがやきプログラムの進行管理に係る御意見を反映したいと考えております。

つきましては、貴審議会における御意見をとりまとめの上、誠に勝手ながら、年内に白山総合支所地域振興課まで御送付いただきますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

津市政策第568号
平成22年11月26日

美杉地区地域審議会
会長 岡田 武士 様

津市長 松田 直久
(公印省略)

津市総合計画前期基本計画中間見直しに係る意見のとりまとめに
ついて(依頼)

時下ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。

見出しのことにつきまして、本市におきましては、現在、津市総合計画前期基本計画の中間見直しを実施しているところです。

当該見直しに当たっては、貴審議会で実施されております地域かがやきプログラムの進行管理に係る御意見を反映したいと考えております。

つきましては、貴審議会における御意見をとりまとめの上、誠に勝手ながら、年内に美杉総合支所地域振興課まで御送付いただきますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

イ 意見

平成 22 年 12 月 24 日

津市長 松田 直久 様

津地区地域審議会
会長 岡本 祐次

津市総合計画前期基本計画中間見直しに係る意見書の提出について

貴職におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。
平素は、総合計画の基本理念に沿って、「人と人とのつながり」と「住みやすさ」の県都創造をめざし、参加と協働のまちづくりにご尽力を賜っておりますことに、深く敬意を表する次第です。

さて、平成 22 年 11 月 26 日付、津市政第 568 号をもって依頼のありました、当審議会の実施に係る「地域かがやきプログラム」の進行管理に関する意見を下記の通りとりまとめましたので、ご賢察賜り、参考に供していただければ幸いです。

なお、「津市総合計画前期基本計画中間見直し」に当たっては、平成 22 年 7 月の「都市マスタープラン」の方向性に、全面的に与されんことを、強く希望いたします。

記

地域かがやきプログラム

1 知の拠点としての情報発信

(1) 研究情報ハブの形成

大学等研究機関や企業との連携のもと、産業振興センターにおいて、メカトロニクスやバイオをキーワードとして先端研究やそれらの融合領域に関わるナレッジ・ハブを整備して行くことで、特色ある「知」の情報拠点となる研究情報ハブ形成をめざしていますが、産業振興センターとしての機能が発揮されていないために、産学官と連携しての「知」の情報を発信していく取り組みができておりません。

産業振興センターが核になり、産学官の橋渡しを行い、情報を整備する環境づくりや大学研究機関と企業との先端研究の誘導を行う必要があります。

（２）文化情報ハブの形成

市民や関係機関との連携のもと、「県都」としての文化情報の蓄積を行政情報システムにより整備して行くことで、洗練された文化情報ハブの形成をめざしていますが、各種団体の協力のもと、活動内容の情報を定期的に収集し、文化情報を蓄積する体制づくりができておりません。

各種団体の協力を得て、リアルタイムに情報を集積できるシステムを構築する必要があります。

例えば、つ・ローカルインフォメーション事業「津のこと」を活用して、情報の集積や情報ハブとしての役割を担うことができると考えられます。

（３）国内・国際会議の開催

メカトロニクスやバイオをキーワードとして、大学等研究機関や企業との連携のもと、三重県総合文化センター等を会場とし、これら先端的研究の国内・国際会議の開催をめざしています、新しい事業分野への進出を模索する中小企業の皆様が aumentando 中で、講座やセミナーで意見交換などが行われておりますが、会議の方向性が見えていないのが現状であります。

新しい事業分野への進出には、高等教育機関と企業が連携した技術交流から生まれる先端的研究の会議の開催できる場づくりや環境づくりを進める必要があります。

（４）地域ブランドの情報発信

本市のイメージ形成に資する特産品や農林水産物などの地域ブランドをホームページや携帯電話などの情報媒体を積極的に活用し、一体的かつ総合的な情報発信に取り組んでおりますが、地域で生まれた商品のブランドを高めるには、安定した販売量と地域ブランドを発掘して行く時間を要します。

津eネットショップは、安定した販売量を確保できる地域ブランドの発掘やパソコンを使わない市民に対しても認知されるよう、企画、運用面で検討をいただき情報を発信していく必要があります。

（５）市民参加による旬の地域情報発信

四季折々の景観など、旬の地域情報を発信するため、市民特派員を設置するなど、市民参加型情報発信の仕組みづくりを推進していますが、市民特派員が市民に向けて発信する仕組みであることから、市民の関心がどれくらい得られるか、市民特派員の質的向上や高齢者などインターネットを使わない方に新しい情報をいかに伝えて行くのかが求められます。

例えば、地上デジタルへの移行に伴い、あらゆる電子媒体を利用したの広報活動や会議等での人が集まるところでのPRなどの口コミも大事であり、品質の高いサイトへ進めて行くには、市民が気楽に利用できることが必要であります。

2 地域を担う人づくり

(1) 多様な人材育成

公民館を中心とした社会教育施設や津センターパレスなど公共施設を活用し、市内及び近隣の大学と連携した生涯学習講座や、各分野において専門的な知識を有する市民による講座等の開設により、地域社会における問題解決や支え合いの仕組みを担う多様な人材の育成を図りますが、講座を利用して育成した人材の活動の場を提供できるよう目的意識を持った講座体系に取り組むことが大切であり、講座終了後、人材の活動の場を提供できるシステムづくりが必要です。また、将来は科目履修生としての単位が取れるような体制づくりも必要であります。

3 地域連携による交流の推進

(1) 歴史文化の賑わいの創出

一身田寺内町の環濠や町並みなど歴史的景観をはじめ、地域の文化を感じさせる景観や風情などの発掘・活用など市民がまちづくりに参加できる体制づくりを進めてきましたが、一身田寺内町に残る多くの文化財や歴史的な町並みについて広く情報を発信していくことが、うまくできていないように思われます。

高田本山専修寺等との連携や若者をもっと取り入れ情報を発信していく必要があります。また、訪れる人への思いやりなどおもてなしの場を設け、心のやすらぎを味わえる活動も必要であります。

(参考)

3 地域かがやきプログラム

1 知の拠点としての情報発信

(1) 研究情報ハブの形成

(政策財務部、商工観光部ほか)

前期基本計画における目標	大学等研究機関や企業との連携のもと、産業振興センター（仮称）において、メカトロニクスやバイオをキーワードとした先端的研究やそれらの融合領域に関わるナレッジ・ハブ（知識中継点）を整備していくことで、特色ある「知」の情報拠点となる研究情報ハブの形成をめざします。
課題	ナレッジ・ハブを整備するために、産業振興センターが国立大学法人三重大学、財団法人三重県産業支援センター等との橋渡しなどを行い、企業と連携し、「知」の情報を発信していく取組が課題であります。
今後の取り組み	産業振興センターが産学官の橋渡しを行い、情報を整備する環境づくりが必要であります。 また、産業振興センターが核になり大学等研究機関と企業との先端研究の誘導を行う必要があります。

3 地域かがやきプログラム

1 知の拠点としての情報発信

(2) 文化情報ハブの形成

(政策財務部、スポーツ文化振興部ほか)

前期基本計画における目標

市民や関係機関との連携のもと、「県都」としての文化情報の蓄積を行政情報システムにより整備していくことで、洗練された文化情報ハブの形成をめざします。

課題

各種団体の協力のもと、文化団体や活動内容の情報を定期的に収集し、文化情報を蓄積する体制づくりが課題であります。

今後の取り組み

各種団体の協力のもと、リアルタイムに情報を集積できるシステムを構築する必要があります。

例えば、つ・ローカルインフォメーション事業「津のこと」が情報の集積や情報ハブとしての役割を担うことができるのではないのでしょうか。

3 地域かがやきプログラム

1 知の拠点としての情報発信

(3) 国内・国際会議の開催

(政策財務部、商工観光部ほか)

<p>前期基本計画における目標</p> <p>メカトロニクスやバイオをキーワードとして、大学等研究機関や企業との連携のもと、三重県総合文化センター等を会場とし、これら先端的研究の国内・国外会議の開催をめざします。</p>
<p>課題</p> <p>新しい事業分野への進出を模索する中小企業の皆さんが増えている中で、講座やセミナーで意見交換などが行われていますが、高等教育機関と企業が連携した技術交流から生まれる先端的研究の会議の方向性が見えていないのが課題であります。</p>
<p>今後の取り組み</p> <p>新しい事業分野への進出を模索する中小企業の皆さんが増えている中で、講座やセミナーでの意見交換などが行われていますが、会議の方向性が見えていないのが現状であり、大学等研究機関や企業と連携して会議の開催できる場づくり、環境づくりを進める必要があります。</p>

3 地域かがやきプログラム

1 知の拠点としての情報発信

(4) 地域ブランドの情報発信

(政策財務部、農林水産部、商工観光部、河芸総合支所ほか)

前期基本計画における目標	<p>本市のイメージ形成に資する特産品や農林水産物などの地域ブランドをホームページや携帯電話などの情報媒体を積極的に活用し、一体的かつ総合的な情報発信を図ります。</p> <p>国道 23 号中勢バイパス津（河芸）工区に予定されている道の駅の整備促進にあわせて、地域情報発信拠点及び農林水産物等の流通促進施設として、「道の駅」拠点づくりを進めます</p>
課題	<p>地域で生まれた商品のブランドを高めるためには、安定した販売量が必要であり、地域ブランドを発掘するには時間を要します。</p>
今後の取り組み	<p>津eネットショップは、地域で生まれた商品のブランドを高めることで、安定した販売量を確保できる「地域ブランド」の発掘が必要であり、パソコンを使わない市民に対して認知されるよう、企画、運用面で検討をいただき、情報発信をしていく必要があります。</p>

3 地域かがやきプログラム

1 知の拠点としての情報発信

(5) 市民参加による旬の地域情報発信

(政策財務部ほか)

<p>前期基本計画における目標</p> <p>四季折々の景観など、旬の地域情報を情報発信するため、市民地域特派員（仮称）を設置するなど、市民参加型情報発信の仕組みづくりを推進します。</p>
<p>課題</p> <p>市民特派員が市民に向けて発信する仕組みであることから、市民の関心がどれぐらい得られるか。市民特派員の質的向上が求められる。</p>
<p>今後の取り組み</p> <p>つ・ローカルインフォメーション事業「津のこと」は、市民特派員が市民に向けて発信していく仕組みであることから、質的改善を講ずることが基本的な取り組みであり、また、高齢者などインターネットを使わない方に新しい情報をいかに伝えるかということも考えて行くことも必要であります。</p> <p>例えば、地上デジタルへの移行に伴い、あらゆる電子媒体を利用しでの広報活動や会議等の人の集まるところでのPRなどの口コミも大事ではないでしょうか。</p> <p>品質の高いサイトへ進めて行くには、市民が気楽に利用できることが大切であります。</p>

3 地域かがやきプログラム

2 地域を担う人づくり

(1) 多様な人材の育成

(教育委員会、教委久居事務所ほか)

<p>前期基本計画における目標</p> <p>公民館を中心とした社会教育施設や、津センターパレス、河芸庁舎、ポルタひさい、サンデルタ香良洲などの公共施設を活用し、市内及び近隣の大学と連携した生涯学習講座や、各分野において専門的な知識を有する市民による講座等の開設により、地域社会における問題解決や支え合いの仕組みを担う多様な人材の育成を図るとともに、施設の有効活用を図ります。</p>
<p>課題</p> <p>受講者が継続できる体制づくり</p> <p>講座を利用して育成した人材の活動の場を提供できるよう目的意識を持った講座体系に取り組むことが大切であります。</p>
<p>今後の取り組み</p> <p>これまでの公民館講座が一般的な内容に留まっているのに対し、高等教育機関との連携のもと展開しており、方向性は正しいと思われませんが、講座終了後、講座を利用し、育成された人材の活動の場を提供できるシステムを作り上げることが必要であります。</p> <p>また、講座の質的向上については、高等教育機関との連携の在り方を再考する必要があり、将来、科目履修生としての単位が取れるような体制づくりも必要であります。</p>

3 地域かがやきプログラム

3 地域連携による交流の推進

(5) 歴史文化の賑わいの創出

(スポーツ文化振興部、教育委員会、商工観光部ほか)

<p>前期基本計画における目標</p> <p>一身田寺内町の環濠や町並みなど歴史的景観をはじめ、地域の文化を感じさせる景観や風情などを発掘・活用など、市民がまちづくりに参加できる体制づくりを進めることで、賑わいや訪れる人への思いやり、もてなしを創出します。</p>
<p>課題</p> <p>高田本山等と連携して情報を発信していくことが大事ではないでしょうか。</p> <p>一身田、お城、津観音様を活用した一体感のまちづくりも大事であります。</p>
<p>今後の取り組み</p> <p>一身田寺内町の町並み景観や地域の文化を宣伝するのに、若者をもっと取り入れ情報を発信していく必要があります。</p> <p>また、訪れる人への思いやりなどおもてなしの場を設け、心の安らぎを味わえる活動も必要であります。</p>

平成23年1月11日

津市長 松田直久様

久居地区地域審議会
会長 石川裕一

津市総合計画前期基本計画中間見直しに係る意見について（報告）

このことについて、本審議会では慎重に審議を重ねた結果、別添のとおり意見書を取りまとめましたので報告します。

総合計画に基づく今後の行政運営、さらに後期基本計画の策定に当たっては、別添の「津市総合計画前期基本計画の中間見直しに対する意見書」及び「市の行政運営に対する意見書」の意見を十分に尊重して取り組まれるよう要望します。

なお、当審議会から市へ特に要望したい内容は下記のとおりです。

記

- 1 総合計画の最重要課題の一つである交流人口の増加を目指すとともに、久居地域の振興を図るためには、久居駅周辺地区及び青山高原・榊原温泉周辺地区の活性化が必要不可欠である。
- 2 特に青山高原・榊原温泉周辺地区の振興については、地域住民も熱心に取り組んでいるため、本市が誇る観光拠点の一つとして市としても重点的に整備されたい。
また、後期基本計画には「青山高原・榊原温泉郷周辺整備事業（仮称）」を新たに盛り込むとともに、当事業のスタートに向け、地域住民、温泉旅館、市の三者を含めた官民一体の推進組織を早急に立ち上げられたい。
- 3 久居駅周辺地区については、現在進行中の久居駅東側周辺地区整備事業に留まらず、久居駅東側から新町、二ノ町、本町商店街などを含む周辺地域を一体的にとらえ、市の副都市核に相応しい拠点整備を進められたい。

津市総合計画前期基本計画の中間見直しに対する意見書

●地域かがやきプログラムの中間見直しについて

1 見直しの視点

津市総合計画では、従来の道路、鉄道等の陸路に加え、中部国際空港への海上アクセスによって交流人口を増大し、将来的な津市の発展を展望している。

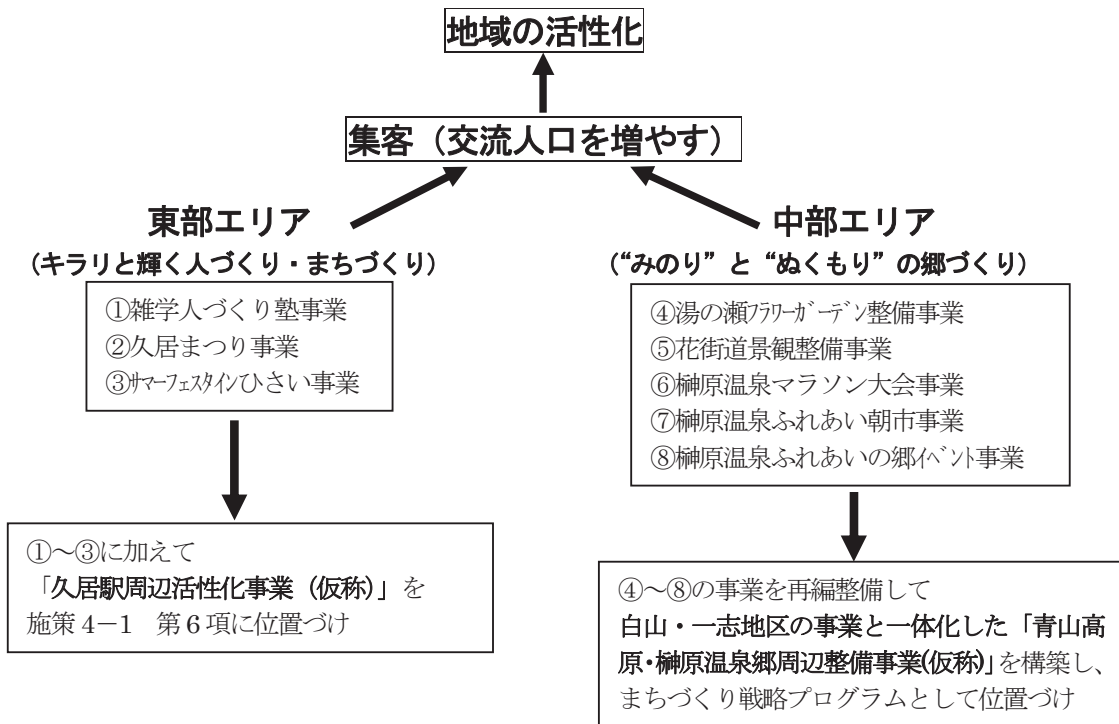
計画のベースである土地利用方針では、市域を「都市ゾーン」、「農住ゾーン」、「自然環境共生ゾーン」の3つに区分し、「都市ゾーン」では都市機能の集積、「農住ゾーン」では農林業の振興、「自然環境共生ゾーン」では豊かな自然環境や森林資源を保全、活用し、農林業の振興や観光を推進することとしている。

その中で、久居地域には、「都市ゾーン」と「農住ゾーン」が共生しており、前者が東部エリア、後者が中部エリアとなっている。特に、久居駅周辺地区は市南部の玄関口として副都市核に位置づけ、交流拠点として副次的な都市機能の整備を進めることとしている。また、中部エリアは、本市の中でも、特に豊かな自然環境に恵まれた地域で、観光・レクリエーション、自然環境保全への取組が期待されている。

このような視点から、久居地域における地域かがやきプログラムを捉え、(1)地域かがやきプログラムの目的は何か、(2)総合計画では「特色ある地域振興」を目的としているが、事業そのものが目的化していないか、(3)各事業実施上の問題点は何か、(4)解決策は提示されているか、(5)問題点と解決策は適切であるかを検証する。

なお、個別事業の検証結果は「5」で後述する。

2 現状及び新規事業の提案



●新規事業の提案

東部エリアでは、①から③の事業に加え、現在進行中の久居駅東側周辺地区整備事業に絡めて駅前の利便性を活かし、賑わい性を高めるための都市機能の整備・充実を図り、副都市核に相応しく整備する必要がある。

中心市街地では空き店舗の増加で商店街の連続性が失われ、衰退傾向が著しいため、郊外型の大型店との明確な差別化、徒歩でブラブラ歩きまわることができ、疲れたら、ほっとくつろげる店がある「歩いて暮らせるコンパクトな街づくり」のための魅力ある商店街づくりに向けた環境整備が必要である。そのため、車の通行を気にせずにする、来街者の安全面に配慮した環境整備に対する支援のほか、チャレンジショップなどの空き店舗活用や文化活動とのタイアップ(屋外ライブやアート展)など、若い世代の発想も積極的に取り入れ、新しい商業の可能性も検討してはどうか。

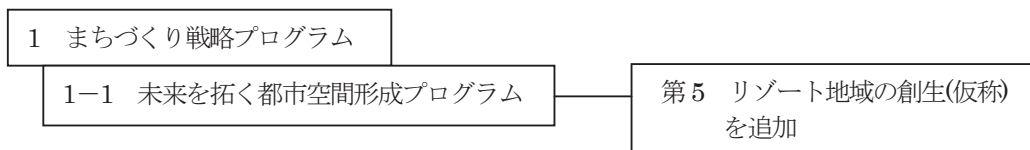
また、副都市核として位置付けられた久居駅周辺地区を包含する新たな「久居駅周辺活性化事業(仮称)」の構築が必要である(施策体系図 4-1 第6項に位置付け)。

施策体系図



中部エリアでは、④から⑧までの個別事業を再編整備して白山、一志地区の事業と一体化した「青山高原・榊原温泉郷周辺整備事業(仮称)」を構築し、まちづくり戦略プログラムの1-1 未来を拓く都市空間形成プログラムの5番目に「リゾート地域の創生(仮称)」を追加し、ここに位置付けた事業とする。

重点プログラムの体系図



「青山高原・榊原温泉郷周辺整備事業(仮称)」の具体的イメージ

背景

- (1) 近年、東南アジア等近隣諸国からの飛躍的増加が予想されている観光客をどれだけ誘致するか、観光レクリエーション事業の推進は、観光立国を掲げる国・地方自治体の重要課題である。
- (2) 総合計画でも「津なぎさまち」を玄関口として津インターチェンジ間を新都心軸とし、国内外の入込客を温かく受け入れるよう整備する方針であり、本市における最重要施策の一つとしている。

- (3) 本市で観光事業を大々的に推進すべきエリアは中部エリアであり、その中核を成すのが青山高原・風力発電・榊原温泉周辺地域である。
- (4) 久居地域では、合併以前から久居駅周辺地区、久居インターチェンジ周辺地区とともに青山高原・榊原温泉周辺地区を3つの核となる交流拠点として位置付けてきた。
- (5) 榊原温泉は、全国的に広く知られた名泉であるとともに、その周辺には自然豊かな里山や雄大な風景が広がる青山高原が控え、さまざまな観光資源に恵まれている。

主なポイント

- (1) 榊原地域で行う事業を白山、一志地域の事業と一体化して「**青山高原・榊原温泉郷周辺整備事業(仮称)**」とし、**まちづくり戦略プログラム**に位置付ける。
- (2) 地域間調整により既存事業の再編、再構築を行う。
- (3) 次の事業を取り込み、地域振興を図ることをベースにこれらの事業に取り組む。
 - ① アクセス道路の早期整備(県道青山高原公園線、県道亀山白山線等)
 - ② 農畜産物の産地化・特産品化事業
 - ③ 農業法人、企業等による6次産業(農商工連携)の育成など農業の振興
 - ④ 耕作放棄地、里山、森林など農林業資源の保全事業、獣害対策と食肉活用
 - ⑤ 自然環境を活かした体験学習、健康学習の推進
 - ⑥ グリーンツーリズムに対応した環境整備
 - ⑦ 地元の歴史、文化、イベントを利用した情報発信事業

※ 新規事業の開始年度は、後期基本計画開始年度の平成25年度とし、それに向けて関係者の議論を始める必要がある。

3 地域かがやきプログラムの事業実施において留意すべき点

- (1) 事業そのものを目的化せず、事業の目的を多面的に捉えて事業の推進を図る。(事業の背景・目的・目標・目標要件を整理してから、課題・検討項目を明確にし、課題系統図で、ヒト・モノ・カネ別に課題を洗い出して事業に取り組む)
- (2) 目標設定及び成果の活用方法を明確にする。
- (3) 成果指標は、可能な限りアウトカム指標とし、評価基準を見直す。
- (4) 原則として、必要のない事業を無駄に存続させないようにサンセット方式を採用する。
- (5) 全般的にイベントに偏り過ぎているため、地域かがやきプログラムの在り方について再考が必要。
- (6) 合併の最大課題である「地域間交流」を促進するため、旧市町村域やエリアに捉われないプログラムを取り入れる。

4 今後の地域かがやきプログラムに対する提案

- (1) 行政主導でなく地域住民主導により、市民一人ひとりが生涯を通して、健康で生きがいを持って安全で安心して過ごせる地域社会を実現するための課題を選択する。(子育て、介護、独居など崩壊した家庭機能の支援対策、高齢者の生きがい、雇用対策から農林資源など自然環境保全対策等、身の周りの全ての行政課題を対象とする)

- (2) 課題解決には多数の地域住民の連携・参画が必要であり、特に定年退職した世代が持っている経験・知識・技術は多様で得がたいものであるため、これらの世代の人たちが地域活動に参加してもらえるよう働きかける。
- (3) 課題解決の参画者は、地域の課題解決に自主的、積極的に参加、協力する意欲のある多様な地域住民等(個人、ボランティア、任意団体、NPO及び企業)とする。
- (4) プログラム選定に当たっては、エリア間調整に留意する。
- (5) 公募委員で構成するプログラム選定委員会を設立する。(提案:委員数は数名以内とし、無報酬、交通費程度の支給とする)

5 現在の地域かがやきプログラム事業に対する意見・提案など

(1) 地域を担う人づくり 多様な人材の育成 (津市民大学 雑学人づくり塾事業)

- ・現在は、事業内容が7地区公民館でバラツキがあり、どのような人づくりを目指すのかが明確でないように思われる。地区公民館により特色があっても良いが、まずは目標を明確にし、講座内容の絞り込みが必要である。
- ・受講生が活躍できる仕組みづくり(ゲストティーチャーへの活用や受講生からの講師登用など)を早急に整理すべき。
- ・地域には、これまでの経験(仕事や趣味など)を生かして講師となれる人材が眠っていると思われるため、このような人材の発掘・登用も必要と思われる。また、後継者が不足している自治会長や民生・児童委員など、地域のリーダーとなる人材の発掘や育成にも取り組んで欲しい。
- ・支所や出張所の統廃合が進む中、地区公民館には、地域のコミュニティセンター的な役割が期待されている。公民館講座生だけでなく、地域住民にも開かれた施設として活用できるよう努めて欲しい。

(2) 地域を担う人づくり スポーツ・レクリエーション等を通じた生きがいづくり

(久居まつり事業、サマーフェスティバルひさい事業)

- ・久居駅周辺地区は、総合計画で副都市核として交流拠点の一つに位置づけられている。この位置づけに相応しい新たな交流と活力を創造するためにも、久居駅周辺が一体となって取り組む必要がある。
- ・現在の久居まつりは、二ノ町会場に限定した祭りとなっているため、久居駅一帯で祭りの雰囲気を演出することで、久居駅からも来場者が誘導できるよう工夫が必要である。(ポスターやのぼりの掲示など)また、会場が狭く、高齢者や子どもたちには危険なため、隣接する新町や本町への会場拡大も検討して欲しい。
- ・よさこいなど、余所の地域にある催しよりは、久居地域の伝統ある踊りや文化活動を発掘して取り入れ、地域独自の祭りを工夫して欲しい。

(3) 温泉リフレッシュゾーンの魅力アップ 温泉利用客誘致への魅力アップ

活力ある温泉ゾーン形成事業(湯の瀬フラワーガーデン整備事業、花街道景観整備事業)

- ・榊原温泉・青山高原は、総合計画でレクリエーション拠点の一つとして位置づけられており、津市観光ビジョンでも重点地区の一つとして取り上げられている。この位置

づけに相応しい拠点づくりに向けて、榊原地域で行うさまざまな事業(榊原温泉マラソン大会、ふれあい朝市、秋の収穫祭など)を一体的に考え、盛り上げていく必要がある。

- ・地域住民、温泉旅館、市の三者で、榊原温泉郷を今後どのように発展させていくべきかを話し合い、まずはランドデザインづくりから始める必要がある。
- ・花街道景観整備事業は、植栽品種を工夫することで、年間を通して花が楽しめるよう工夫するとともに、車を止めて鑑賞できるよう工夫してはどうか。また、榊原温泉郷内の景観整備にも取り組んで欲しい。

(4)温泉リフレッシュゾーンの魅力アップ 温泉でつなぐふれあいルートの設定

(榊原温泉マラソン大会事業)

- ・当事業は、大会名称に「榊原温泉」を使うことで、榊原温泉のPRに寄与している。平成21年度から開催時期を11月に変更したため参加者が減少しているが、今後、早い時期に開催日時をPRし、沿道での応援協力や参加者の増加を目指す必要がある。
- ・マラソンによって榊原温泉を訪れる参加者等を、宿泊客に繋げるための工夫が必要である。(温泉施設等と連携し、大会前日にスポーツ関連の講演会やウォーキング大会を開催するなど)

(5)食のブランド化 地産地消の促進 (榊原温泉ふれあい朝市事業)

- ・より魅力的な朝市へ発展していくためにも、生産者組織を充実し、農作物や加工品の品数を増やし、開催数を増やして定期的に行うことができるよう目指す必要がある。
- ・榊原の朝市としてオリジナルの名物や特産品の掘り起こしを工夫し、朝市を通じた榊原温泉の魅力アップを目指して欲しい。
- ・将来的には、市からの支援を受けずに自立していけるよう指導が必要である。

(6)食のブランド化 特産品づくりの推進 (榊原温泉ふれあいの郷イベント事業)

- ・現在は、イベント(「榊原温泉 秋の収穫祭」)に対する支援を行っているが、当プログラムの目標である「特産品づくり」の実現に向け、榊原温泉の特産物を生かした商品開発や名物づくりにも取り組む必要がある。
- ・古代米を活用した特産品づくりは、民間企業等の協力によるお菓子の商品化で一定の成果を得ているが、今後、販路開拓のため、県や県観光連盟、市観光協会等にも広報で取り上げてもらえるよう売り込みが必要であり、さらに、古代米に続く新しい名物づくりにも取り組む必要がある。

市の行政運営に対する意見書

津市総合計画前期基本計画中間見直しを審議する中で、久居地域の地域かがやきプログラム以外に下記のとおり意見がありましたので報告します。

記

参加と協働のまちづくりの推進

今後の市政運営に当たっては、市民と行政間の情報格差を是正すべく、情報共有をさらに推進し、市行政全般において市民の参加と協働に取り組むよう積極的に進められたい。

また、市民が自主的に活動を立ち上げるには多大な労力を要するため、市民活動の立ち上げや活動への参加誘導に対する支援には、特に重点的に取り組まれたい。

平成 22 年 12 月 14 日

津市長 松田 直久 様

河芸地区地域審議会
会長 内山 則夫

津市総合計画前期基本計画中間見直しに係る意見書の提出について

平成 22 年 11 月 26 日付、津市政第 568 号で依頼のありました、当審議会の実施に係る「地域かがやきプログラム」の進行管理に関する意見書を下記のとおり取りまとめましたので報告します。

なお、「津市総合計画前期基本計画中間見直し」に当たっては、意見を十分に尊重して取り組まれますよう要望します。

記

地域かがやきプログラム

1. 知の拠点としての情報発信

(1) 地域ブランドの情報発信 (道の駅・特産品開発)

国道 23 号中勢バイパス津(河芸)工区に予定されている道の駅の整備促進にあわせて、地域情報発信拠点及び農林水産物等の流通促進施設として、「道の駅」拠点づくりに取り組んでおりますが、道の駅がトイレ休憩だけの通過点にならないよう工夫していくことが課題であり、その為には地元主導の運営に取り組んでいくことが必要であります。

早期に特産品開発や産直に対するコンセプトを明確に進めていくことが重要だと思われまます。

2. 地域を担う人づくり

(1) 多様な人材の育成 (地域リーダー養成塾)

公民館を中心とした社会教育施設や河芸庁舎などの公共施設を活用し、市内及び近隣の大学と連携した生涯学習講座や、各分野において専門的な知識を有する市民による講座等の開設により、地域社会における問題解決や支え合いの仕組みを担う多様な人材育成を図りますが、地域リーダー養成塾については、方針が不明瞭であり、講座の受講生が少ないことに対する対策が

必要であると考えられる。

また、地域というものをもっとよく見て河芸だけでなく、広く津市全体で取り組む必要があるのではないか。大学の教授などの講義ばかりでなく、地元や各団体の代表者等に講義をしてもらうなどの手法も取り入れていく必要がある。

(2) スポーツ・レクリエーションを通じた生きがいづくり

(マレット教室&大会・小中学生スポーツ教室・各種大会・体育祭)

市民の誰もが気軽に参加できるスポーツ・レクリエーションイベントの開催など、市民の参加及び交流の場を提供することで、スポーツやレクリエーションを通じた心豊かで生きがいのある暮らしを応援し、河芸町民の森公園内における施設整備・充実に取り組んでおりますが、河芸地域においてスポーツ教室は小中学生が対象となっており、今後はもっと幅広い年齢層、多種目を検討するべきである。

スポーツ大会等では、一部の人や団体で自己満足していないか。スポーツクラブに属さない子どもたちにも配慮が必要であり、もっと参加を募れるよう広報等に力を入れるべきである。

(3) 多文化共生の地域づくり (多文化共生推進事業)

国際化が進むなか、本市の人口の約 3.1 パーセントを占める外国籍市民との交流を推進し、文化や習慣等の異なる人たちが、互いの違いを認め合い、共に共生できる地域社会を形成していくため、相互交流イベントなどを通じて国際理解のある地域づくりを進める中で、河芸地区につきましては、多文化共生の地域モデルとして、外国人児童及び保護者への支援事業に取り組んできました。

基本は外国籍市民が地域に受け込み、生活トラブルを回避することが目的であると考えますが、多文化共生事業と言いながら日本人の上から目線の発想が少なからず含まれ、今後はお互いが同じ場所で学べるような方向で取りくんでいくべきであると考えます。

また、国際理解のある地域づくりということで、河芸地区や香良洲地区だけでなく津市全体で考えるべき事業であると思われれます。

3.地域連携による交流の推進

(1) 伝統文化の伝承と賑わいの創造 (「江」イベント等)

「江～姫たちの戦国」ということで、江にちなんだイベントを初めて開催したが、もっと華やかでインパクトがあるものにできなかったのか。

開催場所については、分かりづらかったため、駅から本城山までの案内板等を早急に手配し、1月の放映後の来場に間に合わせる必要がある。

たくさんの来場者を募れるようなイベントにするため、もっと工夫が必要であり、全市を挙げてPRしていく取り組みが不足していると考えられる。

3 地域かがやきプログラム

1 知の拠点としての情報発信

(4) 地域ブランドの情報発信

(政策財務部、農林水産部、商工観光部、河芸総合支所ほか)

前期基本計画における目標

国道 23 号中勢バイパス津（河芸）工区に予定されている道の駅の整備促進にあわせて、地域情報発信拠点及び農林水産物等の流通促進施設として、「道の駅」拠点づくりを進めます

課題

道の駅がただの通過点にならないように工夫していくことが課題であります。

今後の取り組み

ただの通過点にならないように、道の駅を地元主導の運営に取り組んでいくことが必要であり、産直に対するコンセプトを明確に進めて行くことが大事であります。

3 地域かがやきプログラム

2 地域を担う人づくり

(1) 多様な人材の育成

(教育委員会、教委久居事務所ほか)

<p>前期基本計画における目標</p> <p>公民館を中心とした社会教育施設や、津センターパレス、河芸庁舎、ポルタひさい、サンデルタ香良洲などの公共施設を活用し、市内及び近隣の大学と連携した生涯学習講座や、各分野において専門的な知識を有する市民による講座等の開設により、地域社会における問題解決や支え合いの仕組みを担う多様な人材の育成を図るとともに、施設の有効活用を図ります。</p>
<p>課題</p> <p>基礎入門編から応用実践編へどのように繋げて行くのか、プログラムの内容が検討課題であります。</p>
<p>今後の取り組み</p> <p>地域リーダー養成塾</p> <p>講義や事例発表等を交えて、地域リーダーとしての基礎的知識技能を取得しますが、地域というものをもっとよく見て養成塾としての方針を明確にするべきであります。</p> <p>行政のPR不足と講座の募集タイトルが重く受け止められたことにより、講座の受講生が少なかった。今後は大学の教授などの講義ばかりでなく、身近な各団体等の代表者に講義をしていただく手法も取り入れて行く必要があります。</p>

3 地域かがやきプログラム

2 地域を担う人づくり

(2) スポーツ・レクリエーション等を通じた生きがいつくり

(スポーツ文化振興部、建設部、河芸総合支所、香良洲総合支所ほか)

前期基本計画における目標

市民の誰もが気軽に参加できるスポーツ・レクリエーションイベントの開催など、市民の参加及び交流の場を提供することで、スポーツやレクリエーションを通じた心豊かで生きがいのある暮らしづくりを応援します。

河芸町民の森公園内及びサンデルタ香良洲周辺における施設の整備・充実に取り組むとともに、市民が気軽に利用できるよう市民ニーズに応じた各種スポーツ・レクリエーション活動の促進を図ります。

課題

レッ津・スポー津・レクリエーション事業

未来を担う子どもたちの可能性を引き出すための教室をどのように取り入れて行くかが課題であります。

今後の取り組み

スポーツ・レクリエーションを通じ、市民交流の促進やスポーツ人口の増大とスポーツ関係団体のネットワーク化などを目標に取り組んでいますが、一部の人や団体で自己満足しているところがあり、教室は子どもだけでなく幅広い年齢層、多種目で実施していくことが必要であります。

また、スポーツクラブに属さない子どもたちにも配慮し、もっと参加を募れるよう広報等に力を入れるべきであります。

3 地域かがやきプログラム

2 地域を担う人づくり

(3) 多文化共生の地域づくり

(教育委員会、市民部、教委河芸事務所)

前期基本計画における目標	
	<p>国際化が進むなか、本市の人口の約3.1%を占める外国籍市民との交流を推進します。</p> <p>文化や習慣等の異なる人たちが、互いの違いを認め合い、共に共生できる地域社会を形成していくため、相互交流イベントなどを通じて、国際理解のある地域づくりを進めます。</p>
課題	
今後の取り組み	
	<p>共生事業と言いながら、日本人の上から目線の発想であり、自分たちも外国の言葉を覚えて行くという、お互いが同じ場所で学べるような方向で取り組むべきであります。</p> <p>また、河芸地区だけでなく、津市全体で考えるべき事業であると考えます。</p>

3 地域かがやきプログラム

3 地域連携による交流の推進

(2) 伝統文化の伝承と賑わいの創造

(教育委員会、教委香良洲事務所、教委河芸事務所)

前期基本計画における目標	古くから各地域に受け継がれ、県の無形民俗文化財に指定されている「唐人踊」や「香良洲町の宮踊」など長い歴史と伝統に培われた伝統行事を活かした賑わいの空間の創出と、地域を支える人づくりを進めます。
課題	「江」イベント事業 イベントについて、初めてであったが、もっとインパクトがあるような賑わいの創造ができなかった。
今後の取り組み	たくさんの来場者を募れるようなイベントにするために、もっと工夫が必要であり、全市を挙げてPRしていく取り組みが不足しています。

平成23年1月14日

津市長 松田直久様

芸濃地区地域審議会
会長 鈴木宗男

津市総合計画前期基本計画中間見直しに係る意見書の提出について

貴職におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素は、新津市の振興・発展、また、市民生活の安全・安心・安寧のためにご尽力いただき、感謝申し上げます。

さて、平成22年11月26日付、津市政第568号をもって依頼のありました、当審議会の実施に係る「地域かがやきプログラム」の進行管理に関する意見を下記の通りとりまとめましたので、ご高覧賜り、今後の計画推進及び後期基本計画策定の参考に供していただければ幸いです。

記

地域かがやきプログラム

1 自然・歴史散策コースの整備について

龍王桜マラソン&ウォーキング事業について、エリア内へより一層事業参加を求め、エリアとして一体感を生む取り組みを検討されたい。

2 新たな観光交流の創出について

Geino X'mas 事業や自慢できる美里地域づくり事業など、同じ時期に開催されるイベントを相互に盛りたてていくような取り組みを検討されたい。

3 森と湖の環境整備について

落合の郷等の施設において、親子が自然にふれ、親しめる施設として、より魅力あふれる施設の利用方法等を検討されたい。

1 スポーツ・レクリエーション活動の促進

(2) 自然・歴史散策コースの整備

(芸濃総合支所、美里総合支所ほか)

前期基本計画における目標	
	<p>・ 錫杖湖周辺の自然や石山観音、長野城跡、伊勢別街道等の歴史資源を活かしウォーキングコースの整備や構築を進め、健康増進や市民間交流を目的としたウォーキングイベント等の開催などを通じて、レクリエーション活動の促進を図ります。</p>
課題	<p>龍王桜マラソン&ウォーキング事業について、北部エリアとしての一体感を生むための取り組みを検討されるべきでは。</p>
今後の取り組み	
	<p>ボランティアガイド団体等と連携しながら、ウォーキングコースの整備を図り、地域の魅力を紹介するガイド団体の活動を支援する取り組みが必要である。</p> <p>今後も継続してウォーキングコース整備に取り組むとともに、北部エリア各地域内の散策コース（芸濃町椋本コースや安濃町明合古墳コースなど）と連携させた一体的なコース設定・PR等の取り組みが必要である。</p> <p>龍王桜マラソン&ウォーキング事業について、安濃・美里地域への参加PRにより一層努め、美里の龍神太鼓等に出演を依頼するなど、エリアとして一体感を生む取り組みを検討し、持続（継続）可能な事業を目指して欲しい。</p>

3 地域かがやきプログラム

2 地域産業振興の拠点づくり

(1) 新たな観光交流の創出

(芸濃総合支所、美里総合支所ほか)

前期基本計画における目標	<ul style="list-style-type: none">・地産地消施設である美里フラワービレッジの機能拡充を支援し、イベントや芋掘り、山菜取り等の農業体験ツアー等との連携、特産品レストランの開設、来訪客への観光情報の提供などを通じて、集客の拡大や地元農産物の販売を促進します。・地域が主体となって観光モデルコースを創設するなど、新たな観光交流の創出に取り組みます。
課題	Geino X' mas 事業や自慢できる美里地域づくり事業など、同じ時期に開催されるイベントを相互に盛りたてていくような取り組みを検討されるべきでは。
今後の取り組み	<p>Geino X' mas 事業や自慢できる美里地域づくり事業などのように、クリスマスの時期に開催されている市内のイベント（美里のイルミネーション・津なぎさまちイメージアップ事業のライトアップ）を対象とし、周遊バスを運行させるなど、一体感を持たず取り組みを検討して欲しい。</p> <p>地域の伝統・文化等の資源を活かした地域・市民の活動を支援し、観光交流、世代間交流および地域間交流の機会を提供することで、地域のコミュニティ活動や産業等の活性化を目指すべきである。</p> <p>安濃花火大会、美里夏まつり、芸濃クリスマスなど、地域が主体となって実施する事業を支援するとともに、この地域の魅力を県内外に情報発信し、観光交流を促進する必要がある。</p>

3 地域かがやきプログラム

3 自然と親しむ環境づくり

(3) 森と湖の環境整備

(芸濃総合支所ほか)

前期基本計画における目標	・落合の郷、ふれあい公園、錫杖ヶ岳、錫杖湖畔キャンプ場などがある錫杖湖周辺を「森と湖の自然公園」と捉え、来訪者が手軽に自然を感じられるような環境整備に努め、地域の魅力を高め、集客を拡大することで地域の活性化を促進します。
課題	<p>落合の郷等の施設において、親子が自然にふれ、親しめる施設として、より魅力あふれる施設の利用方法等を検討されるべきでは。</p> <p>錫杖ヶ岳は、登山客が多く訪れることから、より安全に登山できるよう、案内看板等の充実に努められるべきでは。</p>
今後の取り組み	錫杖湖畔周辺における施設の一体的な利用を検討し、より多くの人が利用しやすい環境整備に努めて欲しい。

平成23年1月14日

津市長 松田 直久 様

美里地区地域審議会
会長 高岡 俊明

津市総合計画前期基本計画中間見直しに係る意見書の提出について

貴職におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素は、美里地区の地域づくりのために格別の御尽力を賜っておりますことに、深くお礼申し上げます。

さて、平成22年11月26日付、津市政第568号をもって依頼のありました、当審議会の実施に係る「地域かがやきプログラム」の進行管理に関する意見を下記の通りとりまとめましたので、ご高覧賜り、今後の計画推進及び後期基本計画策定の参考に供していただければ幸いです。

記

地域かがやきプログラム

1 自然・歴史散策コースの整備について

美里地域の自然や歴史遺産を活用し、今後も継続してウォーキングコース整備に取り組むとともに、ウォーキングコースのPRに努められたい。

2 新たな観光交流の創出について

地元農産物や特産品の生産・販売促進のための支援を行い、地産地消の推進及び地域農業の振興を図られたい。また地域の観光資源と連携し、観光交流の推進に努められたい。

3 経ヶ峰の自然がはぐくむ交流と健康づくりについて

経ヶ峰がより一層市民に親しまれるよう、北部エリア3地域が連携して豊かな自然を守り、魅力ある観光資源としてハイキングコースの整備に努められたい。

4 美里水源の森の整備について

里山を生かした自然を体験できる癒しの場として、また水源保護、環境保全を啓発する場としての利活用を期待する。具体的な整備計画の策定を進め、長期的な視野で水源の森づくりに取り組まれたい。

1 スポーツ・レクリエーション活動の促進

(2) 自然・歴史散策コースの整備

(芸濃総合支所、美里総合支所ほか)

前期基本計画における目標	・ 錫杖湖周辺の自然や石山観音、長野城跡、伊勢別街道等の歴史資源を活かしウォーキングコースの整備や構築を進め、健康増進や市民間交流を目的としたウォーキングイベント等の開催などを通じて、レクリエーション活動の促進を図ります。
課題	美里地区内のウォーキングコースについて、もっとPRが必要。案内板、駐車場や屋外トイレの数も少ない。コースを紹介するパンフレットも無い。
今後の取り組み	ボランティアガイド団体等と連携しながら、ウォーキングコースの整備を図り、地域の魅力を紹介するガイド団体の活動を支援する取り組みが必要である。 今後も継続してウォーキングコース整備に取り組むとともに、北部エリア各地域内の散策コース（芸濃町椋本コースや安濃町明合古墳コースなど）と連携させた一体的なコース設定・PR等の取り組みが必要である。

3 地域かがやきプログラム

2 地域産業振興の拠点づくり

(1) 新たな観光交流の創出

(芸濃総合支所、美里総合支所ほか)

前期基本計画における目標	<ul style="list-style-type: none">・地産地消施設である美里フラワービレッジの機能拡充を支援し、イベントや芋掘り、山菜取り等の農業体験ツアー等との連携、特産品レストランの開設、来訪客への観光情報の提供などを通じて、集客の拡大や地元農産物の販売を促進します。・地域が主体となって観光モデルコースを創設するなど、新たな観光交流の創出に取り組みます。
課題	<p>美里フラワービレッジが法人（株式会社）化したことにより、財政的な支援は難しいが、イベント開催への協力、観光情報の提供などの支援は引き続き必要とされるところである。</p>
今後の取り組み	<p>美里地域の地産地消を促進し、地元農産物や特産品の販売を促進していく。また拠点となる施設に対しては観光情報の提供やイベント開催への助言を行うなど、集客の拡大を図るべきである。</p> <p>地域の伝統・文化等の資源を活かした地域・市民の活動を支援し、観光交流、世代間交流および地域間交流の機会を提供することで、地域のコミュニティ活動や産業等の活性化を目指すべきである。</p> <p>安濃花火大会、美里夏まつり、芸濃クリスマスなど、地域が主体となって実施する事業を支援するとともに、この地域の魅力を県内外に情報発信し、観光交流を促進する必要がある。</p>
その他（前期基本計画における見直しについて）	<p>美里フラワービレッジの固有名称を削り、「地元農産物の生産と販売を活性化し、地産地消施設の利用拡大を図ります。併せて、地産地消施設におけるイベントや芋掘り、山菜取り等の農業体験ツアー等との連携、来訪客への観光情報の提供を通じて、この地域への集客の拡大を促進します。」とする。</p>

3 地域かがやきプログラム

3 自然と親しむ環境づくり

(2) 美里水源の森の整備

(美里総合支所、水道局)

<p>前期基本計画における目標</p> <ul style="list-style-type: none">・ 水源かん養林等を活かしたセラピーロードを設定し、癒しの場となる水源の森の整備を進めます。・ 体力や体調などに合わせて選べる複数のセラピーロードを設け、歩道、階段、橋などを整備し、憩いの空間の創出を図ります。
<p>課題</p> <p>現況は休耕田に草が生えているだけで魅力に乏しい。都会の人から見て魅力のある里山の環境を整えるという方向で整備すべきである。</p> <p>計画策定時から事業が進んでいないように思われるが、多大な資金を投入するだけの効果があるかどうか。一度に整備を行うような事業ではないので長期的な視野で進めてほしい。</p>
<p>今後の取り組み</p> <p>水源かん養林としての機能を高めつつ、里山の自然を体験できる癒しの場としての水源の森整備を進められたい。また片田貯水池、片田浄水場、水道取水口など、水道関連施設と連携し、水源保護、環境保全を啓発する場としての活用を図る必要がある。</p>
<p>その他（前期基本計画における見直しについて）</p> <p>上記の「今後の取り組み」の内容とします。</p>

平成23年1月14日

津市長 松田 直久 様

安濃地区地域審議会
会長 石見 隆浩

津市総合計画前期基本計画中間見直しに係る意見書の提出について

貴職におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素は、安濃地区の地域づくりのために格別のご尽力を賜っておりますことに、お礼申し上げます。

さて、平成22年11月26日付、津市政第568号をもって依頼のありました、当審議会の実施に係る「地域かがやきプログラム」の進行管理に関する意見を下記のとおりまとめましたので、ご賢察賜り、今後の計画推進の参考に供していただければ幸いです。

記

地域かがやきプログラム

1 スポーツ・レクリエーション拠点の形成

スポーツ施設の整備・充実とともに、既存施設の今後の活用をソフト面から検討する必要があることから、北部エリア3地域で連携したスポレク大会等を開催する会場としての活用を図られたい。

また、安濃中央総合公園及びその周辺における環境づくりについて、雑木林や小川、田んぼ、湿地帯等があり、さまざまな生物が住んでいるような自然豊かな環境づくりを目指されたい。

2 自然・歴史散策コースの整備

安濃地域としても、ボランティアガイド団体等によって設定された、明合古墳や大名塚古墳等の歴史の地を巡るコースがあるため、ボランティアガイド団体等と連携しながら、ウォーキングコースの整備を図り、地域の魅力を紹介するガイド団体の活動の支援に取り組まれたい。

3 地域産業振興の拠点づくり

安濃地域として、地域・文化等の資源を活かした地域・市民の活動を支援し、観光交流、世代間交流および地域間交流の機会を提供することで、地域のコミ

コミュニティ活動や産業等の活性化を目指されたい。

4 経ヶ峰の自然がはぐくむ交流と健康づくり

経ヶ峰や北部エリアの認知度を高めるために、地域の物産販売やシティマラソンと同時開催等、経ヶ峰ハイキング事業と色々な事業とのリンクを検討されたい。また、歴史的資源やあのを温泉の組み合わせを検討されたい。

四季折々に楽しめる景観や野鳥観察、植物観察等が可能な環境整備を行うにあたり、ボランティア団体等への支援等を図られたい。

新たなハイキングコースとして、安濃川河畔散策や長谷山ハイキングとの連携を図り、さらなる市民の憩いの場としての魅力の向上を図られたい。

3 地域かがやきプログラム

②北部エリア～都市や自然と共存するふれあいの里づくり～

1 スポーツ・レクリエーション活動の促進

(1) スポーツ・レクリエーション拠点の形成

(スポーツ文化振興部、安濃総合支所)

前期基本計画における目標

安濃中央総合公園及びその周辺において、より大規模なスポーツ大会が開催できるよう、スポーツ施設の整備・充実に取り組むとともに、スポーツ・レクリエーションを通じた交流の拡大を図ることで市民のスポーツ活動を促進し、市内のスポーツ人口を増やします。

芝生広場周辺における花いっぱい運動等の取り組みを通じて、公園周辺の環境整備を図り、市民の憩いの場を創出します。

課題

公園周辺において、生物多様性を観察できよう環境づくりが必要である。

スポーツ施設の整備・充実について、既存の施設を今後どのように活用し発展させていくかというソフト面の施策等が必要ではないか。

今後の取り組み

北部エリアで連携しながら、安濃、芸濃、美里の各地域のチーム・個人が参加し交流するスポレク大会を行い、その会場としての活用を図るべきである。

公園周辺において、雑木林や小川、田んぼ、湿地帯等があり、さまざまな生き物が住んでいるような自然豊かな環境づくりを目指して欲しい。

1 スポーツ・レクリエーション活動の促進

(2) 自然・歴史散策コースの整備

(芸濃総合支所、美里総合支所ほか)

前期基本計画における目標	・ 錫杖湖周辺の自然や石山観音、長野城跡、伊勢別街道等の歴史資源を活かしウォーキングコースの整備や構築を進め、健康増進や市民間交流を目的としたウォーキングイベント等の開催などを通じて、レクリエーション活動の促進を図ります。
課題	安濃地域としても、ボランティアガイド団体等によって設定された、明合古墳や大名塚古墳等の歴史の地を巡るコースがあるが、PRが足りない。
今後の取り組み	ボランティアガイド団体等と連携しながら、ウォーキングコースの整備を図り、地域の魅力を紹介するガイド団体の活動を支援する取り組みが必要である。 今後も継続してウォーキングコース整備に取り組むとともに、北部エリア各地域内の散策コース（芸濃町棕本コースや安濃町明合古墳コースなど）と連携させた一体的なコース設定・PR等の取り組みが必要である。
その他（前期基本計画における見直しについて）	所管部署に「安濃総合支所」を加える。 「石山観音、長野城跡、伊勢別街道等」を「石山観音、長野城跡、伊勢別街道、明合古墳等」とする。

3 地域かがやきプログラム

2 地域産業振興の拠点づくり

(1) 新たな観光交流の創出

(芸濃総合支所、美里総合支所ほか)

前期基本計画における目標	<ul style="list-style-type: none">・地産地消施設である美里フラワービレッジの機能拡充を支援し、イベントや芋掘り、山菜取り等の農業体験ツアー等との連携、特産品レストランの開設、来訪客への観光情報の提供などを通じて、集客の拡大や地元農産物の販売を促進します。・地域が主体となって観光モデルコースを創設するなど、新たな観光交流の創出に取り組みます。
課題	<p>安濃地域として、伝統・文化等に資源を活かした地域・市民の活動を支援する必要があるのではないか。</p>
今後の取り組み	<p>地域の伝統・文化等の資源を活かした地域・市民の活動を支援し、観光交流、世代間交流および地域間交流の機会を提供することで、地域のコミュニティ活動や産業等の活性化を目指すべきである。</p> <p>安濃花火大会、美里夏まつり、芸濃クリスマスなど、地域が主体となって実施する事業を支援するとともに、この地域の魅力を県内外に情報発信し、観光交流を促進する必要がある。</p>

3 地域かがやきプログラム

3 自然と親しむ環境づくり

(1) 経ヶ峰の自然がはぐくむ交流と健康づくり

(安濃総合支所)

<p>前期基本計画における目標</p>	<ul style="list-style-type: none">・地域の財産である経ヶ峰の豊かな自然や周辺の史跡を活かし、ハイキングや森林浴などを通じて市民の交流と健康増進を図るとともに、経ヶ峰を通して森林保全に対する市民意識の醸成を促進します。・ハイキングに歴史的資源や温泉（安濃交流会館内）を組み合わせ、新たなハイキングコースを設定することで、さらなる市民の交流と憩いの場としての魅力の向上を図ります。
<p>課題</p>	<p>経ヶ峰のPRについて、パンフレットを作成して置いてあるだけで、認知度が広まっているとは限らない。またそれが観光として一つの事業・経済効果として成していくのか課題である。</p> <p>経ヶ峰登山の魅力として、眺望以外の新たな魅力づくりが課題である。</p>
<p>今後の取り組み</p>	<p>経ヶ峰や北部エリアの認知度を高めるために、例えば地域の物産を販売したり、シティマラソンと同時に経ヶ峰ハイキングを開催する等、いろんな事業とのリンクを検討すべきである。</p> <p>経ヶ峰ハイキングに歴史的資源やあとう温泉の組み合わせを検討すべきである。</p> <p>四季折々に楽しめる景観や、野鳥観察、植物観察等ができるような環境整備を行うにあたり、ボランティア団体等への支援等を検討する必要があります。</p>
<p>その他（前期基本計画における見直しについて）</p>	<p>新たなハイキングコースとして、安濃川河畔散策や長谷山ハイキングとの連携を図り、さらなる市民の交流と憩いの場としての魅力の向上を図ります。</p>

平成 23 年 1 月 17 日

津市長 松田 直久 様

香良洲地区地域審議会
会長 松島 昇

津市総合計画前期基本計画中間見直しに係る意見書の提出について

このことについて、本会議で慎重に審議を行った結果、下記のとおり意見を取りまとめましたので報告します。

今後の総合計画に基づく行政運営、また後期基本計画の策定に当たっては、別添の「津総合計画前期基本計画の中間見直しに対する意見書」の意見を十分尊重して取り組まれるようお願いいたします。

記

地域かがやきプログラム

2 地域を担う人づくり

(2) スポーツ・レクリエーション等を通じた生きがいづくり

市民の誰もが気軽に参加できるスポーツ・レクリエーションイベントの開催など、市民の参加及び交流の場を提供することで、心豊かな生きがいのある暮らしづくりを応援するとなっておりますが、特定の参加者が多いパターゴルフ大会や町内運動会などを単に開催するだけで、心豊かな生きがいのある暮らしづくりに寄与しているのだろうかと考えます。また、パターゴルフ大会は参加者数の伸びも少ないため、もっと市民の参加を募る PR 方法や交流の場づくりを検討する必要があります。

3 地域連携による交流の推進

(2) 伝統文化の伝承と賑わいの創造

香良洲地区における「宮踊り」及び「獅子舞事業」は古くから受け継がれ、長い歴史と伝統に培われた伝統行事であり、中でも「宮踊り」は約 350 年前から続いており県の無形民俗文化財に指定されております。しかしながら一番の担い手である若者が減少してきております。これでは、伝統行事を活かした賑わいの空間の創出と地域を支える人づくりをしていく

取り組みが出来なくなります。

今後は持続的な継承者育成の方法の検討、また参加者数の減少に対して他地区からも参加出来る仕組みを検討し、もっと積極的に発信していく必要があります。

(3) 海を活かした交流の推進

河芸地域から香良洲地域まで連なる市域で唯一の「海」を活かし、地域が連携した環境保全活動などにより安らぎを与え、潮干狩り、たて干し、地引網などの観光漁業を企画推進し、海の魅力を提供するという目標に基づき香良洲地域では、ふれあいのかおり事業を通じ取り組んでいるところであるが、以前よりも地域外からの参加者が多くなってきている。これは良い事だと考えるが、その分地域住民同士のふれあい、一体感が減ってきているように思います。その辺りを検討し、津の長い海岸線をもっと生かした、一体感のある企画の推進やそれに伴う PR 方法を検討する必要があります。

(4) ユニバーサルデザインのモデル地域づくり

市民及び地域の自主的な活動団体等との連携のもと、ユニバーサルデザイン推進モデル地区として小中学校、企業などを対象にした研修講座の開催、他地域への取り組みの浸透及び自主的な活動団体等とのネットワーク構築の支援を推進していますが、ソフト（研修講座等）面については、かなりの取り組みをしていただけていますが、推進モデル地区としてハード（道路、建物等）の面の普及が必要であります。また、もっと全市民的に浸透させる取り組みを考えるべきです。

3 地域かがやきプログラム

2 地域を担う人づくり

(2) スポーツ・レクリエーション等を通じた生きがいづくり

(スポーツ文化振興部、建設部、河芸総合支所、香良洲総合支所ほか)

前期基本計画における目標

市民の誰もが気軽に参加できるスポーツ・レクリエーションイベントの開催など、市民の参加及び交流の場を提供することで、スポーツやレクリエーションを通じた心豊かで生きがいのある暮らしづくりを応援します。

河芸町民の森公園内及びサンデルタ香良洲周辺における施設の整備・充実に取り組むとともに、市民が気軽に利用できるよう市民ニーズに応じた各種スポーツ・レクリエーション活動の促進を図ります。

課題

パターゴルフ大会・体育祭事業

パターゴルフ大会は市民が対象のはずであるが、参加者が特定の方ばかりで参加者数の伸びが少ないため、増加に向けての周知、PR方法が課題であります。

また、パターゴルフや体育祭を開催するだけで、住民に対する心豊かな生きがいのある暮らしづくりに寄与しているのか。

今後の取り組み

もっと市民の参加を募るPR方法や交流の場づくりを検討する必要があります。

3 地域かがやきプログラム

3 地域連携による交流の推進

(2) 伝統文化の伝承と賑わいの創造

(教育委員会、教委香良洲事務所、教委河芸事務所)

<p>前期基本計画における目標</p> <p>古くから各地域に受け継がれ、県の無形民俗文化財に指定されている「唐人踊」や「香良洲町の宮踊」など長い歴史と伝統に培われた伝統行事を活かした賑わいの空間の創出と、地域を支える人づくりを進めます。</p>
<p>課題</p> <p>宮踊り・獅子舞事業</p> <p>一番の担い手となる若者が、結婚すると町から出て行き、必要な20代後半から40代の継承者が減っています。</p> <p>宮踊りは、一定の地区での事業ですが、他の地区ももっと参加し、地域を支える人づくりに取り組むことが課題であります。</p>
<p>今後の取り組み</p> <p>持続的な継承者育成の方法を検討し、他の地区ももっと参加できる仕組みを検討し、もっと積極的に情報を発信していく必要があります。</p>

3 地域かがやきプログラム

3 地域連携による交流の推進

(3) 海を活かした交流の推進

(環境部、商工観光部、農林水産部、河芸総合支所、香良洲総合支所ほか)

<p>前期基本計画における目標</p> <p>河芸地域から香良洲地域まで連なる市域で唯一の「海」を活かし、地域が連携した環境保全活動などによる安らぎを与える空間づくりに努めます。</p> <p>潮干狩り、たて干し、地引網など観光漁業を企画推進し、海の魅力を提供します。</p>
<p>課題</p> <p>ふれあいのかおり事業</p> <p>旧香良洲町では、行政の関わりが大きかったことから、地域住民の一体感は現在よりも強かったが、津市になってからは、地域外からの参加者が多くなってきたのは良いことかも知れない分、地域住民同士のふれあいが、減ってきている気がします。そのあたりについて検討すべきです。</p>
<p>今後の取り組み</p> <p>津の長い海岸線をもっと生かした、一体感のある企画の推進やそれに伴うPR方法を検討する必要があります。</p>

3 地域かがやきプログラム

3 地域連携による交流の推進

(4) ユニバーサルデザインのモデル地域づくり

(政策財務部、香良洲総合支所ほか)

<p>前期基本計画における目標</p> <p>ユニバーサルデザインの取組が活発である香良洲地域において、サンデルタ香良洲を拠点に、市民との協働のもと、ユニバーサルデザインマップの作成や、小中学校、企業などを対象にした研修講座等を開催します。</p> <p>市民及び地域の自主的な活動団体等との連携のもと、ユニバーサルデザイン推進のモデル地区としての取組を進めるとともに、他の地域への取組の浸透及び自主的な活動団体等とのネットワーク構築を支援します。</p>
<p>課題</p> <p>ソフト（講演等）面については、かなりの取り組みをしていただいています。推進のモデル地区としてのハード（道路、建物等）の面が普及されていないのでは。</p>
<p>今後の取り組み</p> <p>ソフト面の取り組みは認めるが、それでも一般市民への浸透があまり無いように見える。もっと全市的に浸透させるような取り組みを考えるべき。</p>

平成23年 1月14日

津市長 松田 直久 様

一志地区地域審議会
会長 豊田 千春

津市総合計画前期基本計画中間見直しに係る意見書の提出について

貴職におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

また、平素は市行政にご尽力賜っておりますこと深く敬意を表します。

平成22年11月26日付津市政第568号により依頼のありました標題の件につきまして、一志地区地域審議会において審議を行いました。

つきましては別紙のとおり意見書を提出いたしますので、当審議会の意見として地域かがやきプログラムに反映して頂きたく、よろしくお願い申し上げます。

～ “みのり” と “ぬくもり” の郷（さと）づくり～

1 温泉リフレッシュゾーンの魅力アップ

(1) 温泉利用客誘致への魅力アップ

(活力ある温泉ゾーン形成事業)

前期基本計画における目標
榊原温泉、猪の倉温泉、とことめの里一志などのエリア内の温泉資源を有効に活用するとともに、周辺環境整備や情報発信を強化し、温泉利用客の拡大を図ります。
現状の取組
「温泉と四季の花」ふれあいの里事業 「とことめの里いちし」前の休耕田を使った景観事業。通年に渡り、こすもす、ひまわり等の植栽をして、温泉客の集客を図る。
課題
・近年の経済不況や観光ニーズの多様化により温泉施設の利用者数も減少傾向となっている。 ・事業と温泉の利用拡大をどう結び付けていくかが一つ課題です。
意見
別紙

～ “みのり” と “ぬくもり” の郷（さと）づくり～

2 食のブランド化

(1) 地産地消の促進

前期基本計画における目標
<ul style="list-style-type: none">・新鮮で安心な地元農産物の直売所の拡大を図り、消費者と生産者の信頼関係を構築するとともに、消費者に信頼される生産者グループを組織化して生産拡大や販売促進を図ります。
現状の取組
地産地消の元気づくり事業 <ul style="list-style-type: none">・小学生高学年を対象にした地産地消を学ぶ「わくわく食農探検隊事業」・幼稚園児等を対象にした地元食材を使った料理体験教室（五平餅づくり）
課題
<ul style="list-style-type: none">・地産地消の元気づくり事業は参加者が減少しており、対策が必要です。
意見
別紙

～ “みのり” と “ぬくもり” の郷（さと）づくり～

3 地域力の維持、再構築

(1) 地域の賑わい、ふれあい交流の場づくり

(地域で支えあう交流の場づくり)

前期基本計画における目標
・空き家など現在使われていない住宅、公民館など既存の公共的施設を活用し、親近感のある気軽な抛りどころの設置を促し、人材確保、地域づくり活動への展開を図ります。
現状の取組
一志ふれあいまつり事業 ・地域の活性化、産業振興の発展に寄与することを目的に歌謡ショー、ミニミニ商店街、特産物の販売を行うふれあいまつり。(11月実施)
一志夏まつり事業 ・ぼんおどり大会(7月に実施)
課題
・夏まつり事業(納涼ぼんおどり大会)については、参加者が減少しており積極的なPRや魅力のある事業を検討していく必要があります。
意見
別紙

～ “みのり” と “ぬくもり” の郷（さと）づくり～

3 地域力の維持、再構築

(2) 隠れた資源の再利用

(美しい河川環境づくり事業)

前期基本計画における目標
<ul style="list-style-type: none">・ 耕作放棄地、使われなくなった自然素材や生活の知恵、流通に乗りにくい手づくり品など隠れた資源の新たな活用策を見出し、地域力の再構築をめざします。
現状の取組
大仰の桜保全事業 <ul style="list-style-type: none">・ 大仰・片山の桜並木の保全事業。花見時の提灯の設営の他、桜の木の管理、河川敷の草刈り、ごみ拾いをして河川環境保全に努める。
課題
<ul style="list-style-type: none">・ 桜の樹勢回復は、短期的取組で出来ることではないので今後も継続して行う必要があります。・ 今後も河川周辺の環境整備に取り組む必要があります。
意見
別 紙

津市総合計画の中間見直しについての意見

○温泉リフレッシュゾーンの魅力アップ

(「温泉と四季の花」ふれあいの里事業)

- ・アンケート等で温泉利用客から積極的に意見を求めて、それに対する施策を実施したらどうか。
- ・「温泉と四季の花」ふれあいの里事業のような景観事業は外からの施策だが、外からの施策をするだけではとことめの里一志はよくなるので、内部から変えていく必要があるのではないか。
- ・一志温泉について、客動員等についての目標を設定して運営にあたってはどうか。
- ・一志温泉の運営について、コンサルタントを導入して市場調査を実施してはどうか。
- ・「温泉と四季の花」ふれあいの里事業について、モニュメントやイルミネーションといった1回の投資で済むものに変えるなどして、一度違う方面から見直してみてもどうか。
- ・毎回同じような内容を延々と審議しているので、もっと前向きな審議をしなければならぬと思うが、そのためにはもっと資料をそろえて審議する必要がある。
- ・生産者に協力していただき、地元の農産物をとことめの里一志で販売してはどうか。
- ・少子高齢化が進んでいるので、コミュニティの場として考えてほしい。
- ・利用拡大のためには、小中学校、公民館等の絵画・写真等の展示を行い、広報活動を常に新しいものにしていってはどうか。
- ・「温泉と四季の花」ふれあいの里事業について、刈取前に迷路を創って子どもたちに楽しんでもらう等、イベント活動を充実させて、地域が楽しむことのできる企画運営をしていってはどうか。

○地産地消の促進

(地産地消の元気づくり事業)

- ・地産地消、旬産旬消を推進するために、お母さん方の料理研修等をし、料理の「作り手」を育成したらどうか。
- ・地産地消を推進するために、もっと保護者を巻き込んだPR活動をし、家庭の持っている力を掘り起こしていってはどうか。

○地域の賑わい、ふれあい交流の場づくり

(一志町ふれあいまつり事業、一志夏まつり事業)

- ・一志夏まつり事業は各地区でやったほうが盛り上がると思う。参加と協働という本来の目的からみても、一志夏まつり事業を各地区へおろしたほうがいいのではないか。
- ・少子高齢化により高齢者が社会参加しやすい環境づくりをする必要があるため、高齢者が歩いて参加できる4小学校区の納涼盆おどり大会を復活させてはどうか。PR活動については、学校、PTA、社会福祉協議会、自治会、公民館、老人会等を巻き込んで、小学校の協力のもと、充実した広報活動を行ってはどうか。
- ・夏まつりをとことめの里一志で行う場合は、中学校を解放して駐車場、屋台、カラオケ大会、体育館をお化け屋敷にする等をしてはどうか。大人の補助のもとで中学生や卒業生の実行委員会をつくり、地域全体で楽しめる行事を考えてはどうか。
- ・夏まつりでも、ミニ商店街、特産物の販売等をしてはどうか。
- ・一志町ふれあいまつり事業では、地元の方による軽トラ・ワゴン市、B級グルメ市、フリーマーケット、カラオケ大会、大声大会、防災バケツリレー等、お金をかけず、老若男女が楽しめる企画をしてほしい。

○隠れた資源の再利用

(美しい河川環境づくり事業)

- ・桜の保全活動を次世代へ引き継いでいくことが大切なので、河川環境保全の趣旨を理解して、子どもたちを巻き込んだ持続的な活動をするべき。環境学習をするのであれば、県や市の出前講座を利用したり、小中学校の教師を呼んだり、博物館や環境学習情報センターを利用したりしてはどうか。
- ・企業や団体等にも声をかけて、河川環境の整備を行ったらどうか。

○全体についての意見

- ・インターネットで地域情報を発信するサイトを一志総合支所で運営してはどうか。地域の身近な情報、とことめの里一志の情報、地域の歴史や文化について、花の開花情報、イベントの開催情報などの新鮮で魅力的な情報の発信源となり、ふるさとを離れている人々の貴重な資源となしてほしい。

平成23年1月13日

津市長 松田直久様

白山地区地域審議会
会長 西川正志

津市総合計画前期基本計画中間見直しに係る意見書の提出について

貴職におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

また、平素は市行政にご尽力賜っておりますこと深く敬意を表します。

さて、平成22年11月26日付津市政第568号により依頼のありました標題の件について、当審議会において審議を行いました。

つきましては別紙のとおり提出いたしますので、当審議会の意見として反映いただきたくよろしく申し上げます。

～ “みのり” と “ぬくもり” の郷（さと）づくり～

1 温泉リフレッシュゾーンの魅力アップ

(1) 温泉利用客誘致への魅力アップ

(温泉を活用した健康づくり&ふれあいづくり事業：ふれ愛フェスタ事業)

前期基本計画における目標
榊原温泉、猪の倉温泉、とことめの里一志などのエリア内の温泉資源を有効に活用するとともに、周辺環境整備や情報発信を強化し、温泉利用客の拡大を図ります。
課題
<ul style="list-style-type: none">・ 事業展開に関しては、一過性のイベントではなく白山地域で定着する話題づくりが必要です。・ 白山地域として猪の倉温泉を市内外にどのようにPRしていくか検討することが必要です。
意見
事業はイベントとして行うが、温泉客誘致についてはイベントだけにとどまらずPR方法等検討することが必要です。

※ 地域かがやきプログラム事業としては平成22年度からの事業ですが、地域活動振興事業として事業展開を実施してきました。

～ “みのり” と “ぬくもり” の郷（さと）づくり～

1 温泉リフレッシュゾーンの魅力アップ

(2) 温泉でつなぐふれあいルートの設定

(初瀬街道活性化事業)

前期基本計画における目標
<ul style="list-style-type: none">・ エリアを横断する初瀬街道と並行して走る鉄道の最寄り駅を発着に、猪の倉温泉や、とことめの里一志のほか、歴史、文化資源を組み入れたウォーキングルートを設定します。・ 榊原温泉では、散策ルートのほか車利用を視野に入れた広域的なルートや環境学習をテーマにしたルート設定など、多彩な情報発信に努めます。・ 温泉利用客誘致イベントと連携した複合的なルート活用に努めます。
課題
<ul style="list-style-type: none">・ 初瀬街道には歴史や文化財も沢山あることからウォーキングルートについては、事業として一過性のものではなく誘客のPRが必要です。
意見
<p>事業実施による一過性の集客ではなく、ルートマップを活用した地域の魅力のPRを行うことが必要です。</p> <p>また初瀬街道に限らず、拠点施設を活用したウォーキングルートを新たに設定整備し、集客を行い地域活性化につなげることが必要です。</p>

※ 地域かがやきプログラム事業として、第2回の地域審議会において事務事業評価を受けました「初瀬街道観て歩きマップ」、「垣内宿ののれん」を作製しました。

ウォーキング事業としては、平成22年度から地域かがやきプログラム事業として実施となりますが、平成20年度、21年度は地域活動振興事業により実施しています。

～ “みのり” と “ぬくもり” の郷（さと）づくり～

3 地域力の維持、再構築

(1)地域の賑わい、ふれあい交流の場づくり

前期基本計画における目標
<ul style="list-style-type: none">・ 空き家など現在使われていない住宅、公民館など既存の公共的施設を活用し、親近感のある気軽な拠りどころの設置を促し、人材確保地域づくり活動の展開を図ります。
課題
<ul style="list-style-type: none">・ 白山地域においては、指定管理ではありますが「わかすぎの里」、「リバーパーク真見」の既存施設を活用した地域住民と市内外から訪れる観光客とのふれあい交流の場を提供し、施設のPR、イベント等による交流の場づくり、地域住民の憩いの場となるよう事業展開が必要です。
意見
<ul style="list-style-type: none">・ 指定管理施設に関し、地域かがやきプログラムとしても積極的に施設活用を前提とした取組が必要です。・ 施設に投資するのではなく、事業展開を行うことで地域住民の積極的な施設利用や取組が期待されます。

～ “みのり” と “ぬくもり” の郷（さと）づくり～

3 地域力の維持、再構築

(2) 隠れた資源の再利用

(美しい河川環境づくり事業：亀ヶ広桜保全事業、雲出川家城ライン遊歩道整備事業)

前期基本計画における目標
<ul style="list-style-type: none">・ 耕作放棄地、使われなくなった自然素材や生活の知恵、流通に乗りにくい手づくり品など隠れた資源の新たな活用策を見出し、地域力の再構築をめざします。
課題
<ul style="list-style-type: none">・ 桜の樹勢回復は、短期的取組で出来ることではないので今後も継続して行う必要があります。・ 河川環境整備として、今後も既設遊歩道の保全整備を行うことが必要です。
意見
<ul style="list-style-type: none">・ 今後も継続して河川周辺の環境整備に取り組む必要があります。

※ 事業としては、平成22年度からの新規事業で実施しています。

意見書

平成22年12月21日

津市長 松田直久様

美杉地区地域審議会
会長 岡田 武士

津市総合計画前期基本計画中間見直しに関する意見について

津市総合計画前期基本計画（地域かがやきプログラム南部エリア）中間見直しに関し、次のとおり意見を申し述べます。

記

津市総合計画（地域かがやきプログラム南部エリア）の中間見直しに関する意見
（別紙、意見書のとおり）

津市総合計画前期基本計画（地域かがやきプログラム南部エリア） 中間見直しに関する意見書

美杉地区地域審議会は、津市総合計画（地域かがやきプログラム南部エリア）が、津市過疎地域自立促進計画と一体のものとして位置づけられ、各事業が確実に実行されることにより、地域の振興と発展が図られることを希望いたしますとともに、時代の変化に伴う新たな課題にも的確に対応されるようお願い、次のとおり意見を申し上げます。

- 1 美杉地域は、豊かな自然と歴史と伝統に支えられた文化があり、それらを誇りとして生きる経験豊富な人材もたくさんみえます。
しかしながら、行政をはじめそれぞれの立場の皆さんが様々な対策を講じる中においてもなお、過疎・高齢化が進み、活力が低下するという大変厳しい状況下であり、集落機能の維持は近い将来大変困難になると思います。
については、集落機能の維持、再生のため、格段の施策配慮をお願いいたします。
- 2 現在の異常な獣害は、美杉地域の住民の生活する気力を衰退させています。既にたくさんの獣害対策を講じていただいていることは理解していますが、全市を挙げた抜本的で元気の出る獣害対策をとることが必要であると考えます
- 3 美杉地域に止まらず津市にとりましても貴重な歴史資源であります多気北畠氏城館跡並びに伊勢本街道の保存、活用につきまして、市を挙げての早急な取り組みが必要であると考えます。

(4) 津市総合計画基本計画推進検討委員会関係資料
ア 設置要綱

津市訓第39号

庁中一般
出先機関

津市総合計画基本計画推進検討委員会設置要綱を次のように定める。

平成22年5月20日

津市長 松田直久

津市総合計画基本計画推進検討委員会設置要綱
(設置)

第1条 本市の総合計画基本計画（以下「基本計画」という。）について調査研究を行い、基本計画に係る試案の作成及び基本計画の適切な進行管理を行うため、津市総合計画基本計画推進検討委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(所掌事項)

第2条 委員会の所掌事項は、次のとおりとする。

- (1) 基本計画の進行管理に関する報告案の作成に関すること。
- (2) 前期基本計画の中間見直しに関する報告案の作成に関すること。
- (3) 後期基本計画に係る試案の作成に関すること。
- (4) その他基本計画に係る総合調整に関すること。

(構成)

第3条 委員会は、委員長、副委員長及び委員で構成する。

2 委員長には津市副市長事務分担規則（平成18年津市規則第242号）第2条第1項第1号に規定する副市長を、副委員長には他の1人の副市長をもって充てる。

3 委員には、別表に掲げる職員をもって充てる。

(委員長及び副委員長)

第4条 委員長は、会務を総理する。

2 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 委員会の会議は、必要に応じて委員長が招集し、委員長が議長となる。

2 委員会は、委員の半数以上が出席しなければ、会議を開くことができない。

(意見等)

第6条 委員長は、必要があると認めるときは、関係職員等を会議に出席させ、意見又は説明を求めることができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、政策財務部政策課において処理する。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この訓は、平成22年5月20日から施行する。

別表(第3条関係)

政策財務部長、危機管理部長、総務部長、市民部長、スポーツ文化振興部長、環境部長、健康福祉部長、商工観光部長、農林水産部長、競艇事業部長、都市計画部長、建設部長、下水道部長、水道局次長、消防次長、三重短期大学事務局長、教育委員会事務局教育次長、議会事務局長

イ 開催経過

(ア) 津市総合計画基本計画推進検討委員会

日時	場所	名称	主な内容等
平成22年6月10日	本庁4階庁議室	第1回津市総合計画基本計画推進検討委員会	委員会の設置について、見直しの進め方について、津市まちづくりレポート(素案)について
平成23年3月30日	本庁4階庁議室	第2回津市総合計画基本計画推進検討委員会	平成22年度津市総合計画前期基本計画中間見直し報告書について

(イ) 企画員、地域企画員会議

日時	場所	名称	主な内容等
平成22年4月5日	本庁4階庁議室	第1回企画員、地域企画員会議	津市総合計画前期基本計画中間見直しについて
平成22年4月28日	本庁4階庁議室	第2回企画員、地域企画員会議	津市総合計画前期基本計画中間見直しの進め方について、政策評価まとめ資料の確認について
平成22年5月19日	本庁4階庁議室	第3回企画員、地域企画員会議	まちづくりレポートの素案について
平成22年5月27日	本庁4階庁議室	第4回企画員、地域企画員会議	まちづくりレポートについて
平成22年6月28日	本庁4階庁議室	第5回企画員、地域企画員会議	津市総合計画審議会委員の選任について
平成22年7月28日	本庁4階庁議室	第6回企画員、地域企画員会議	津市総合計画前期基本計画中間見直しの進捗状況について、総合計画の記述の確認について
平成22年8月24日	本庁4階庁議室	第7回企画員、地域企画員会議	津市総合計画前期基本計画中間見直しの進捗状況について、総合計画の記述の確認について
平成22年9月29日	本庁4階庁議室	第8回企画員、地域企画員会議	総合計画審議会の開催状況について、施策取組指標と重点プログラム構成事業との対応について
平成22年10月27日	本庁4階庁議室	第9回企画員、地域企画員会議	総合計画審議会の開催状況について、施策取組指標の取りまとめ結果の確認について
平成22年11月25日	本庁4階庁議室	第10回企画員、地域企画員会議	総合計画審議会の開催状況について、総合計画審議会からの答申案の策定について
平成22年12月22日	本庁4階庁議室	第11回企画員、地域企画員会議	総合計画審議会の開催状況について、総合計画審議会からの答申素案について、部門別計画の策定状況確認について
平成23年1月27日	本庁4階庁議室	第12回企画員、地域企画員会議	総合計画審議会からの答申について、見直し報告書の作成について
平成23年2月17日	本庁4階庁議室	第13回企画員、地域企画員会議	総合計画審議会からの答申について、市議会まちづくり推進調査研究特別委員会からの提言について、見直し報告書の作成について
平成23年3月24日	本庁4階庁議室	第14回企画員、地域企画員会議	平成22年度津市総合計画前期基本計画中間見直し報告書について